

平成 28 年 3 月 31 日

## 平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」結果報告

平成 27 年度名古屋経済大学 FD 委員会

本学では平成 24 年度より「2 年に 1 回は担当科目の授業評価アンケートを実施する」方式を採用し、平成 27 年度は平成 26・27 年度の後半に当たった。教員あるいは学科がアンケート対象科目を選択した。ただし「専門共通基礎 I, II」の 19 科目については両年度とも実施した。前期は 152 科目について、後期は 132 科目について学生による授業評価アンケートを実施した。

平成 26 年度より留学生の入学者が増加していることを考慮し、今年度は属性項目のうちひとつを変更し、アンケートの設問表現および選択肢の表現を変更し、設問の順番も一部変更した。具体的な変更は以下の通りである。

- ①属性項目 C「あなたは何年度入学生ですか」を「あなたは留学生ですか」に変更
- ②すべての設問文を「～だったと思いますか」に変更。
- ③設問 5「この授業の内容は知的関心を引き出すものですか」を「この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか」に変更
- ④設問 1「あなたは、この授業によく出席しましたか」の回答選択肢を変更
  1. 全部出席した
  2. 1－2 回欠席した
  3. 3－4 回欠席した
  4. 5－6 回欠席した
  5. 7 回以上欠席した
- ⑤設問 2～13 の回答選択肢を変更
  1. 強くそう思う
  2. そう思う
  3. どちらともいえない
  4. そう思わない
  5. まったくそう思わない

また、経済学部と経営学部の学生視点結果について、それぞれ「留学生」と「日本人学生」に項目を分けて統計を出し、それぞれの結果については全学で共有した。

前・後期ごとに実施科目の個別結果と科目担当者による改善点を含む考察は学内ホームページに掲載した。学部学科の傾向については FD 委員会が分析し、その内容を教授会に報告した（詳細は以下参照）。

# 名古屋経済大学 授業評価アンケート

科目  
名称

FD委員会

この授業評価アンケートは、学生による授業評価を通して、授業の改善を図るためのものです。学生による回答の秘密は守られ、授業改善のため以外の目的に使用されることはありません。回答が成績評価に影響することは、全くありません。誠実な回答をお願い致します。回答の仕方：この授業について、各質問にお答え下さい。鉛筆で、回答欄をマークして下さい。

- A. あなたの所属している学部・学科はどこですか。** <回答欄>
- 1 : 経済学部・現代経済学科
  - 2 : 経営学部・経営学科
  - 3 : 法学部・ビジネス法学科
  - 4 : 人間生活科学部・教育保育学科
  - 5 : 人間生活科学部・管理栄養学科
  - 6 : 科目等履修生・研究生
- B. あなたは何年生ですか。**
- 1 : 1年生
  - 2 : 2年生
  - 3 : 3年生
  - 4 : 4年生
  - 5 : その他
- C. あなたは留学生ですか。**
- 1 : はい
  - 2 : いいえ
- D. あなたはこの授業のシラバスを読みましたか。**
- 1 : はい
  - 2 : いいえ
- 1. あなたはこの授業によく出席しましたか。**
- 1 : 全部出席した
  - 2 : 1-2回欠席した
  - 3 : 3-4回欠席した
  - 4 : 5-6回欠席した
  - 5 : 7回以上欠席した
- 2. あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 3. この授業はシラバスによっておこなわれたと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 4. 授業内容はわかりやすかったと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 5. この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 6. 教員の教え方には熱意があったと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 7. 授業の速さや進め方は適切だったと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 8. 教科書・配布資料は活用されていたと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 9. 板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 10. 教員の声は聞き取りやすかったと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 11. 一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 12. 教員は授業時間を守っていたと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 13. 複数教員による授業は良かったと思いますか。**
- 1 : 強くそう思う
  - 2 : そう思う
  - 3 : どちらともいえない
  - 4 : そう思わない
  - 5 : まったくそう思わない
- 14. 自由質問**
- 板書を見て、回答してください。
- - 
  - 
  -
- 15. その他、この授業について「良かった点」「不満な点」があれば記入してください。**
- 良かった点

不満な点

## 2015(平成27)年度前期授業評価アンケート実施概要

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)
経済学部	26	26	100.00
経営学部	30	30	100.00
法学部	20	20	100.00
人間生活科学部・管理栄養学科	22	22	100.00
人間生活科学部・教育保育学科	13	13	100.00
非常勤	42	41	97.62

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
経済学部	1,929	1,929	1,243	64.44
経営学部	2,461	2,461	1,560	63.39
法学部	1,745	1,745	992	56.85
人間生活科学部・管理栄養学科	834	834	692	82.97
人間生活科学部・教育保育学科	687	687	554	80.64
非常勤	1,217	1,176	786	66.84
<b>【全体】</b>	<b>8,873</b>	<b>8,832</b>	<b>5,827</b>	<b>65.98</b>

## 2015年度後期 実施概要

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント提出率 (C÷B)
経済学部	17	17	100.00	17	100.00
経営学部	27	27	100.00	27	100.00
法学部	15	14	93.33	14	100.00
人間生活科学部・管理栄養学科	26	26	100.00	26	100.00
人間生活科学部・教育保育学科	19	17	89.47	17	100.00
非常勤	31	31	100.00	31	100.00
<b>【全体】</b>	<b>135</b>	<b>132</b>	<b>97.78</b>	<b>132</b>	<b>100.00</b>

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
経済学部	1,084	1,084	735	67.80
経営学部	1,914	1,914	1,305	68.18
法学部	1,071	1,027	679	66.11
人間生活科学部・管理栄養学科	1,111	1,111	868	78.13
人間生活科学部・教育保育学科	835	756	532	70.37
非常勤	973	973	658	67.63
<b>【全体】</b>	<b>6,988</b>	<b>6,865</b>	<b>4,777</b>	<b>69.58</b>

[名古屋経済大学] 2015年度前期 授業評価アンケート 教員所属別平均一覧

設問	内容
1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか

所属	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12
全体	4.00	3.95	3.87	3.90	3.90	4.09	3.97	4.07	3.97	4.12	3.94	4.20
経済学部	3.86	3.92	3.85	3.89	3.90	4.05	3.98	4.09	4.02	4.09	3.92	4.20
経営学部	3.93	4.04	3.97	4.06	3.99	4.22	4.12	4.18	4.12	4.25	4.04	4.29
法学部	3.75	3.78	3.77	3.73	3.71	3.91	3.80	3.90	3.77	4.00	3.83	4.01
人間生活科学部・管理栄養学科	4.63	3.99	3.74	3.77	3.80	4.02	3.85	4.09	3.86	4.06	3.90	4.15
人間生活科学部・教育保育学科	4.15	3.95	3.80	3.86	3.98	4.28	4.01	3.97	4.10	4.21	3.93	4.32
非常勤	3.98	4.01	3.96	3.93	3.96	4.07	3.98	4.09	3.91	4.09	3.93	4.20

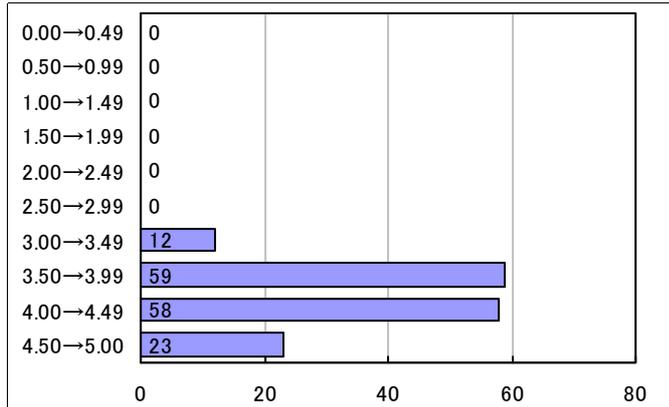
[名古屋経済大学] 2015年度後期 授業評価アンケート 教員所属別平均一覧

設問	内容
1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか

所属	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12
全体	3.97	4.01	3.93	3.96	3.96	4.12	4.02	4.07	4.02	4.16	4.00	4.20
経済学部	3.78	3.94	3.90	3.90	3.92	4.00	3.93	4.00	3.92	4.10	3.89	4.16
経営学部	3.80	4.03	4.00	4.06	3.99	4.22	4.09	4.09	4.10	4.23	4.05	4.22
法学部	3.78	3.85	3.83	3.73	3.78	3.97	3.89	3.91	3.84	4.02	3.96	4.05
人間生活科学部・管理栄養学科	4.41	4.08	3.89	3.98	4.01	4.14	4.00	4.14	4.10	4.20	4.01	4.23
人間生活科学部・教育保育学科	4.08	3.95	3.85	3.82	3.79	4.07	3.95	3.98	3.92	4.04	3.94	4.18
非常勤	4.05	4.18	4.02	4.19	4.19	4.28	4.21	4.22	4.07	4.26	4.08	4.32

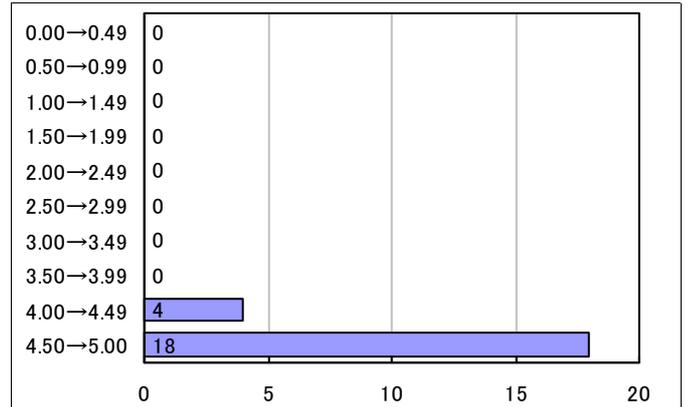
●1.あなたはこの授業によく出席しましたか

■全体



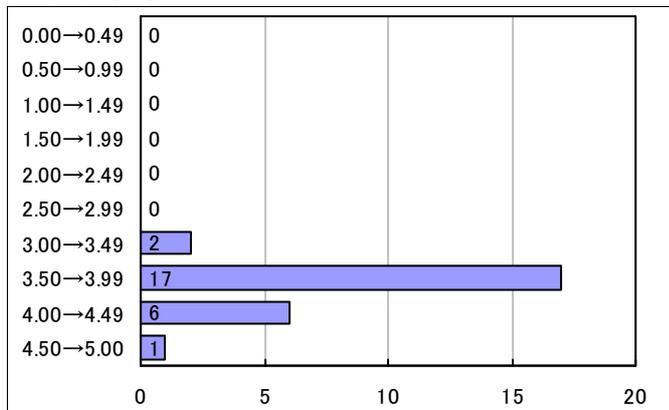
平均値 = 4.00

■人間生活科学部・管理栄養学科



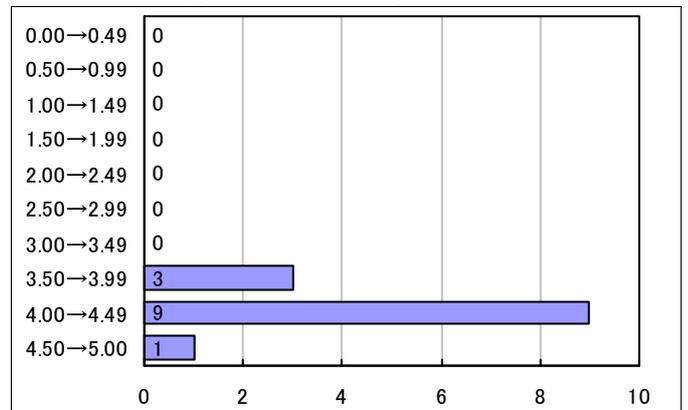
平均値 = 4.63

■経済学部



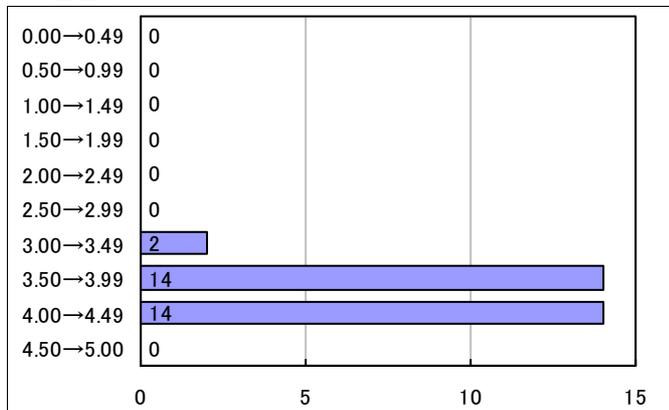
平均値 = 3.86

■人間生活科学部・教育保育学科



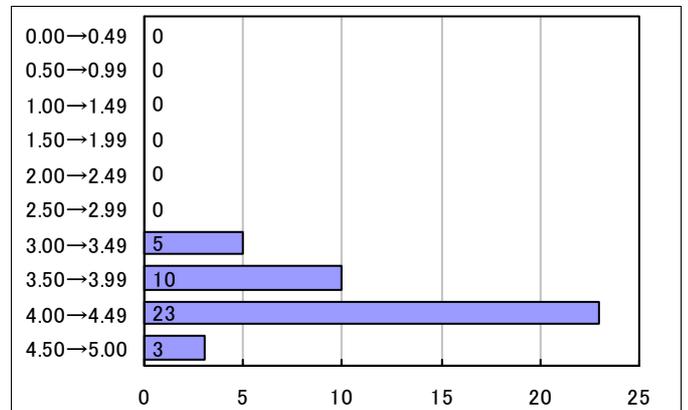
平均値 = 4.15

■経営学部



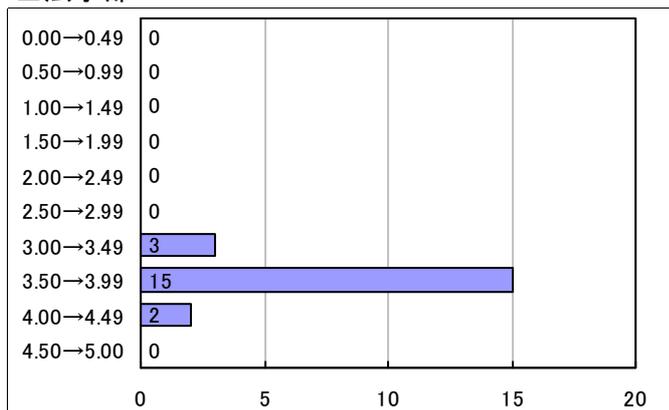
平均値 = 3.93

■非常勤



平均値 = 3.98

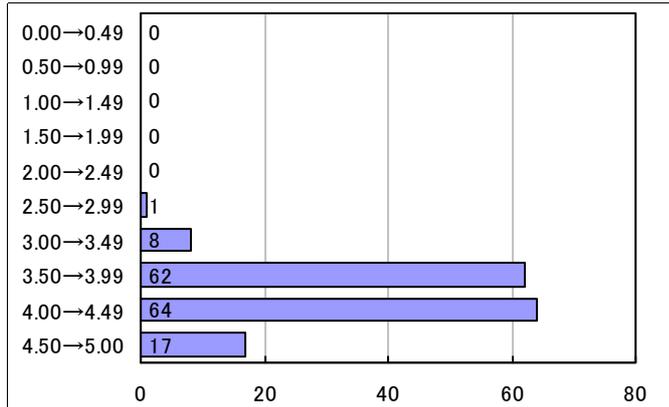
■法学部



平均値 = 3.75

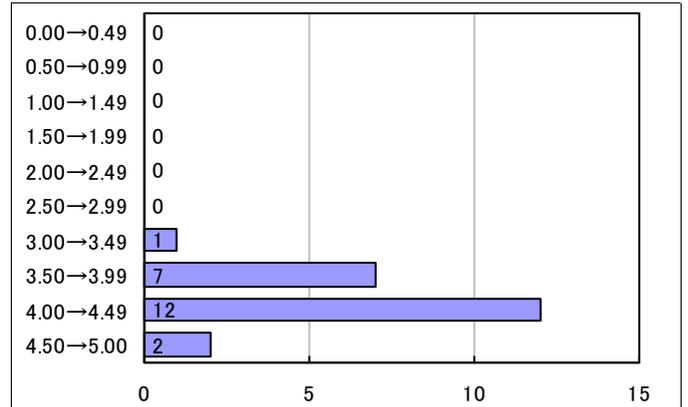
●2.あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか

■全体



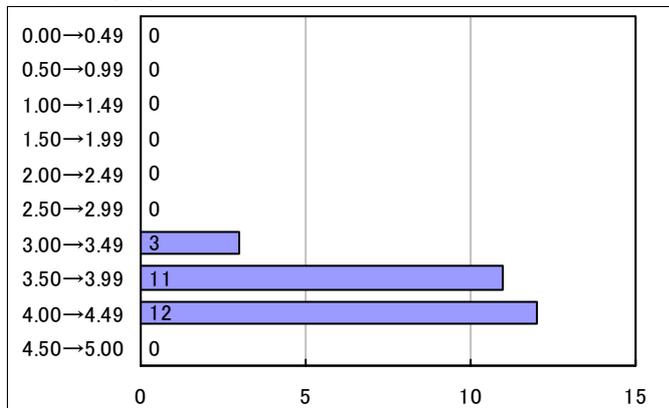
平均値 = 3.95

■人間生活科学部・管理栄養学科



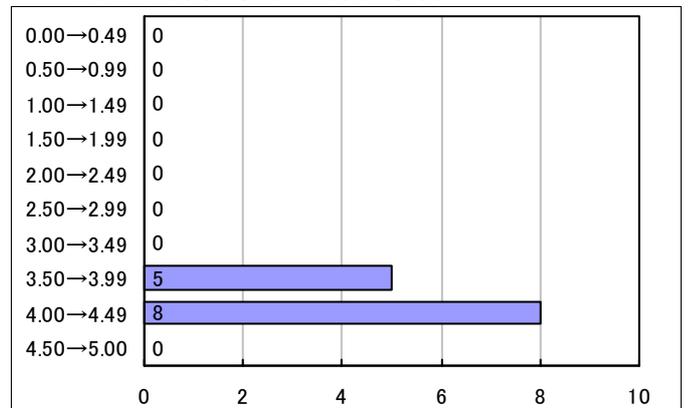
平均値 = 3.99

■経済学部



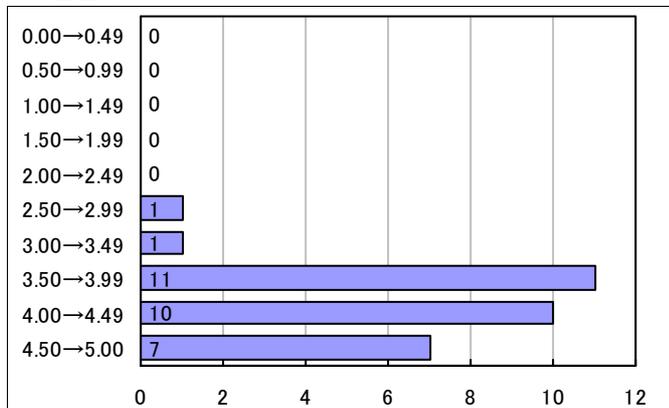
平均値 = 3.92

■人間生活科学部・教育保育学科



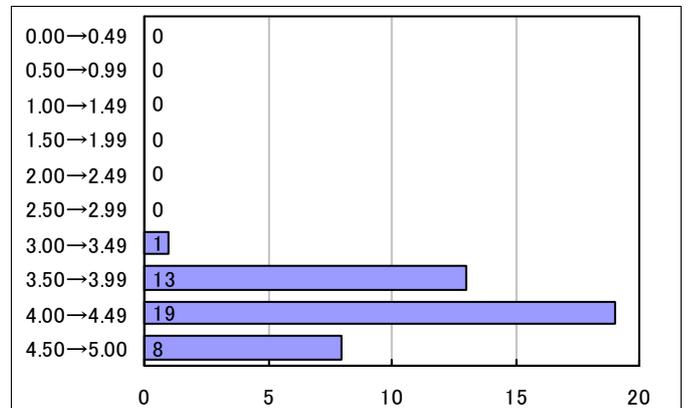
平均値 = 3.95

■経営学部



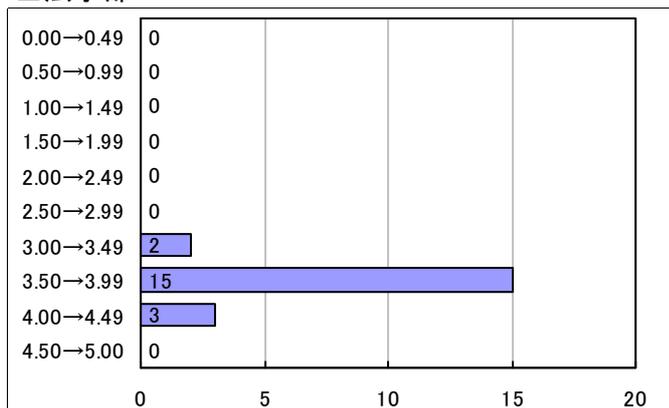
平均値 = 4.04

■非常勤



平均値 = 4.01

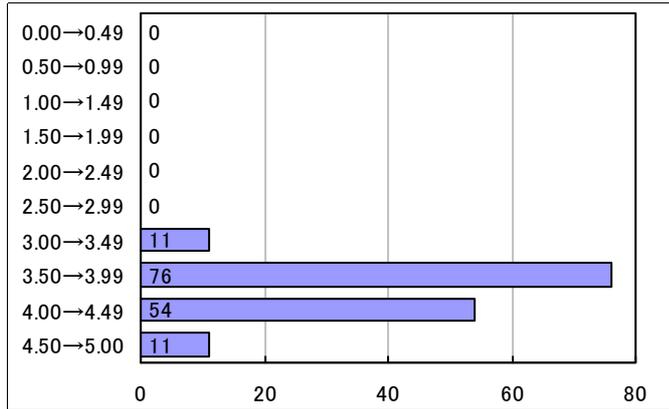
■法学部



平均値 = 3.78

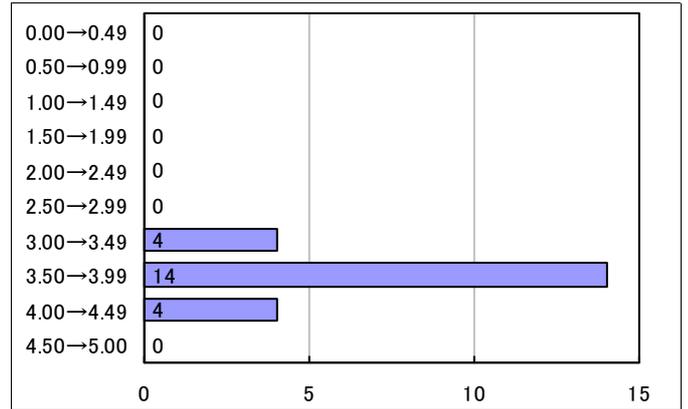
●3.この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか

■全体



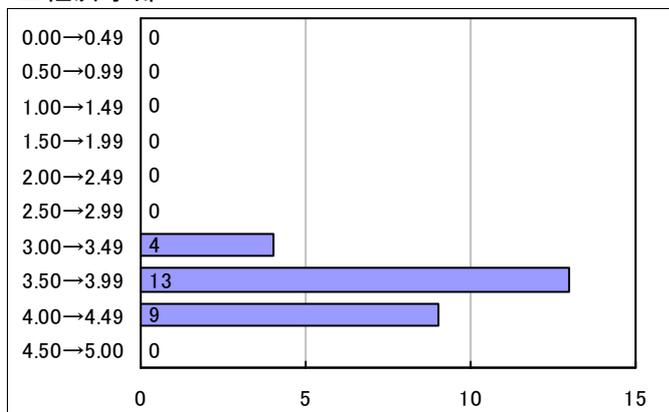
平均値 = 3.87

■人間生活科学部・管理栄養学科



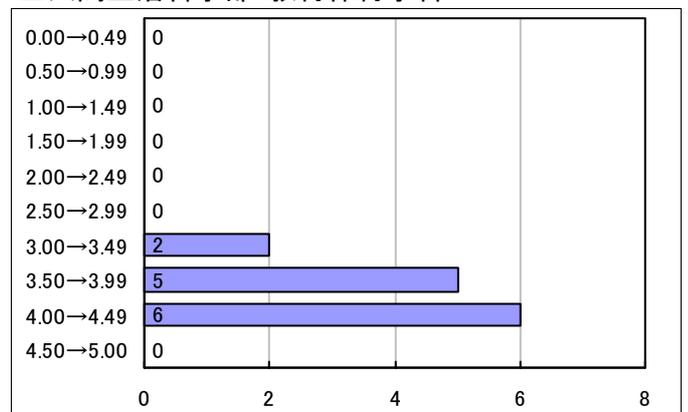
平均値 = 3.74

■経済学部



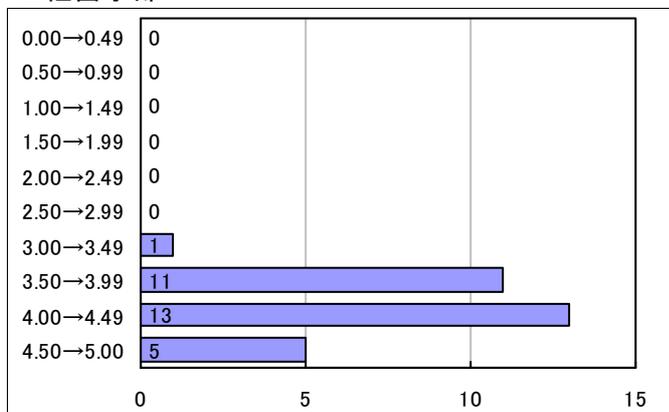
平均値 = 3.85

■人間生活科学部・教育保育学科



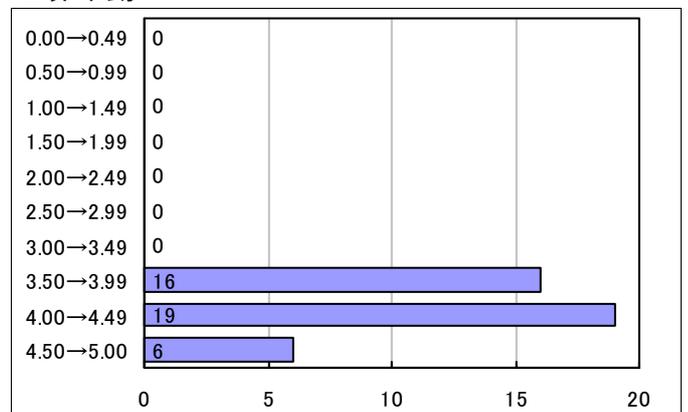
平均値 = 3.80

■経営学部



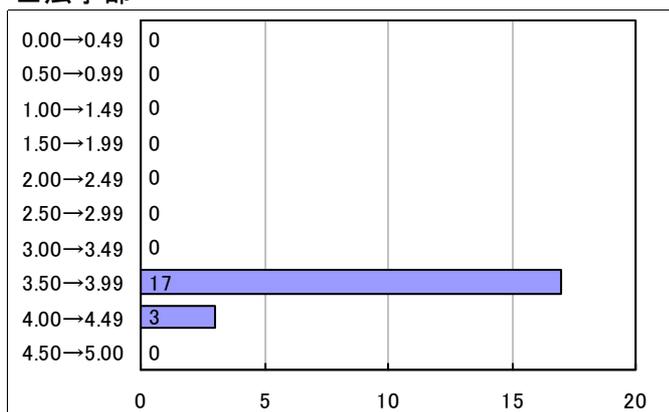
平均値 = 3.97

■非常勤



平均値 = 3.96

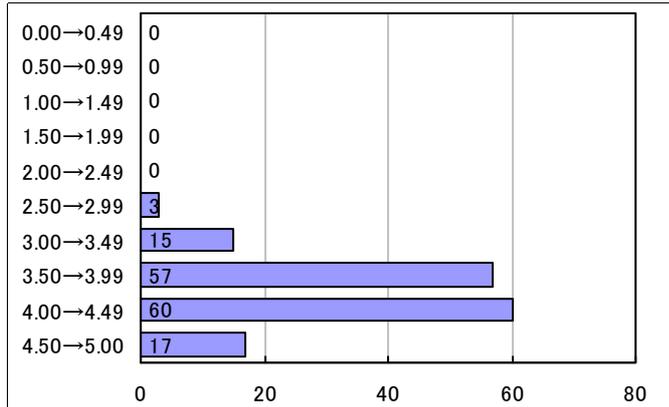
■法学部



平均値 = 3.77

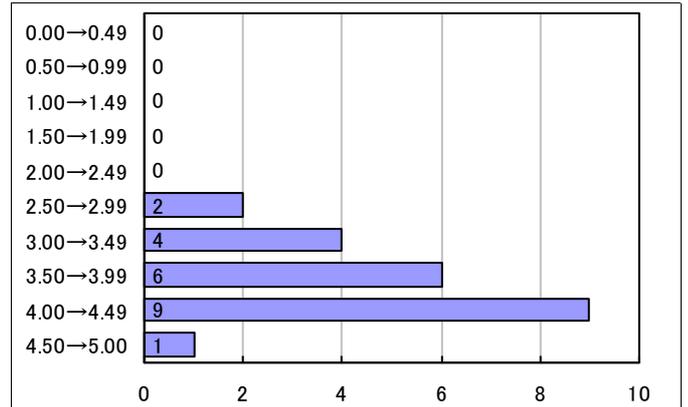
●4.授業内容はわかりやすかったですか

■全体



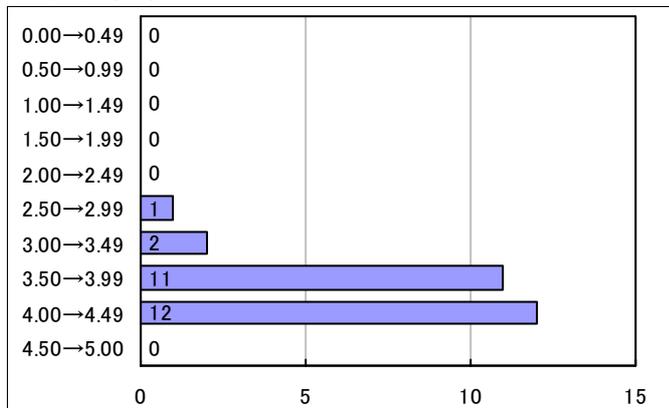
平均値 = 3.90

■人間生活科学部・管理栄養学科



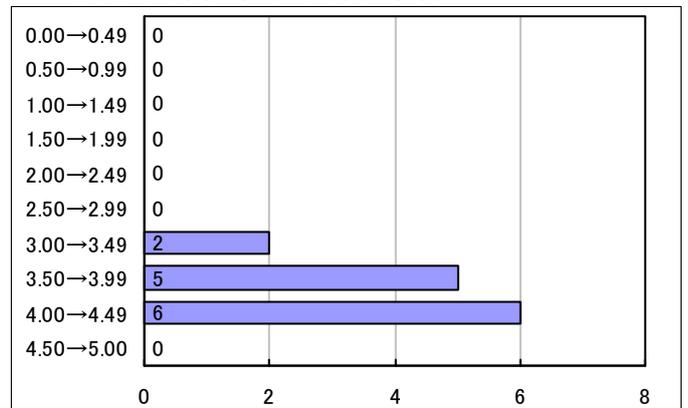
平均値 = 3.77

■経済学部



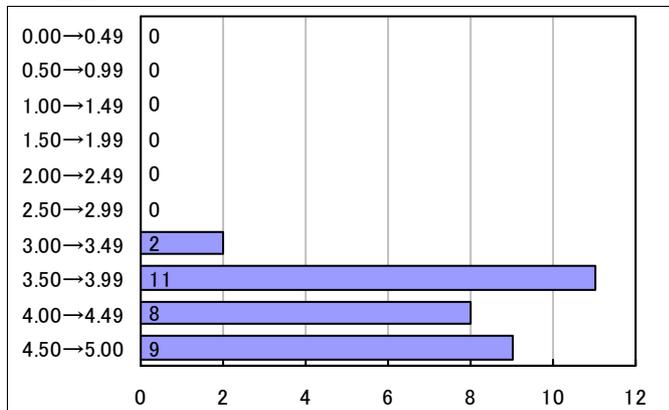
平均値 = 3.89

■人間生活科学部・教育保育学科



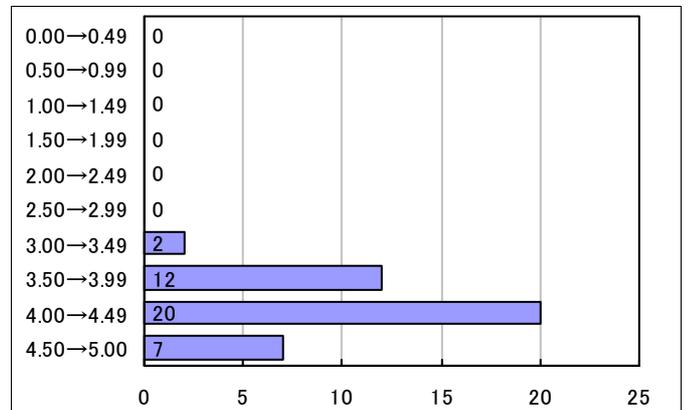
平均値 = 3.86

■経営学部



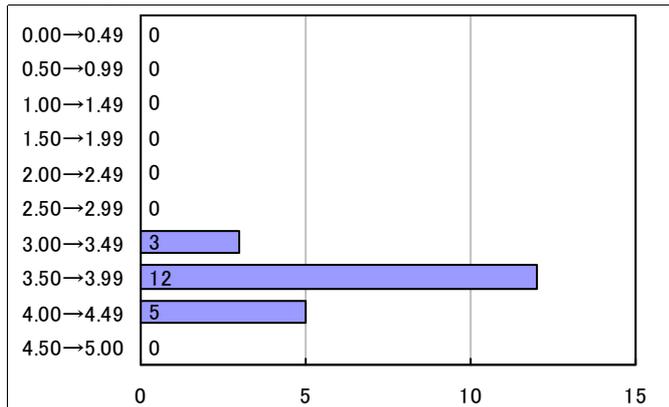
平均値 = 4.06

■非常勤



平均値 = 3.93

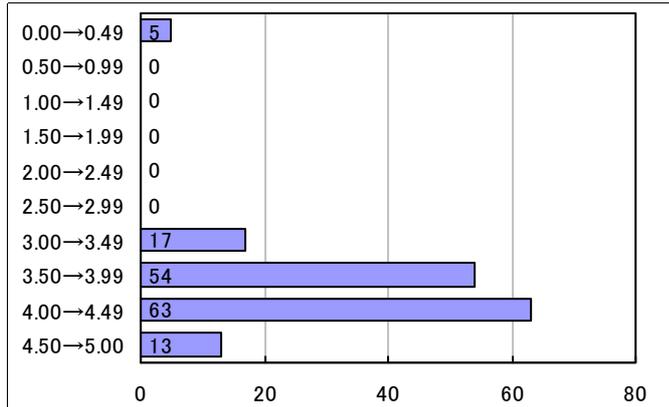
■法学部



平均値 = 3.73

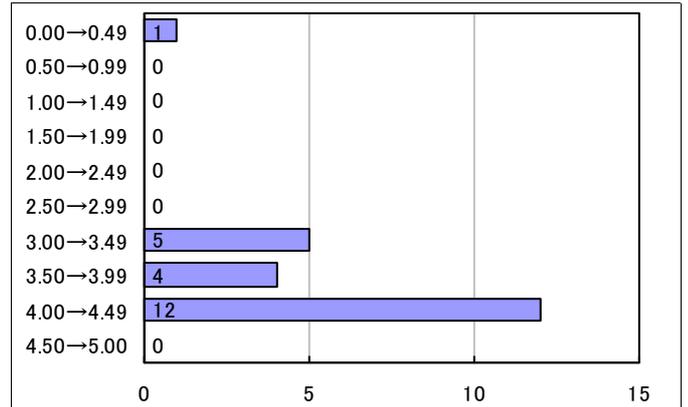
●5.この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか

■全体



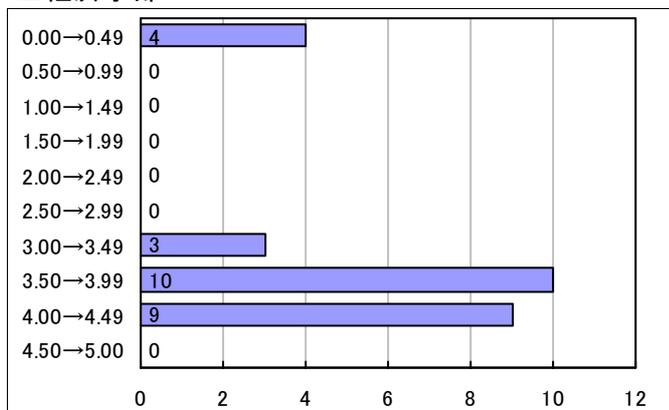
平均値 = 3.90

■人間生活科学部・管理栄養学科



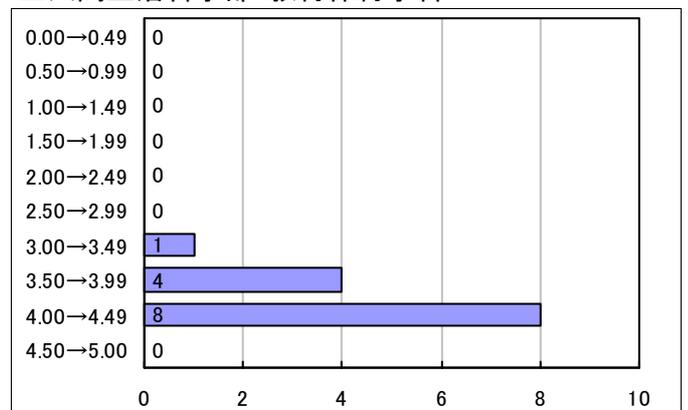
平均値 = 3.80

■経済学部



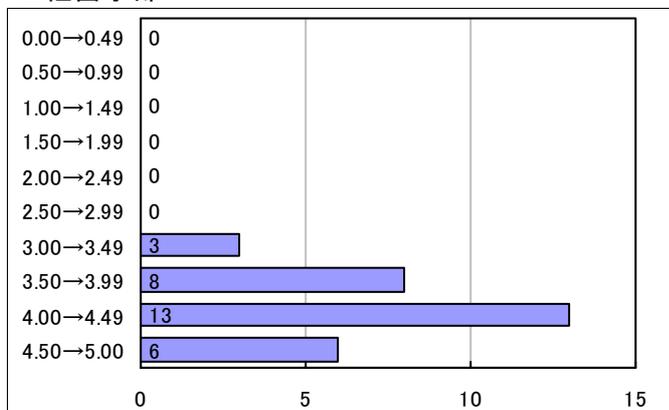
平均値 = 3.90

■人間生活科学部・教育保育学科



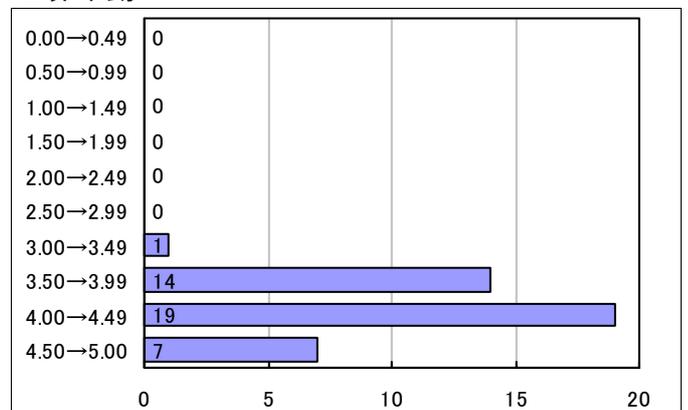
平均値 = 3.98

■経営学部



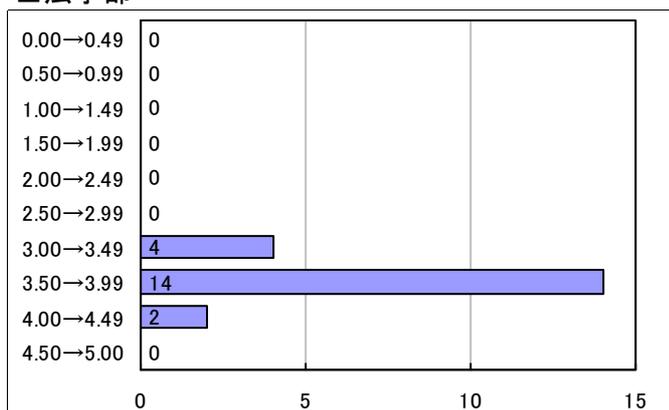
平均値 = 3.99

■非常勤



平均値 = 3.96

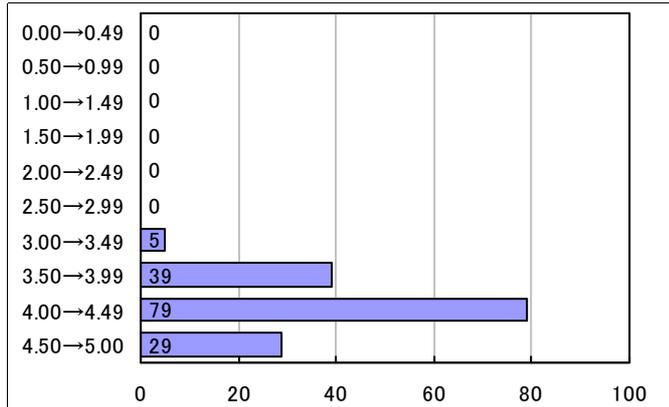
■法学部



平均値 = 3.71

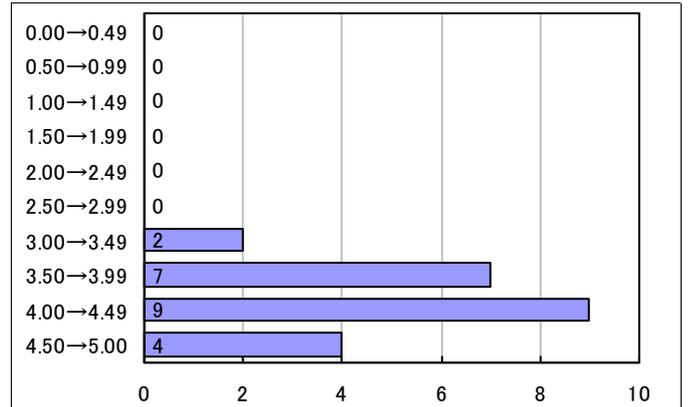
●6.教員の教え方には熱意があったと思いますか

■全体



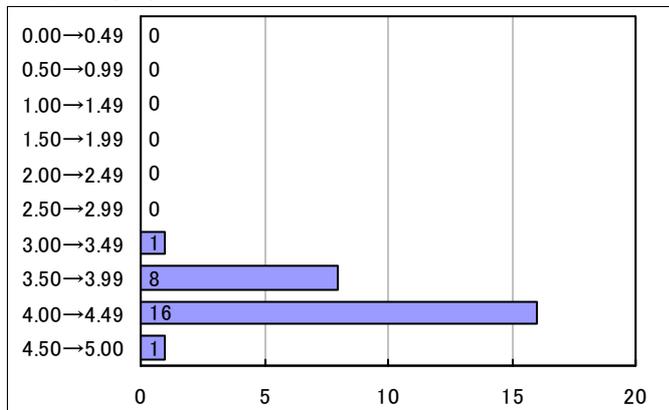
平均値 = 4.09

■人間生活科学部・管理栄養学科



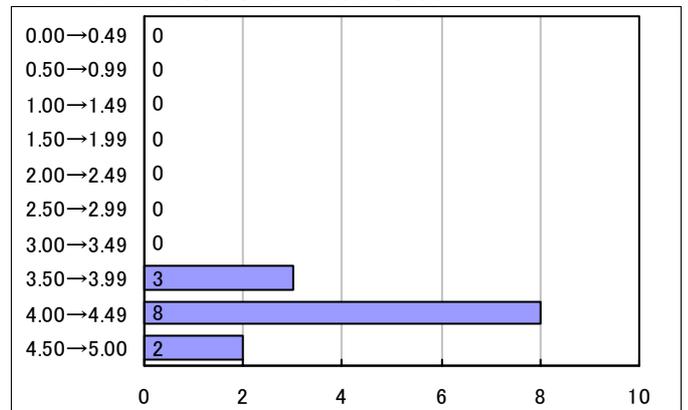
平均値 = 4.02

■経済学部



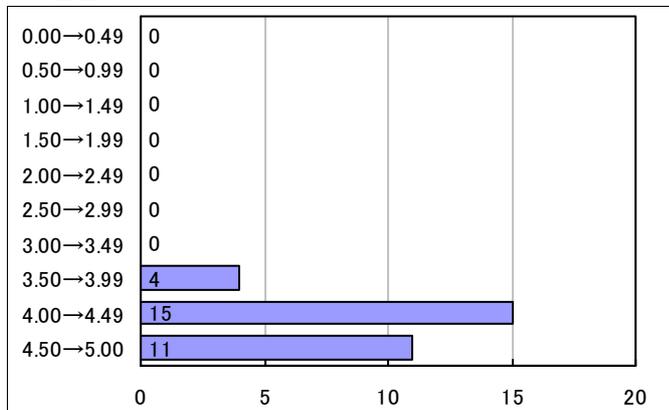
平均値 = 4.05

■人間生活科学部・教育保育学科



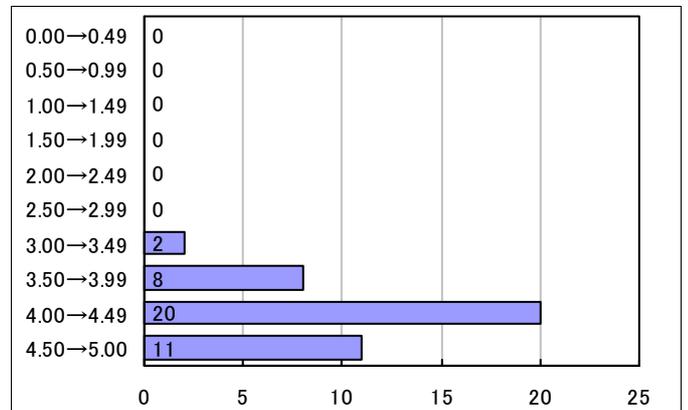
平均値 = 4.28

■経営学部



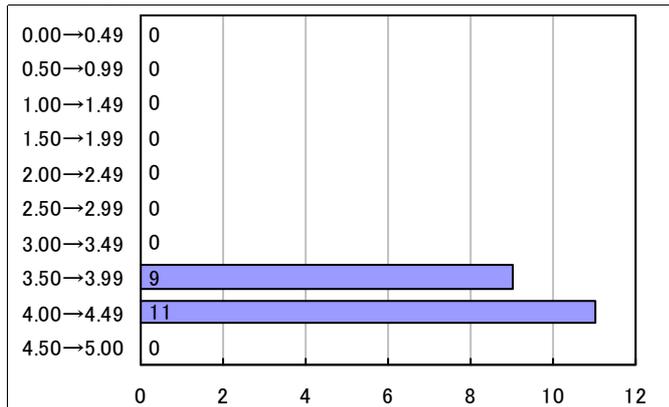
平均値 = 4.22

■非常勤



平均値 = 4.07

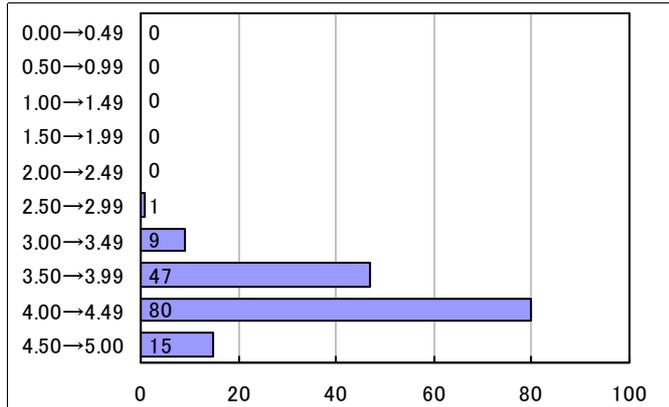
■法学部



平均値 = 3.91

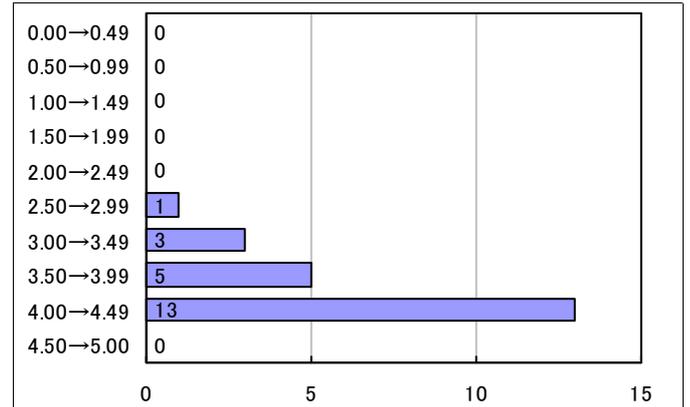
●7.授業の速さや進め方は適切だったと思いますか

■全体



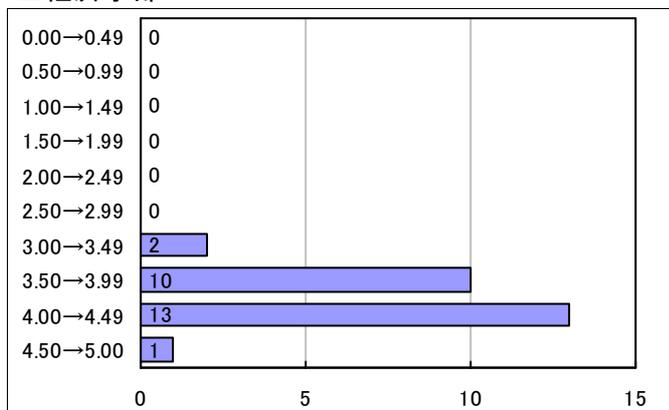
平均値 = 3.97

■人間生活科学部・管理栄養学科



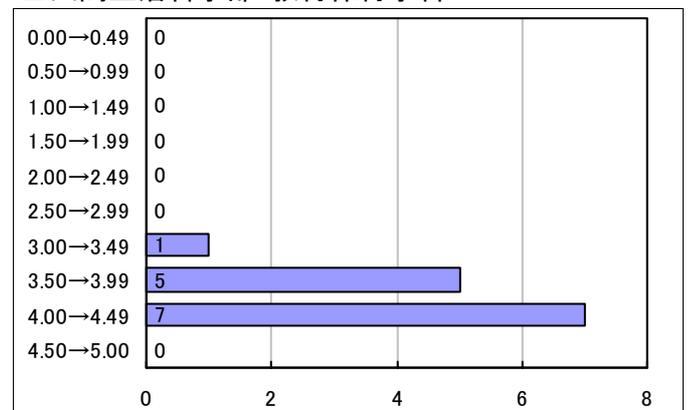
平均値 = 3.85

■経済学部



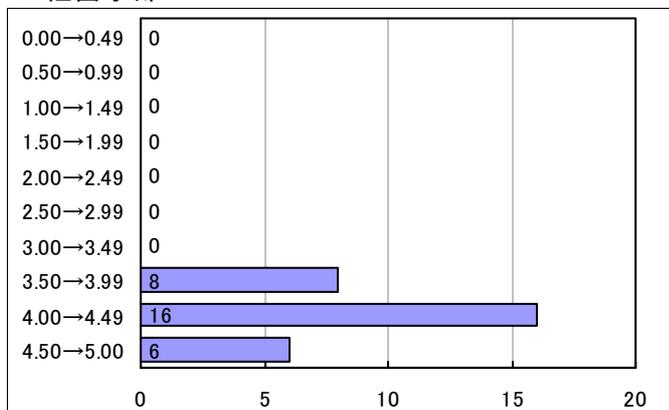
平均値 = 3.98

■人間生活科学部・教育保育学科



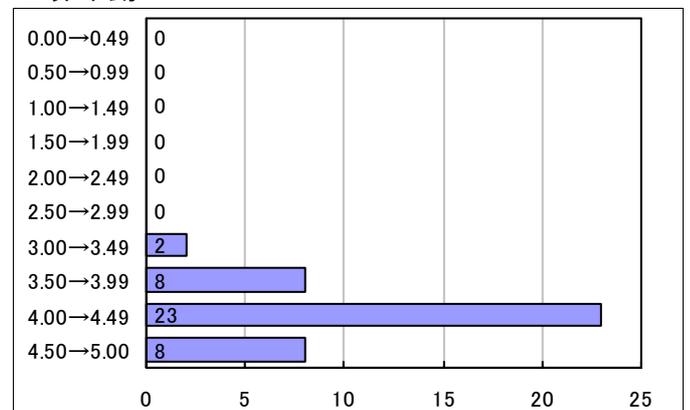
平均値 = 4.01

■経営学部



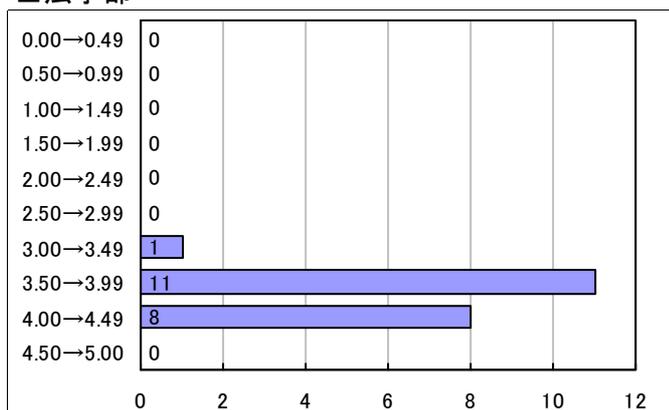
平均値 = 4.12

■非常勤



平均値 = 3.98

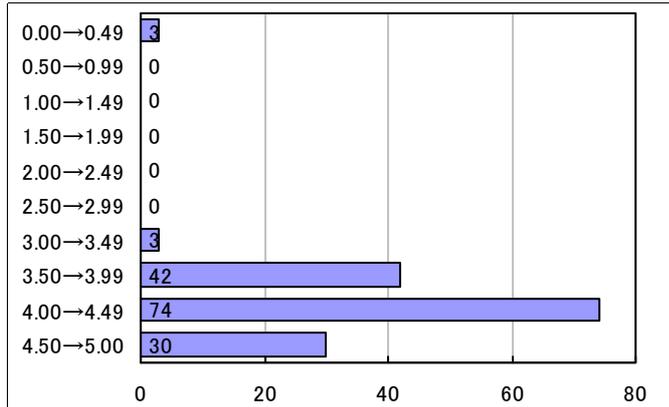
■法学部



平均値 = 3.80

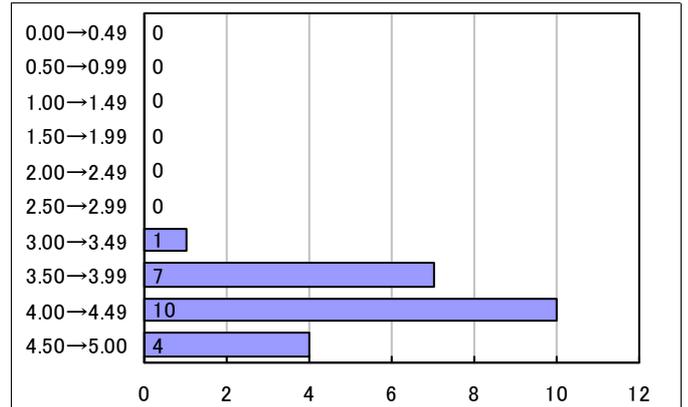
●8.教科書・配布資料は活用されていたと思いますか

■全体



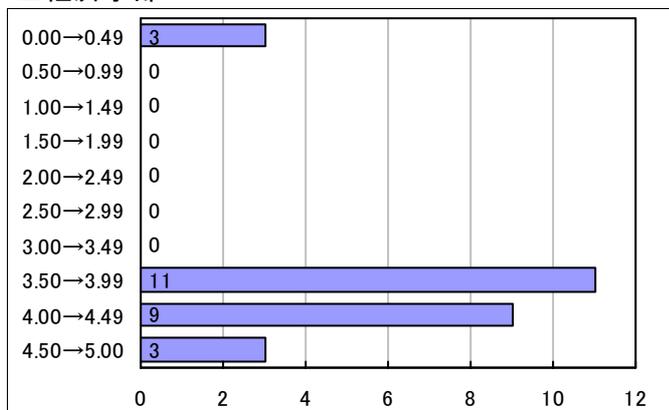
平均値 = 4.07

■人間生活科学部・管理栄養学科



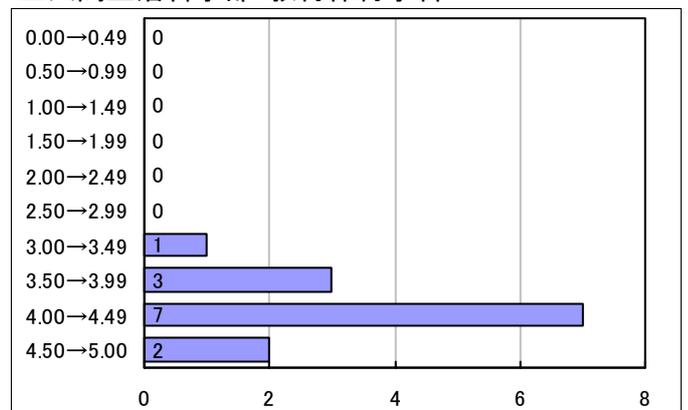
平均値 = 4.09

■経済学部



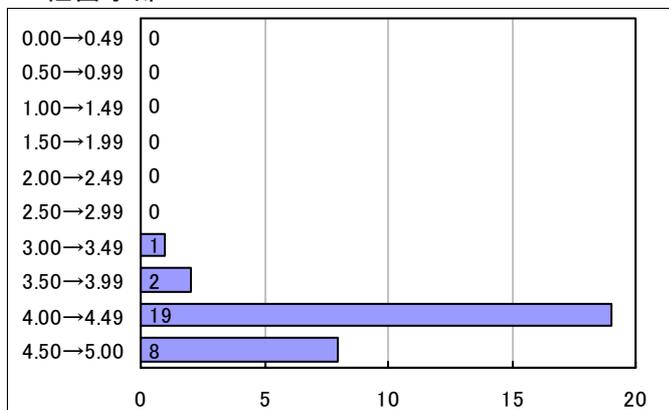
平均値 = 4.09

■人間生活科学部・教育保育学科



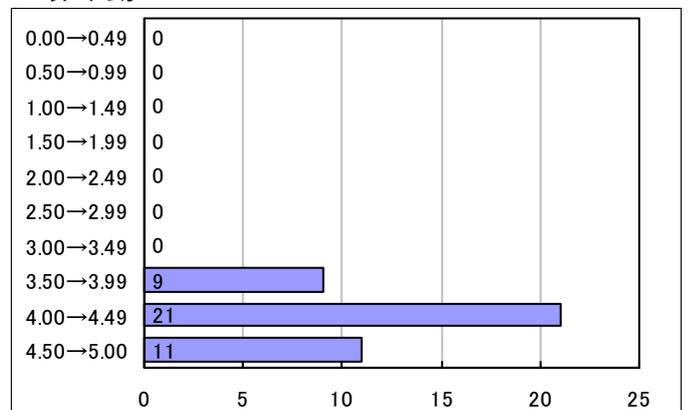
平均値 = 3.97

■経営学部



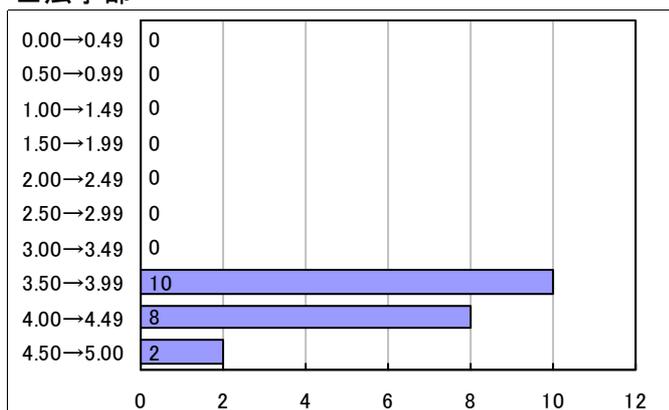
平均値 = 4.18

■非常勤



平均値 = 4.09

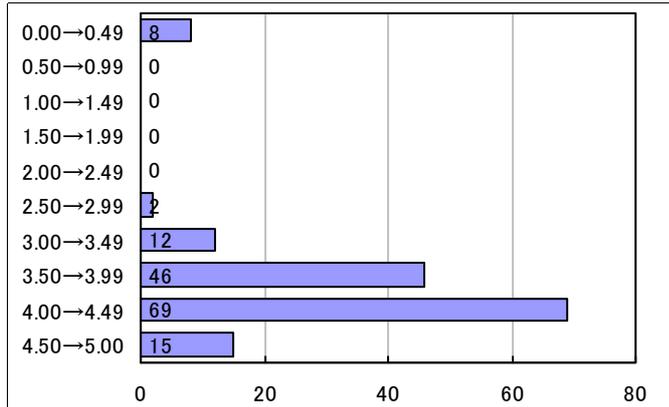
■法学部



平均値 = 3.90

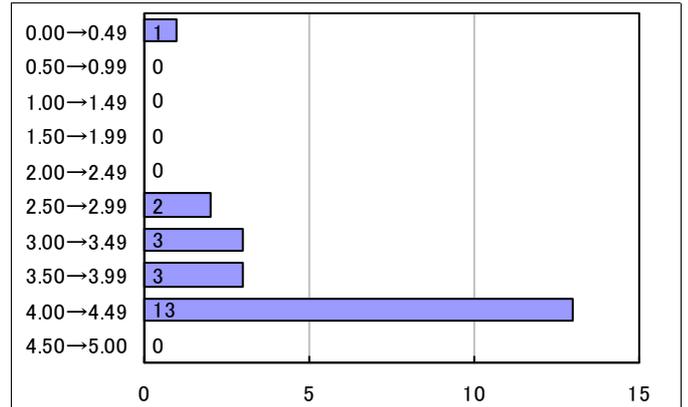
●9.板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか

■全体



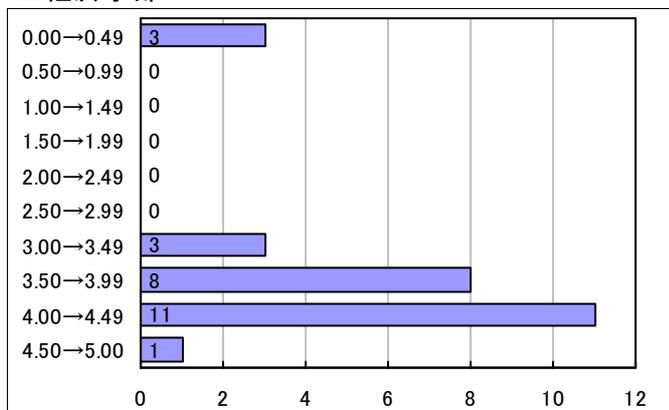
平均値 = 3.97

■人間生活科学部・管理栄養学科



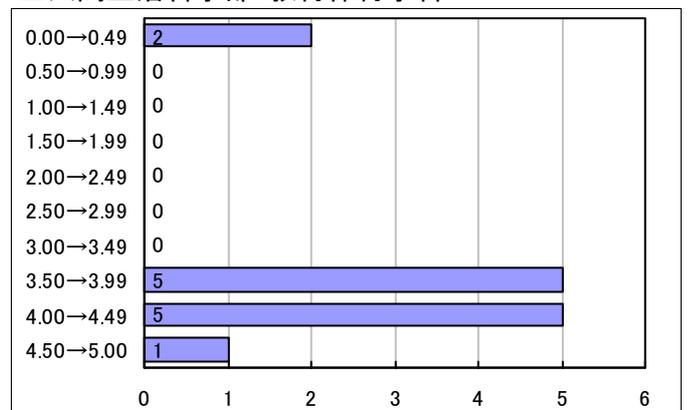
平均値 = 3.86

■経済学部



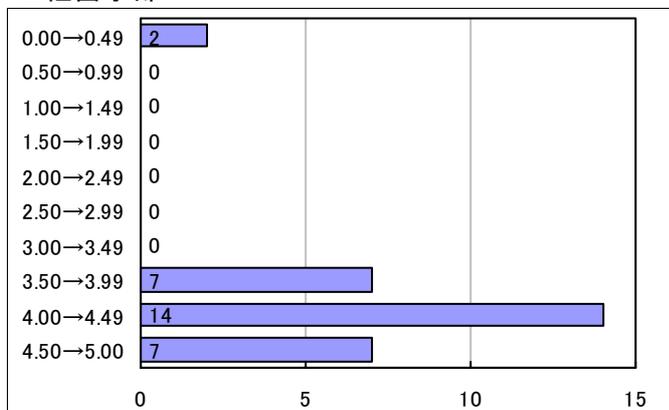
平均値 = 4.02

■人間生活科学部・教育保育学科



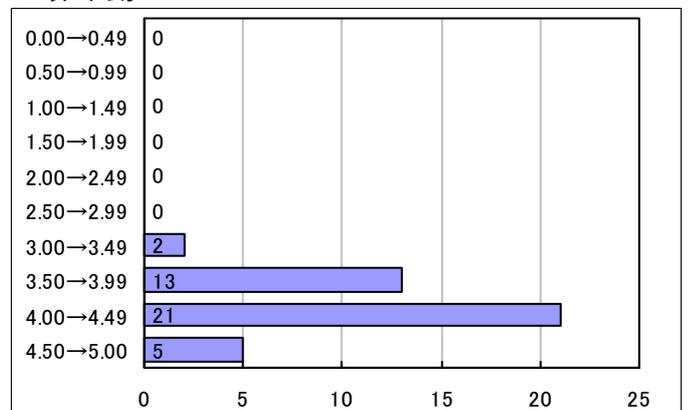
平均値 = 4.10

■経営学部



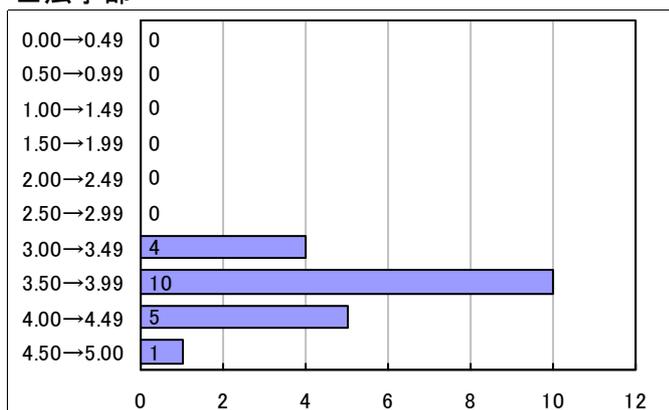
平均値 = 4.12

■非常勤



平均値 = 3.91

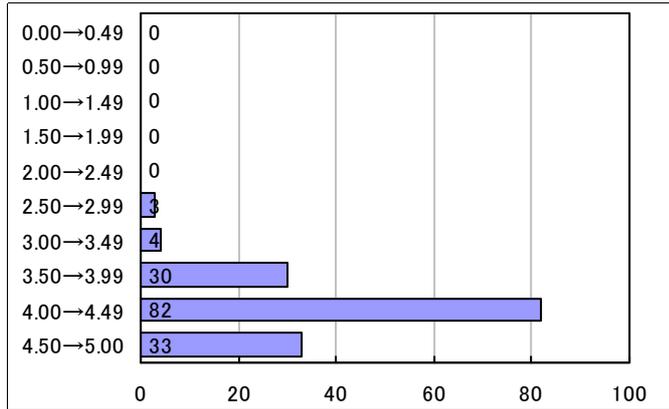
■法学部



平均値 = 3.77

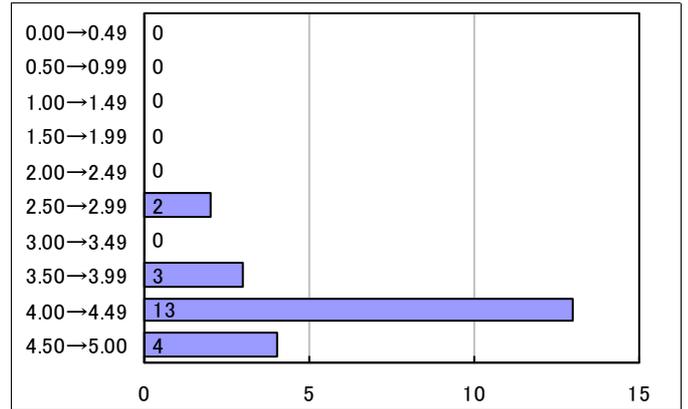
●10.教員の声は聞き取りやすかったですか

■全体



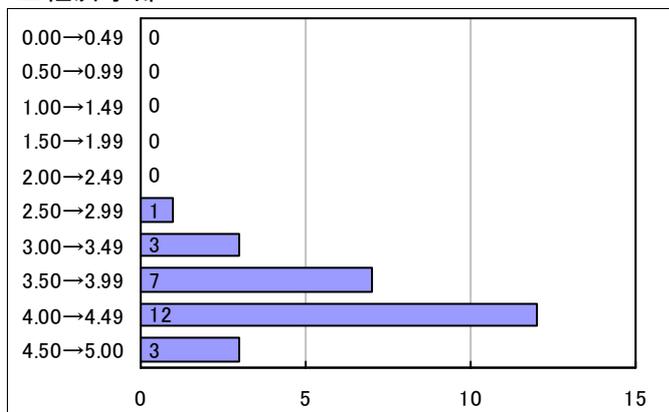
平均値 = 4.12

■人間生活科学部・管理栄養学科



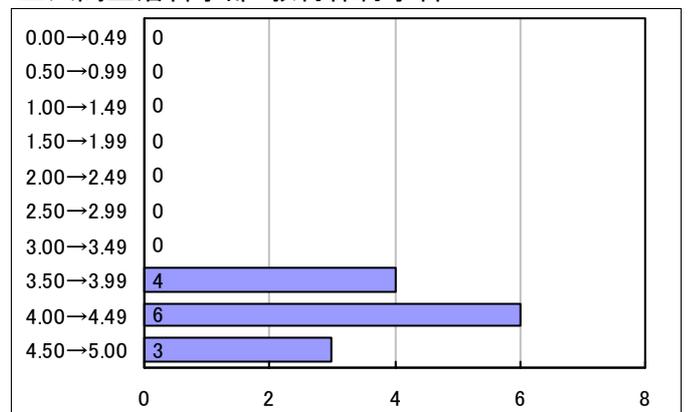
平均値 = 4.06

■経済学部



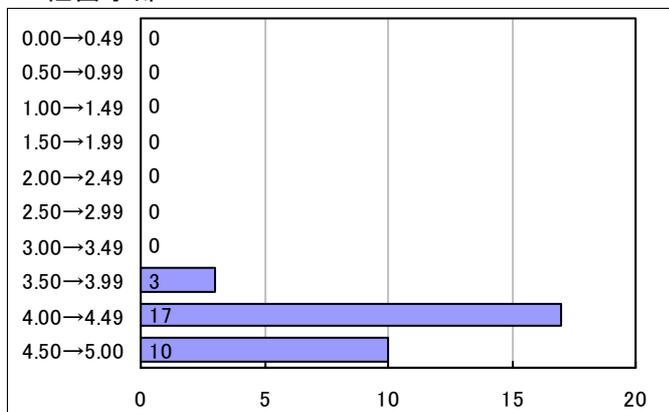
平均値 = 4.09

■人間生活科学部・教育保育学科



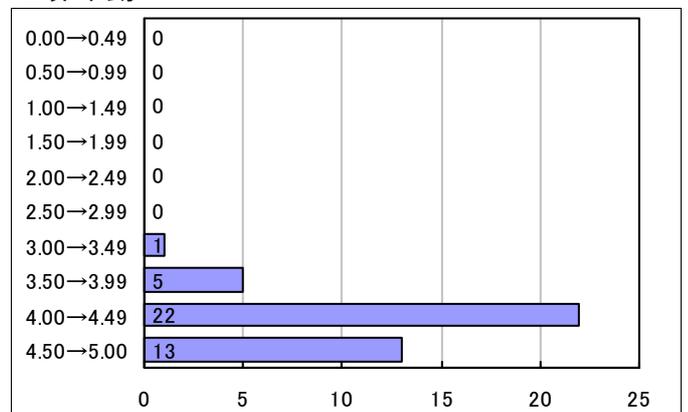
平均値 = 4.21

■経営学部



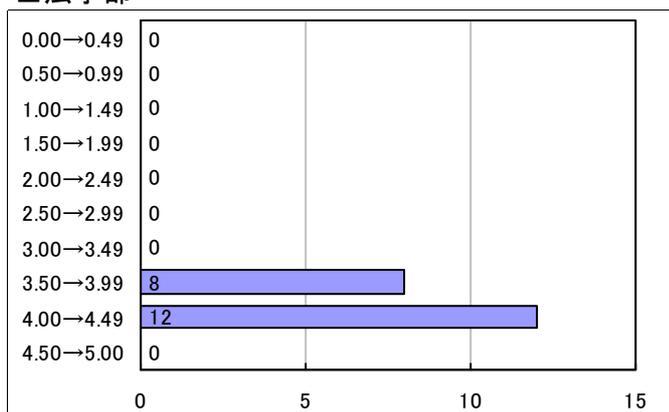
平均値 = 4.25

■非常勤



平均値 = 4.09

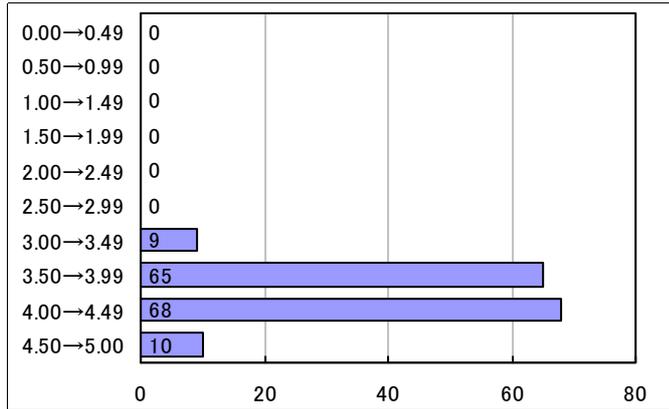
■法学部



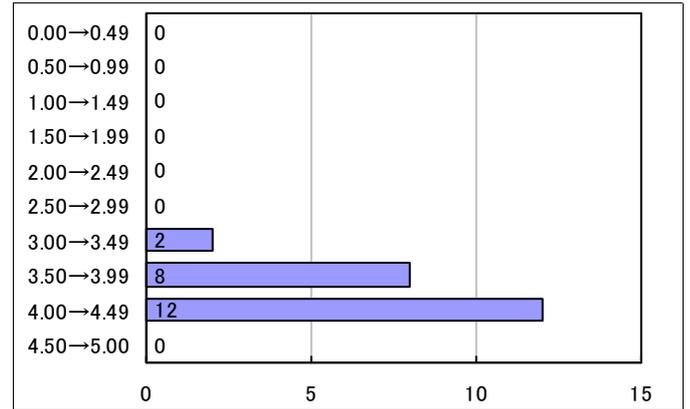
平均値 = 4.00

●11.一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか

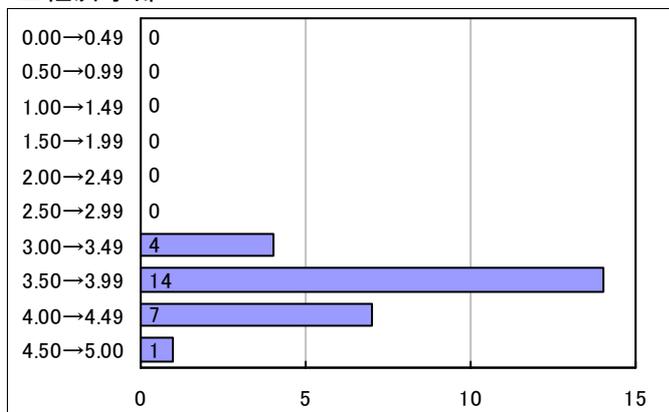
■全体



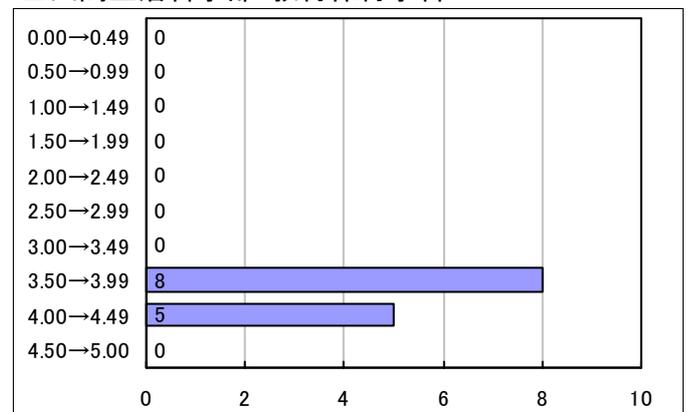
■人間生活科学部・管理栄養学科



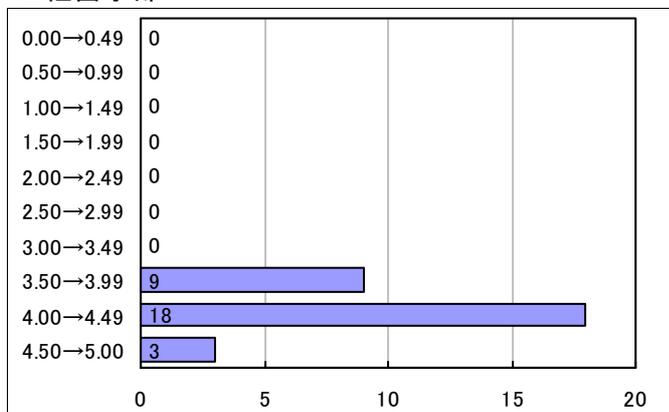
■経済学部



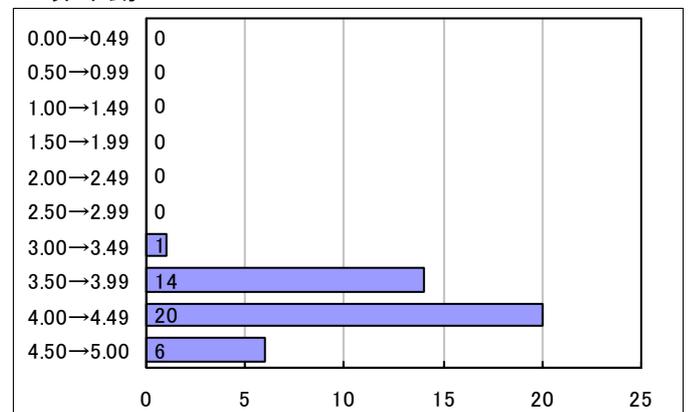
■人間生活科学部・教育保育学科



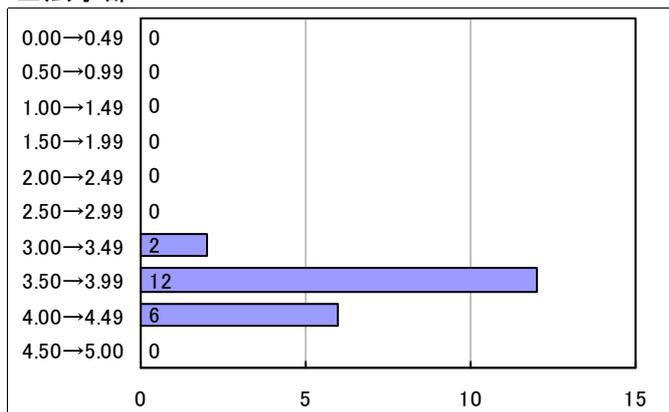
■経営学部



■非常勤

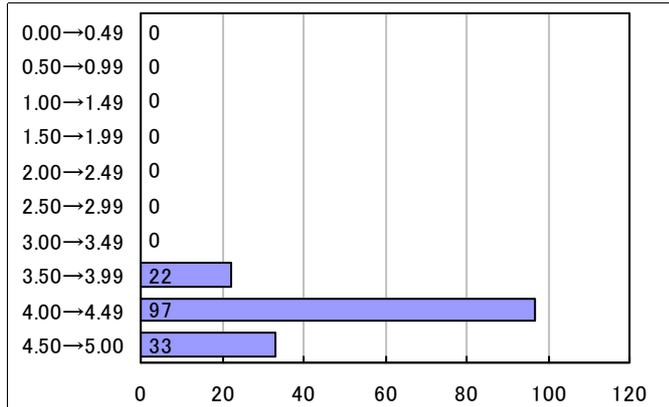


■法学部



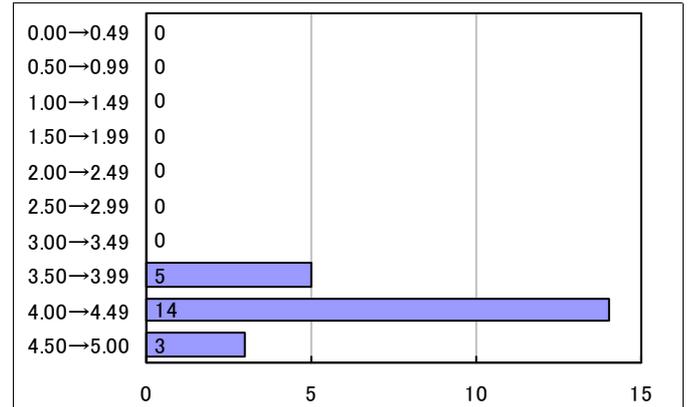
●12.教員は授業時間を守っていたと思いますか

■全体



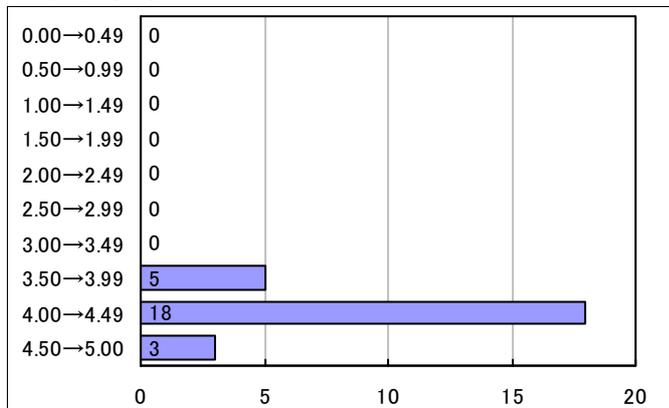
平均値 = 4.20

■人間生活科学部・管理栄養学科



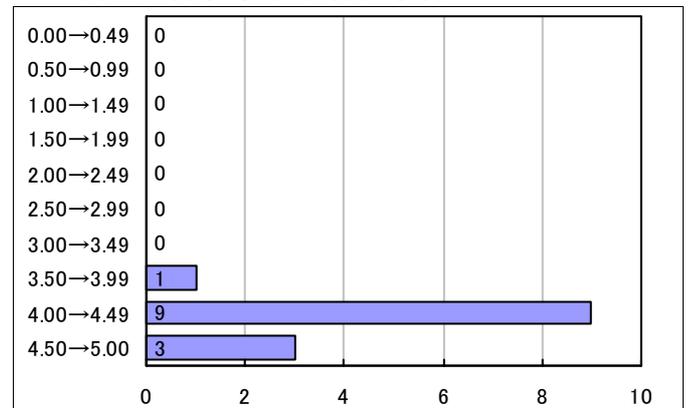
平均値 = 4.15

■経済学部



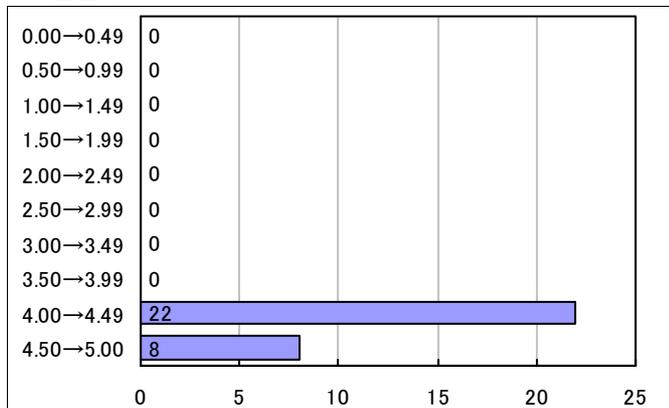
平均値 = 4.20

■人間生活科学部・教育保育学科



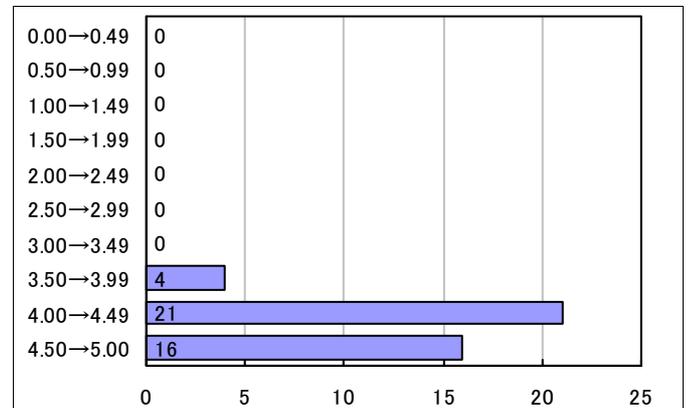
平均値 = 4.32

■経営学部



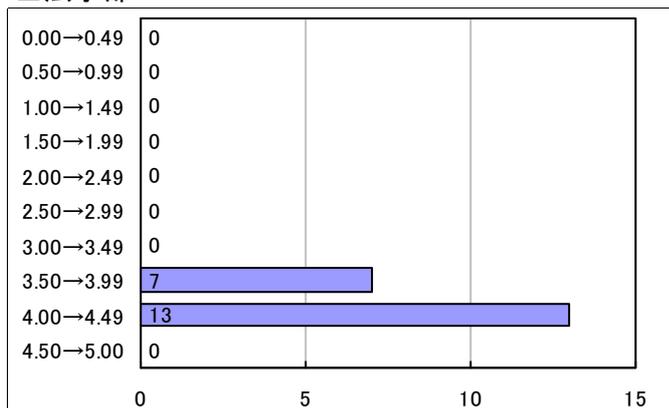
平均値 = 4.29

■非常勤



平均値 = 4.20

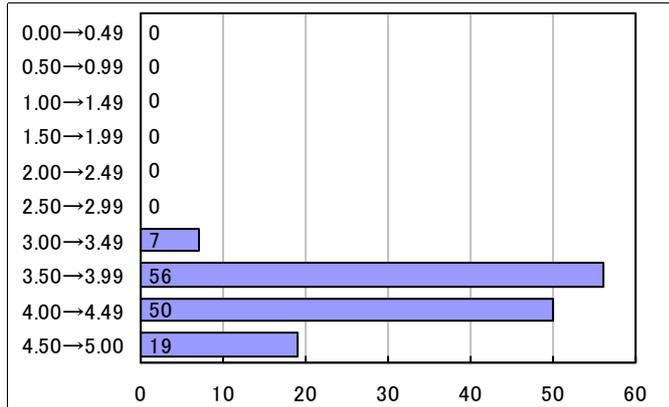
■法学部



平均値 = 4.01

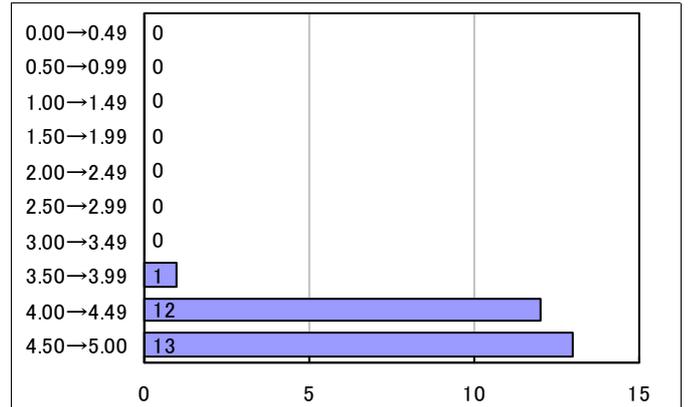
●1.あなたはこの授業によく出席しましたか

■全体



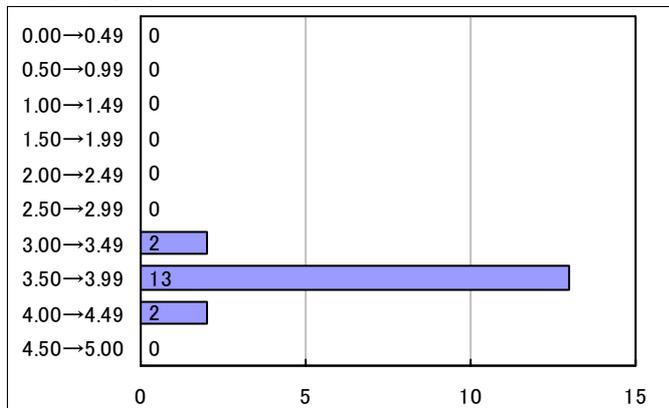
平均値 = 3.97

■人間生活科学部・管理栄養学科



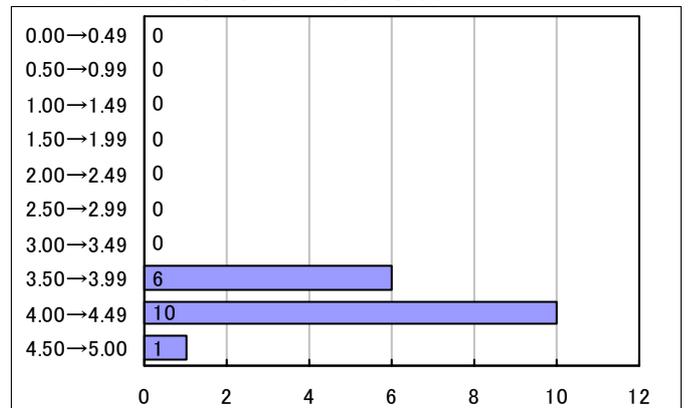
平均値 = 4.41

■経済学部



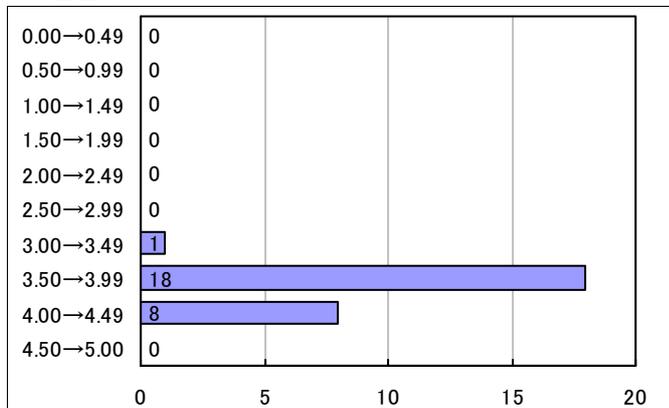
平均値 = 3.78

■人間生活科学部・教育保育学科



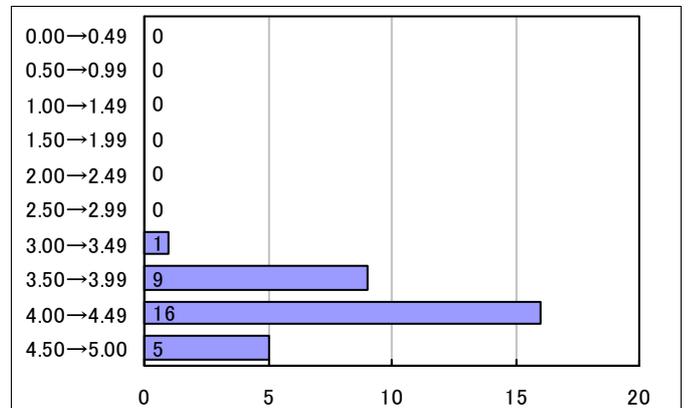
平均値 = 4.08

■経営学部



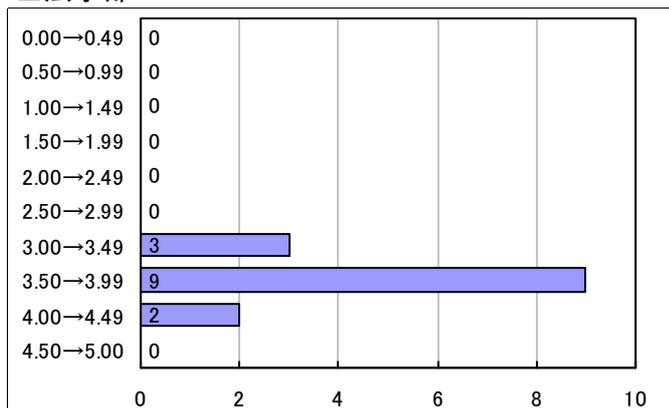
平均値 = 3.80

■非常勤



平均値 = 4.05

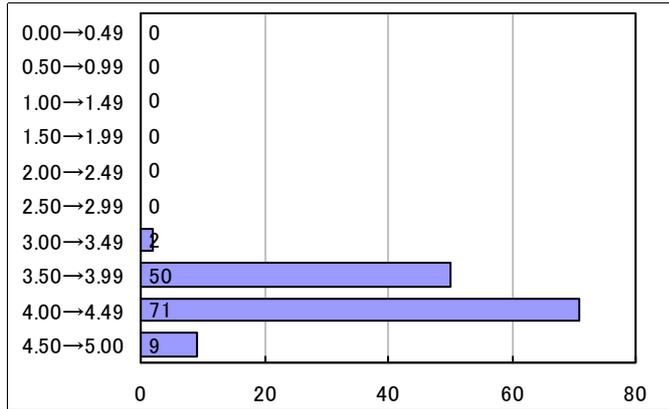
■法学部



平均値 = 3.78

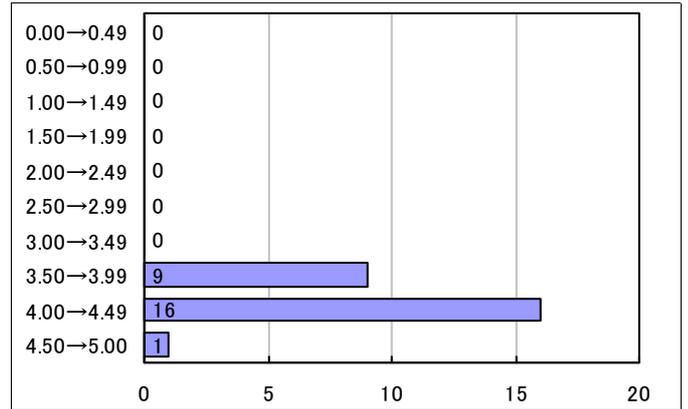
●2.あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか

■全体



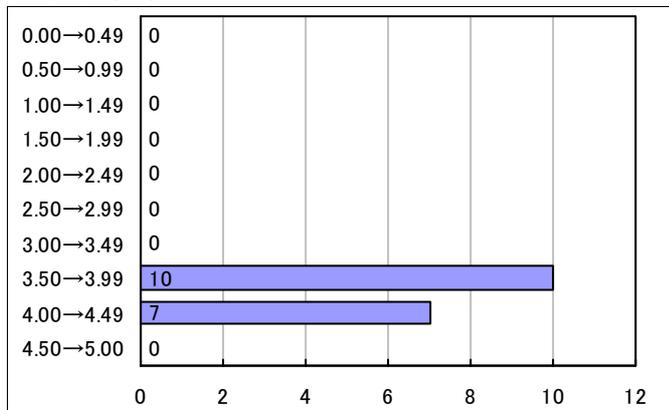
平均値 = 4.01

■人間生活科学部・管理栄養学科



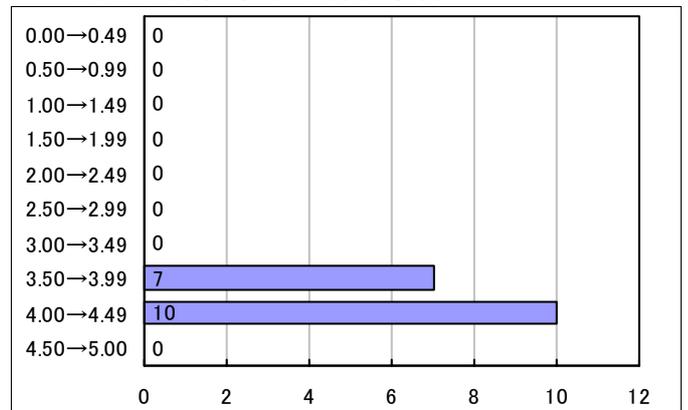
平均値 = 4.08

■経済学部



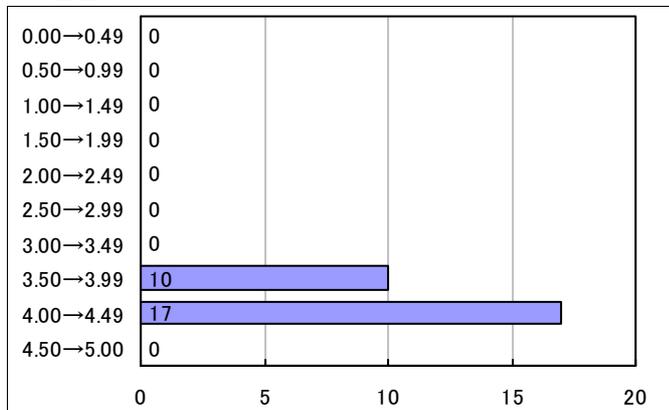
平均値 = 3.94

■人間生活科学部・教育保育学科



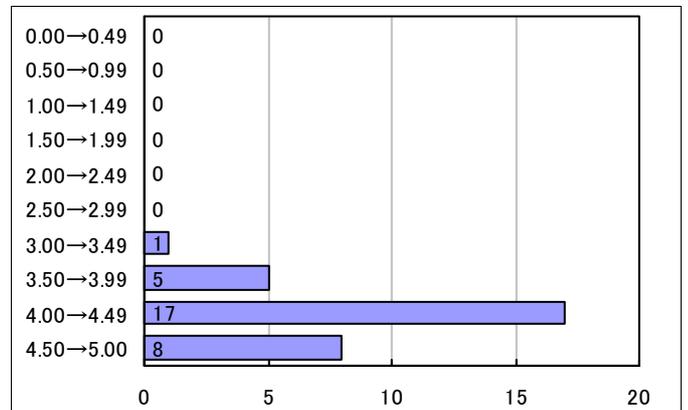
平均値 = 3.95

■経営学部



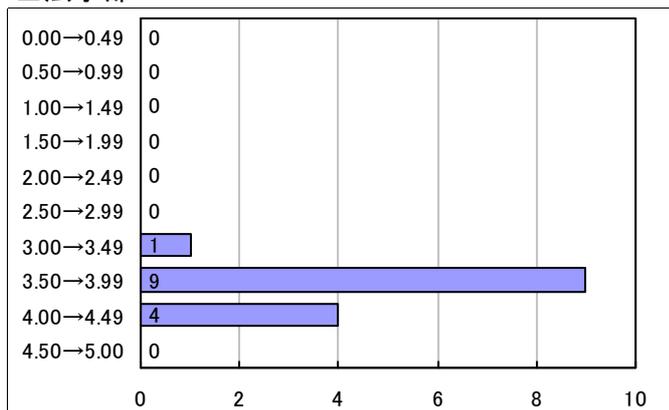
平均値 = 4.03

■非常勤



平均値 = 4.18

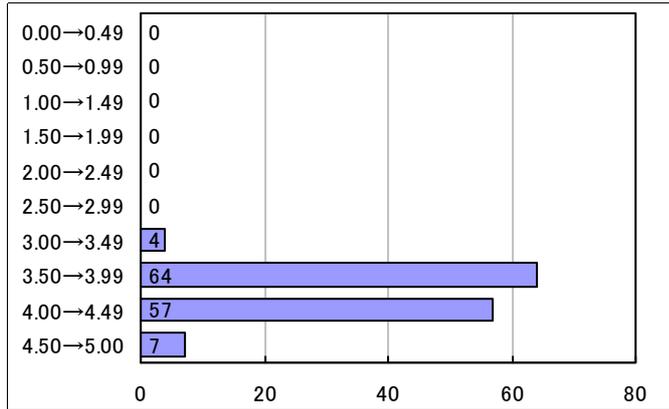
■法学部



平均値 = 3.85

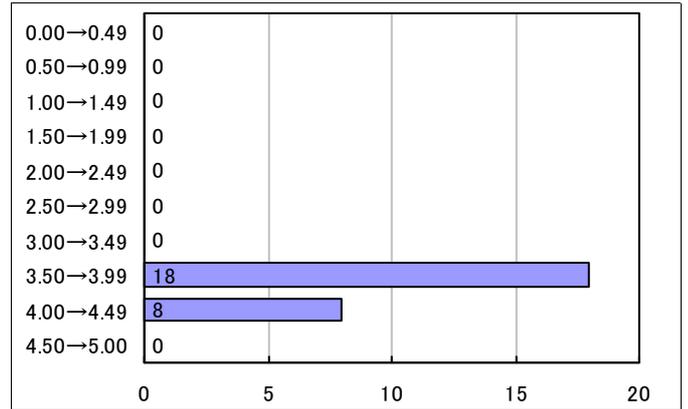
●3.この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか

■全体



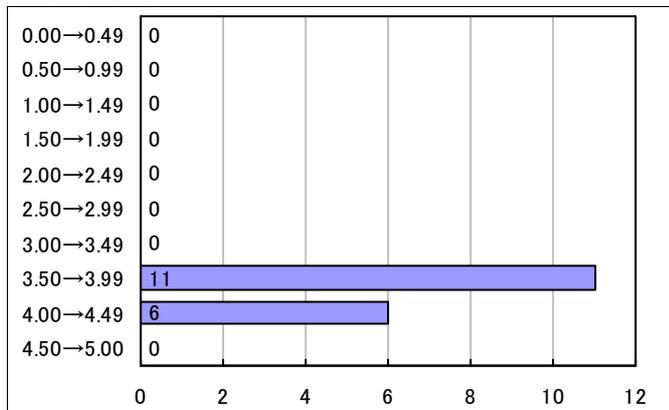
平均値 = 3.93

■人間生活科学部・管理栄養学科



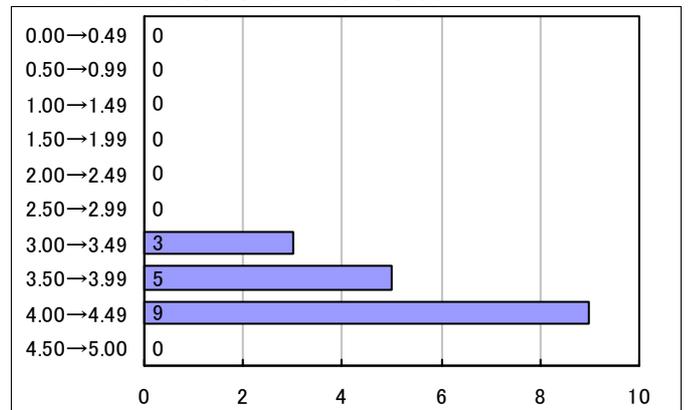
平均値 = 3.89

■経済学部



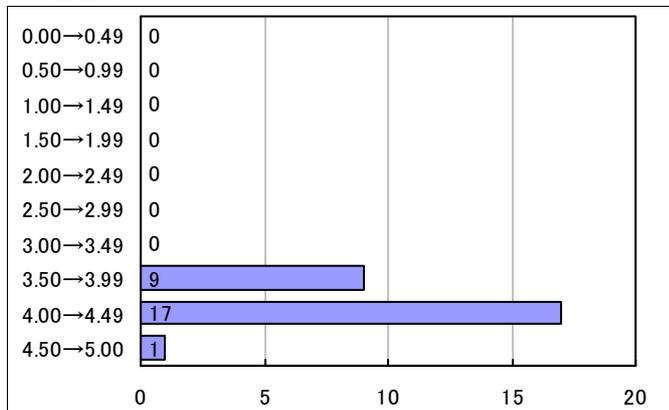
平均値 = 3.90

■人間生活科学部・教育保育学科



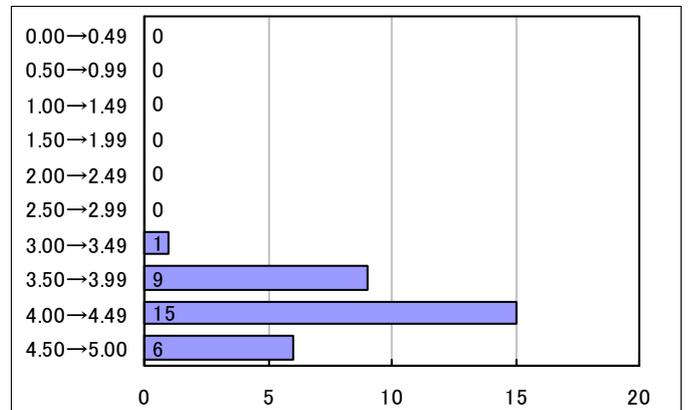
平均値 = 3.85

■経営学部



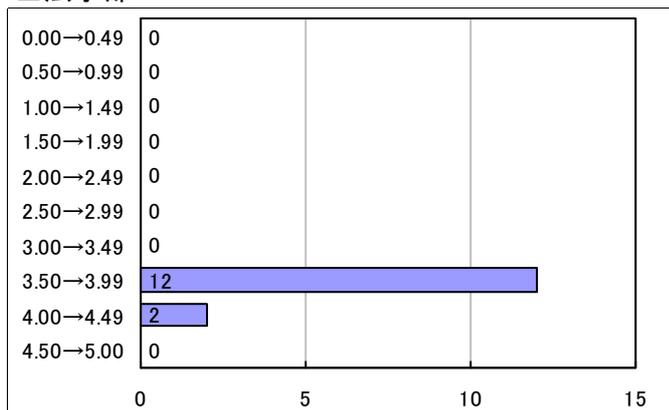
平均値 = 4.00

■非常勤



平均値 = 4.02

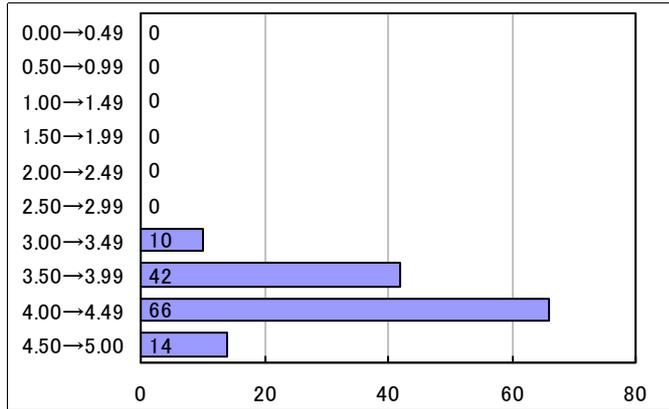
■法学部



平均値 = 3.83

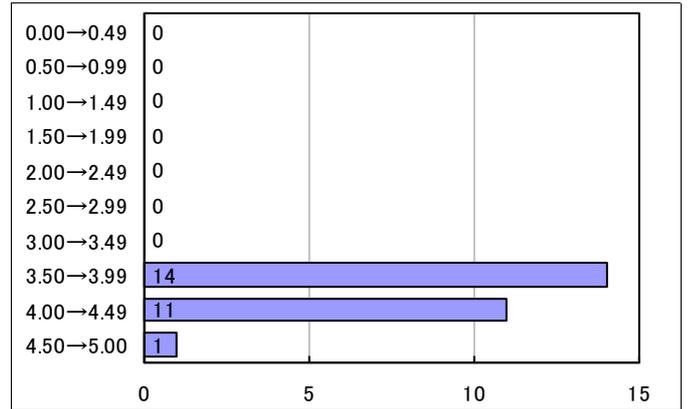
●4.授業内容はわかりやすかったですか

■全体



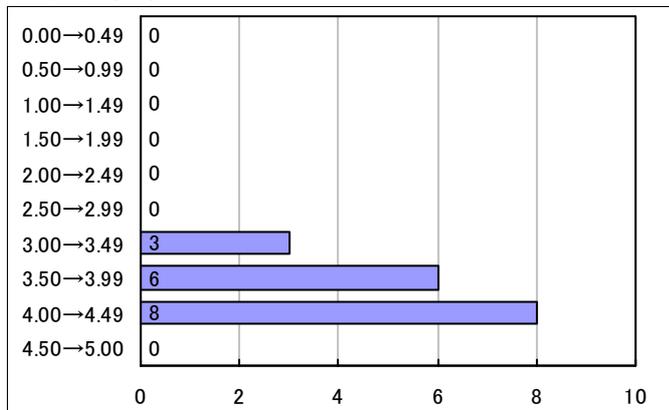
平均値 = 3.96

■人間生活科学部・管理栄養学科



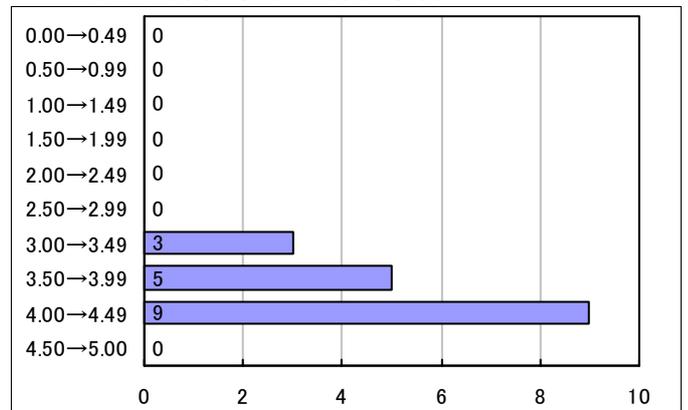
平均値 = 3.98

■経済学部



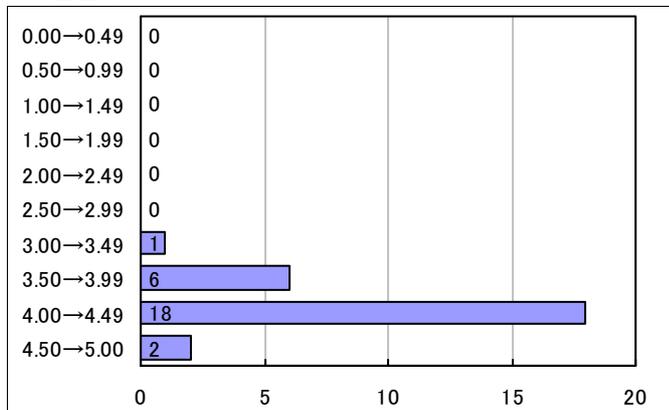
平均値 = 3.90

■人間生活科学部・教育保育学科



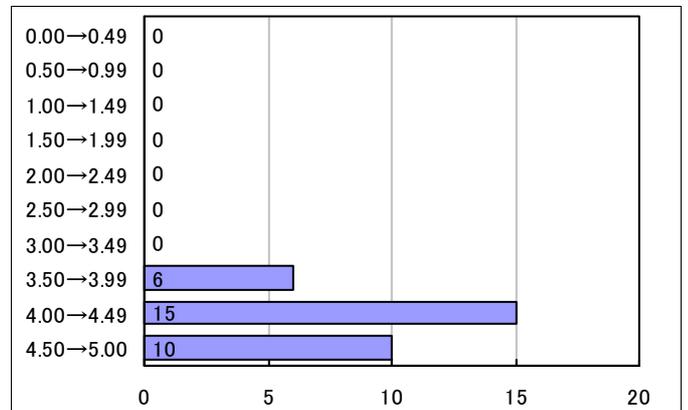
平均値 = 3.82

■経営学部



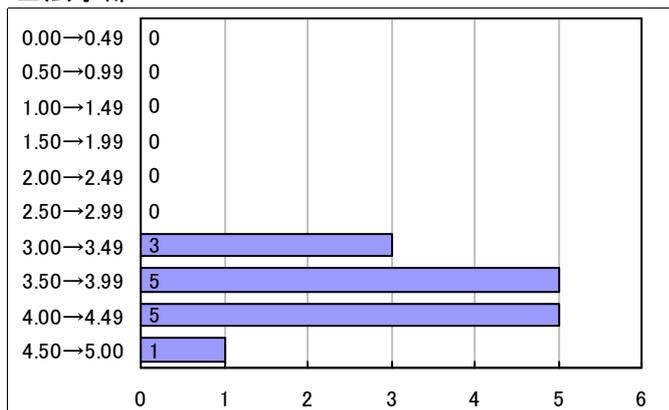
平均値 = 4.06

■非常勤



平均値 = 4.19

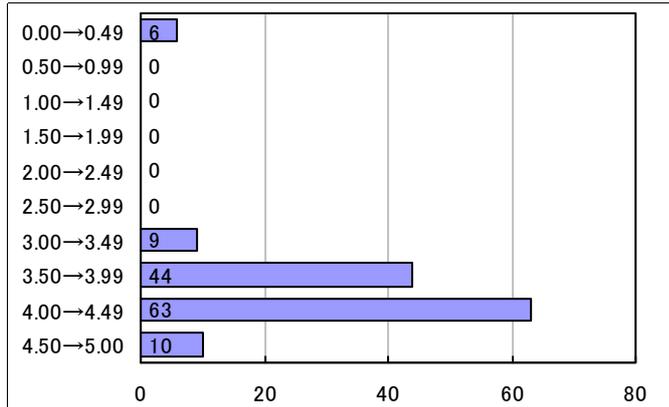
■法学部



平均値 = 3.73

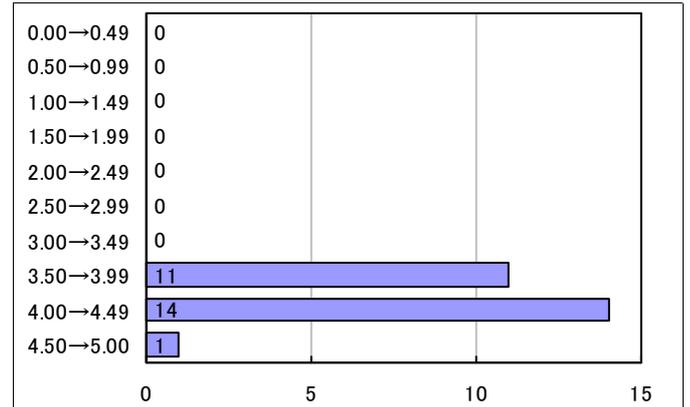
●5.この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか

■全体



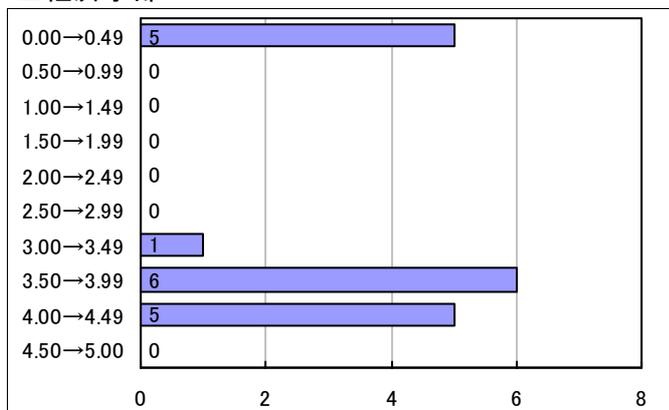
平均値 = 3.96

■人間生活科学部・管理栄養学科



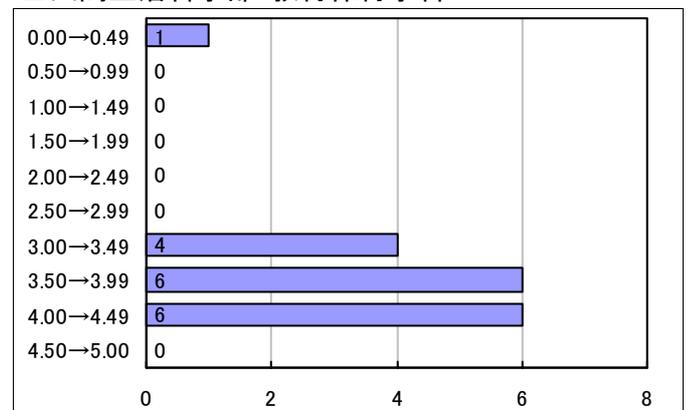
平均値 = 4.01

■経済学部



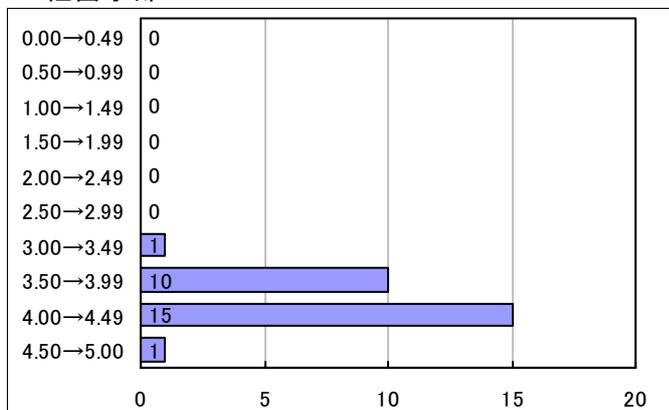
平均値 = 3.92

■人間生活科学部・教育保育学科



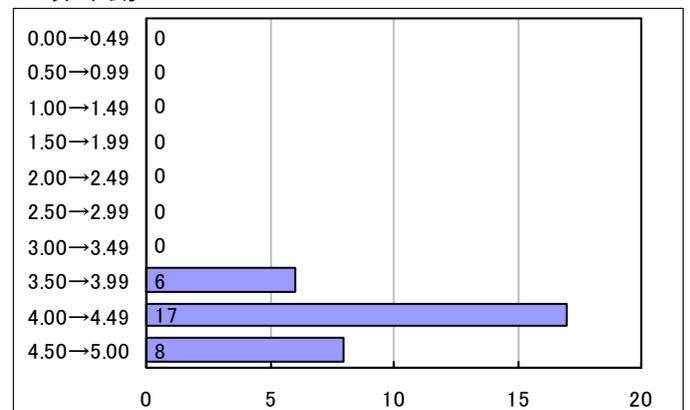
平均値 = 3.79

■経営学部



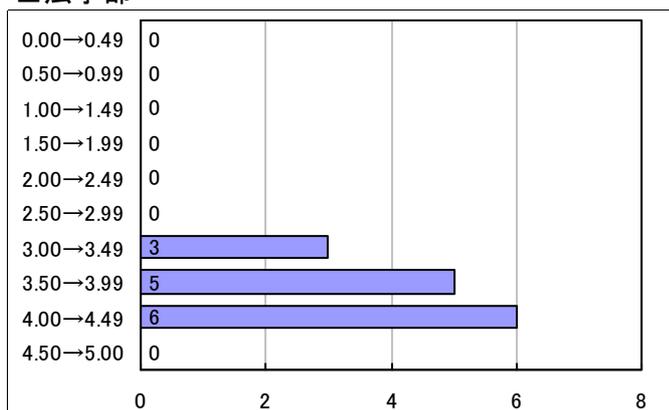
平均値 = 3.99

■非常勤



平均値 = 4.19

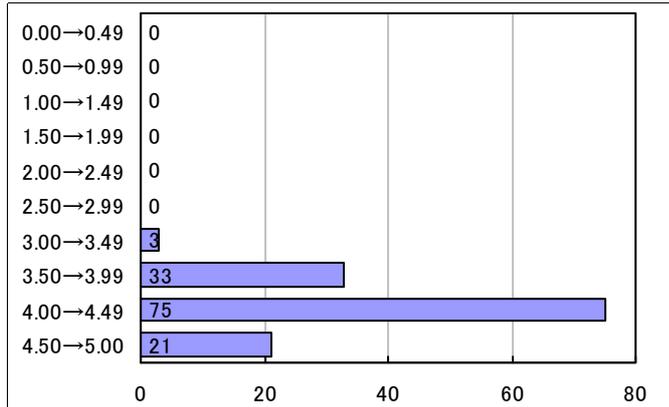
■法学部



平均値 = 3.78

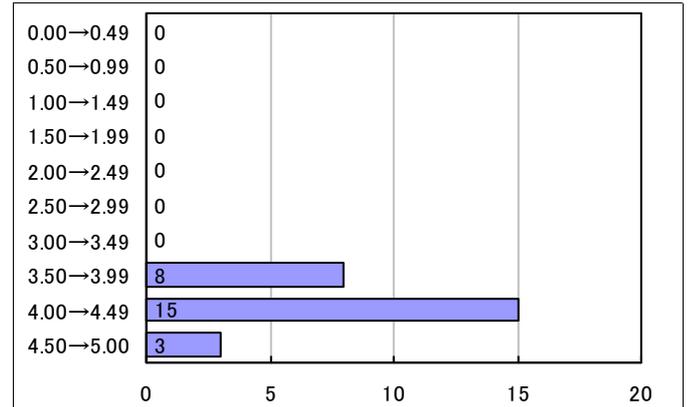
●6.教員の教え方には熱意があったと思いますか

■全体



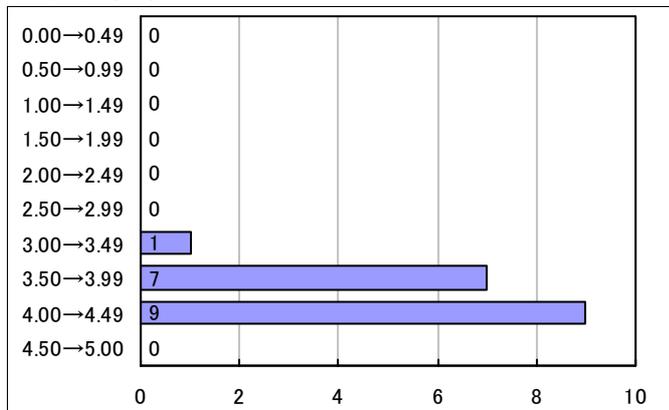
平均値 = 4.12

■人間生活科学部・管理栄養学科



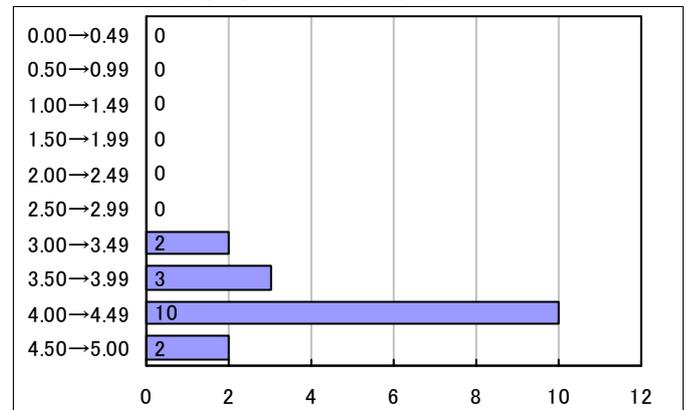
平均値 = 4.14

■経済学部



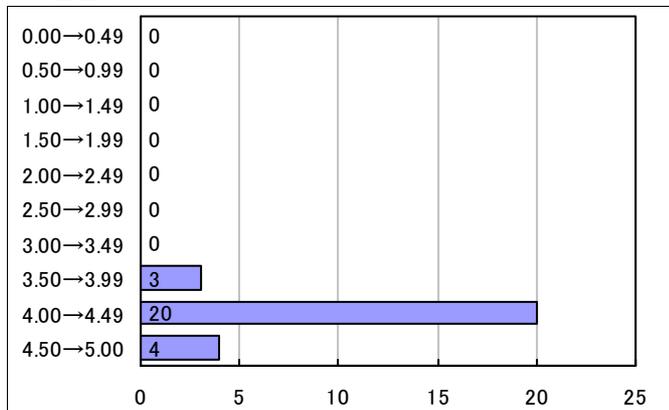
平均値 = 4.00

■人間生活科学部・教育保育学科



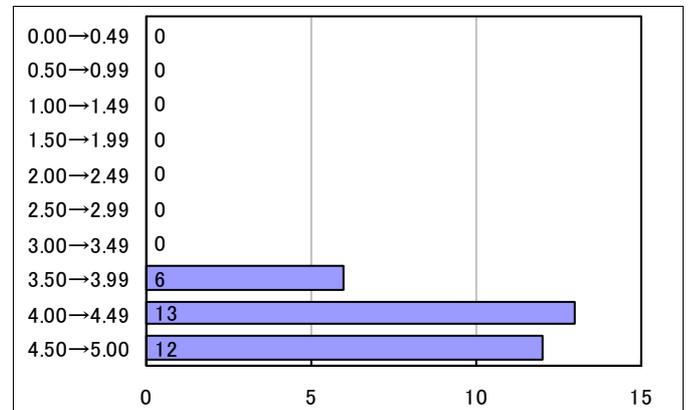
平均値 = 4.07

■経営学部



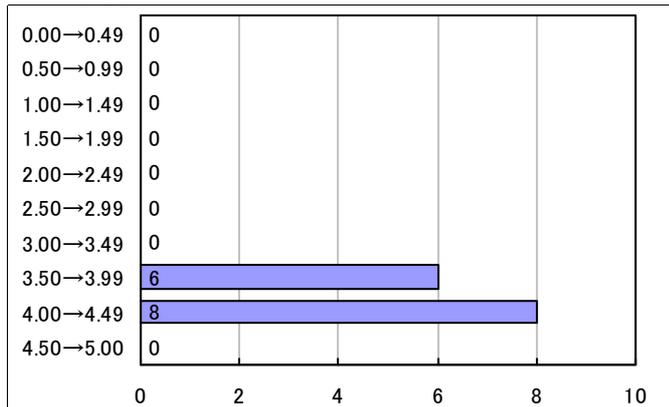
平均値 = 4.22

■非常勤



平均値 = 4.28

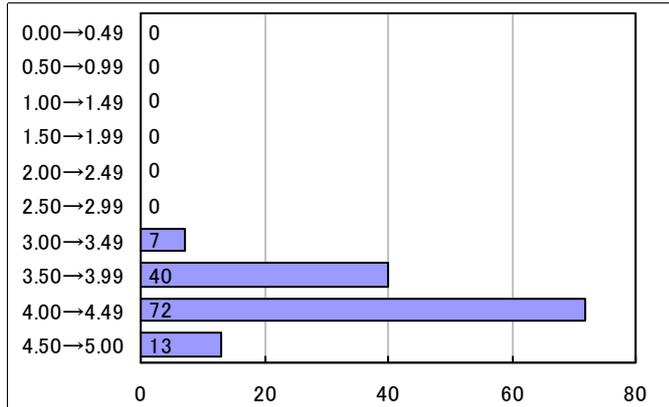
■法学部



平均値 = 3.97

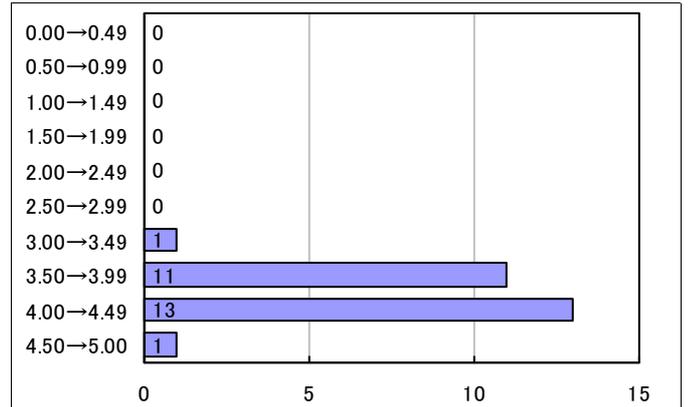
●7.授業の速さや進め方は適切だったと思いますか

■全体



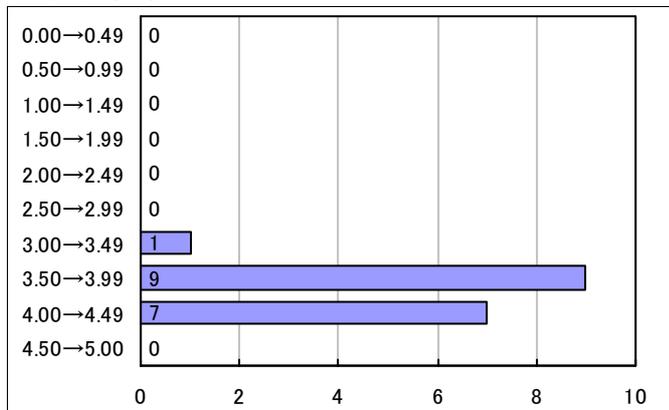
平均値 = 4.02

■人間生活科学部・管理栄養学科



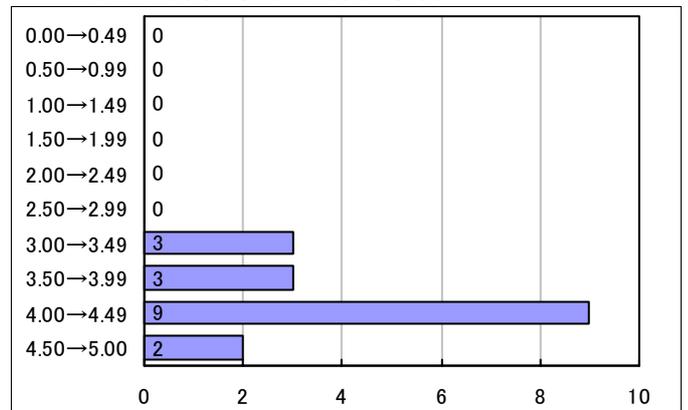
平均値 = 4.00

■経済学部



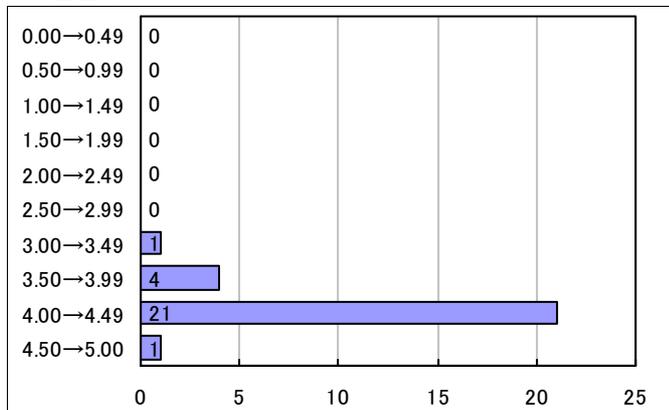
平均値 = 3.93

■人間生活科学部・教育保育学科



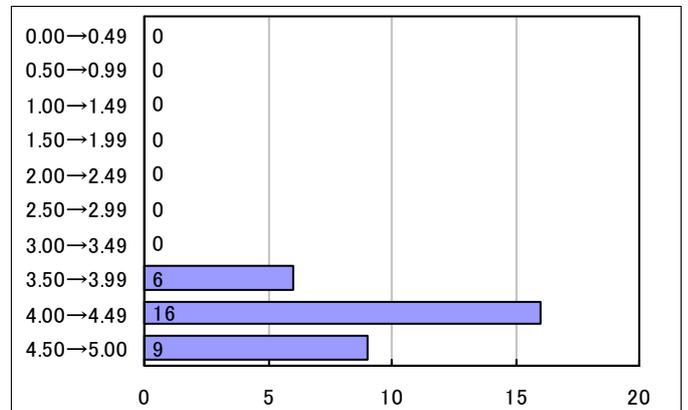
平均値 = 3.95

■経営学部



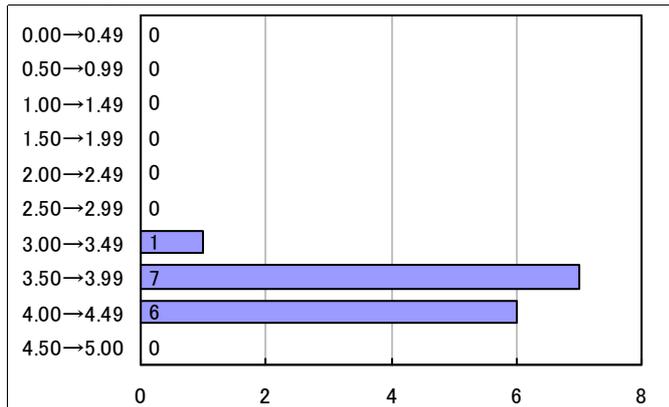
平均値 = 4.09

■非常勤



平均値 = 4.21

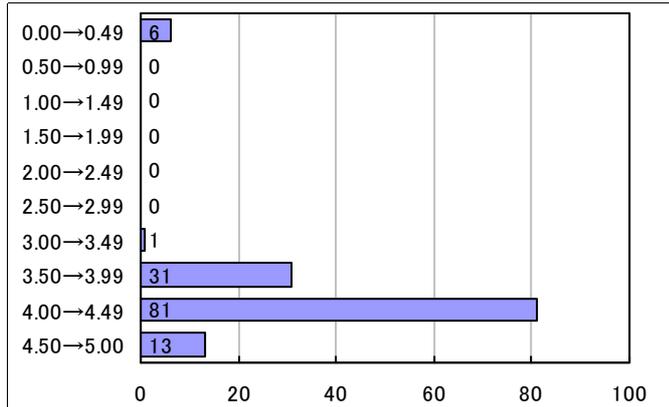
■法学部



平均値 = 3.89

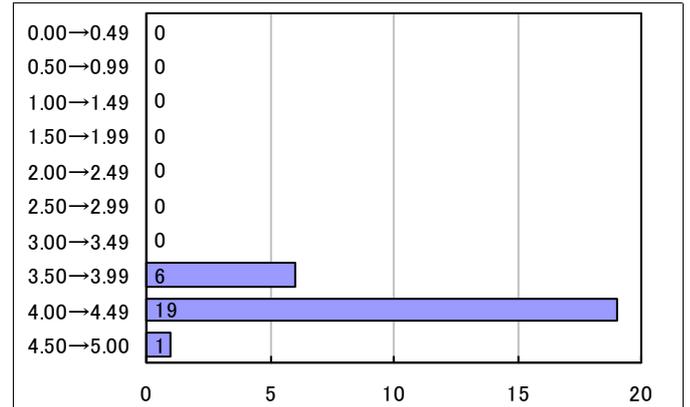
●8.教科書・配布資料は活用されていたと思いますか

■全体



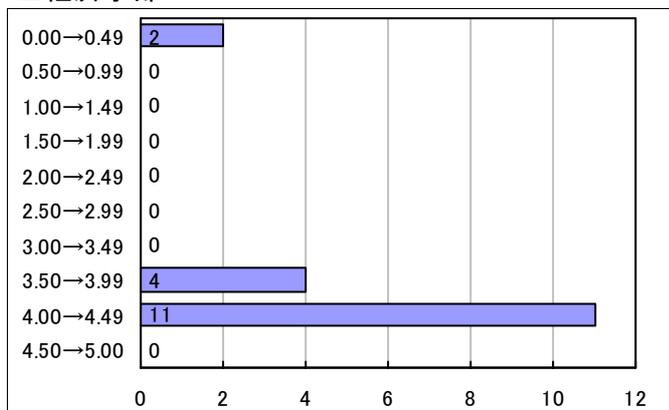
平均値 = 4.07

■人間生活科学部・管理栄養学科



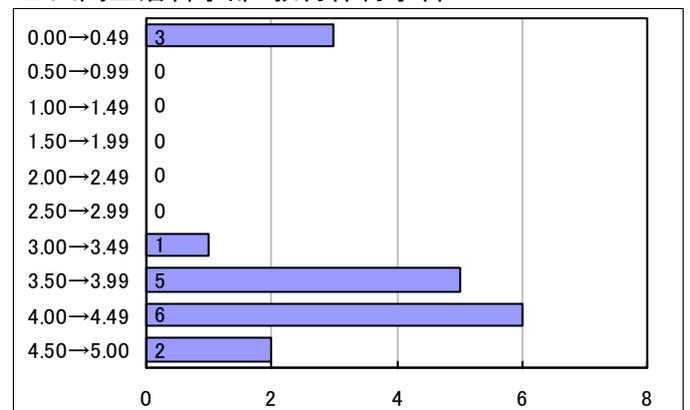
平均値 = 4.14

■経済学部



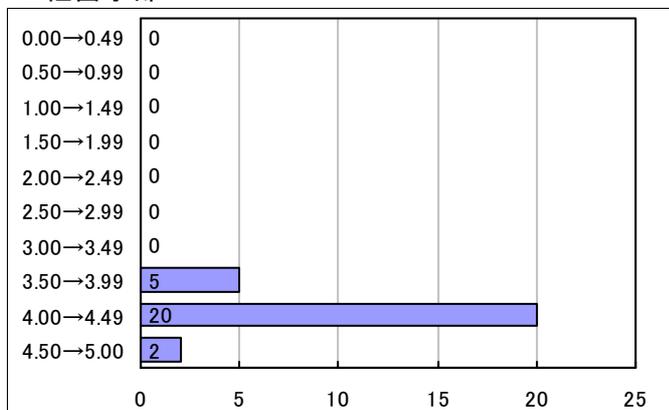
平均値 = 4.00

■人間生活科学部・教育保育学科



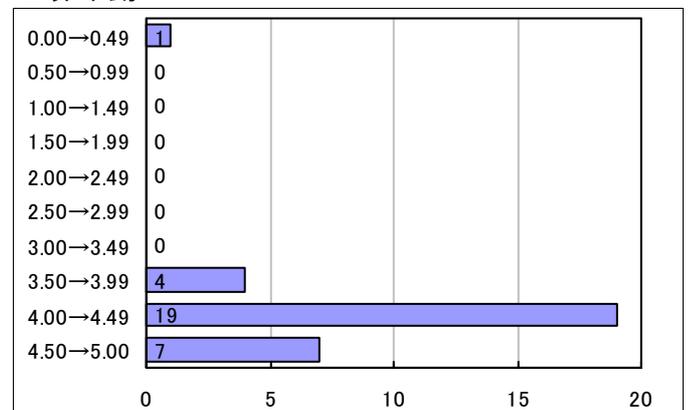
平均値 = 3.98

■経営学部



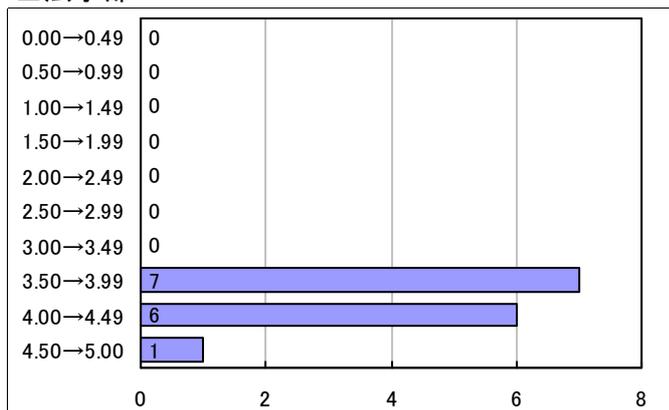
平均値 = 4.09

■非常勤



平均値 = 4.22

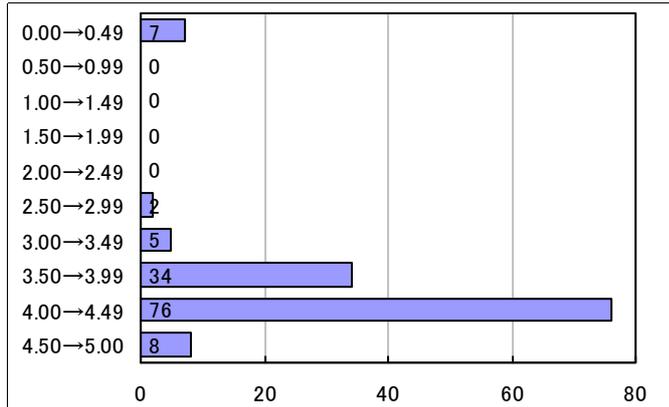
■法学部



平均値 = 3.91

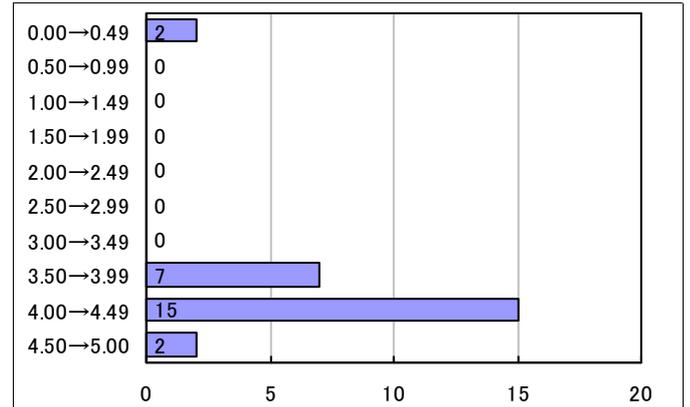
●9.板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか

■全体



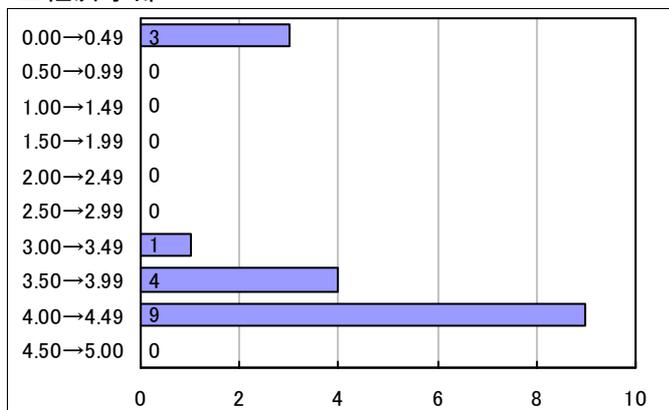
平均値 = 4.02

■人間生活科学部・管理栄養学科



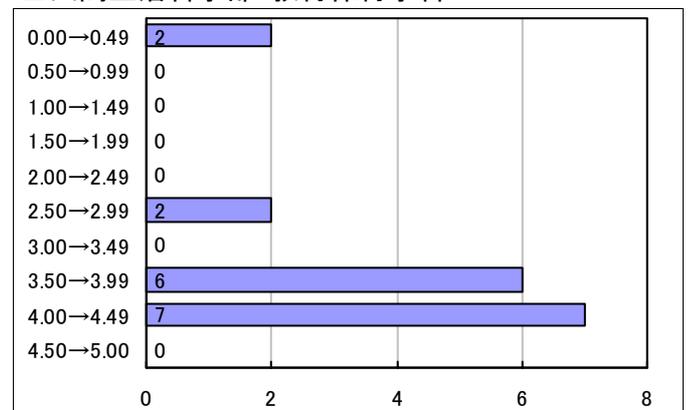
平均値 = 4.10

■経済学部



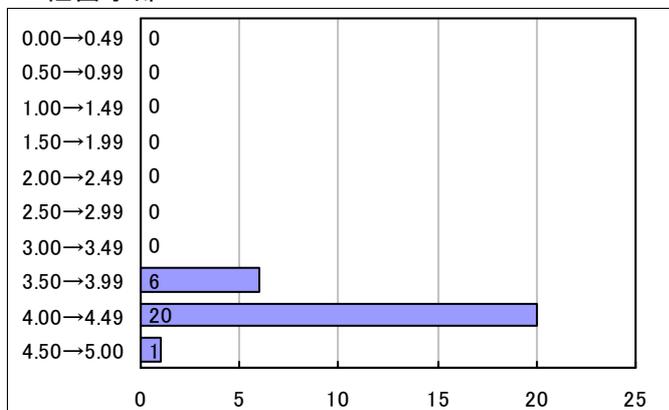
平均値 = 3.92

■人間生活科学部・教育保育学科



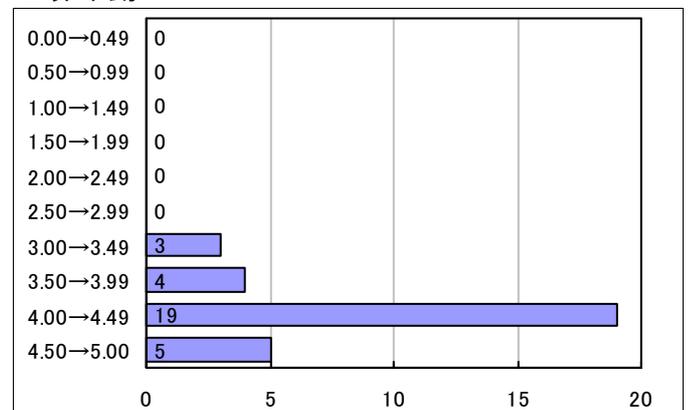
平均値 = 3.92

■経営学部



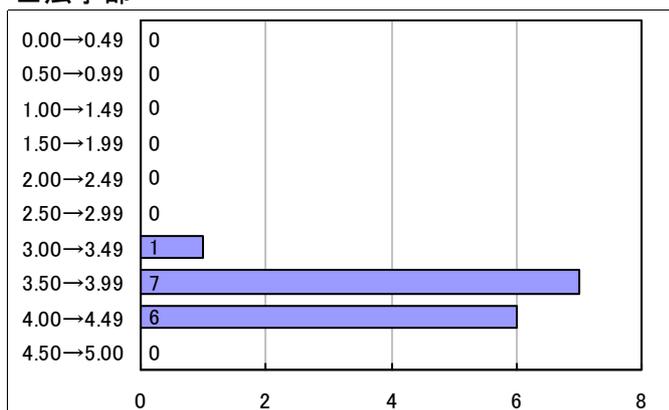
平均値 = 4.10

■非常勤



平均値 = 4.07

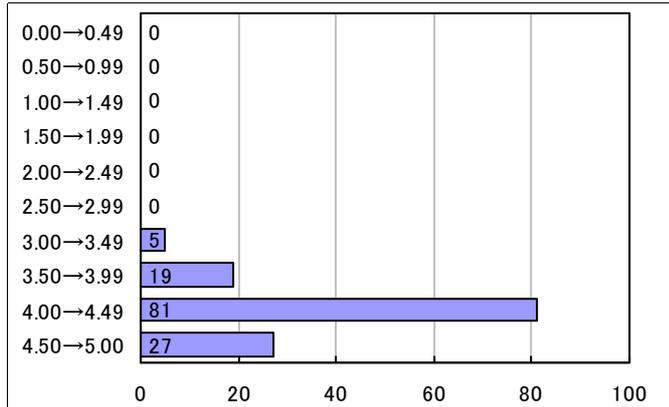
■法学部



平均値 = 3.84

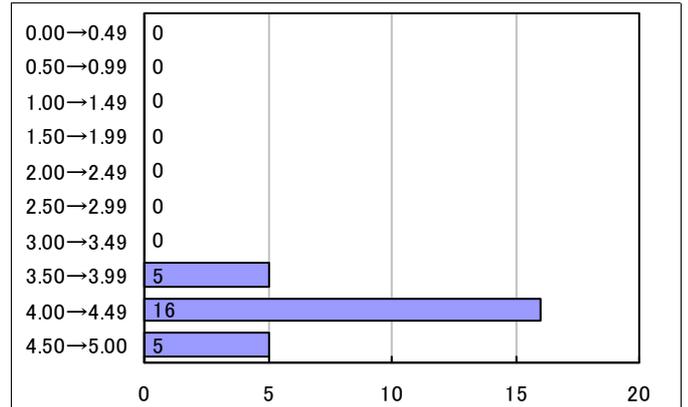
●10.教員の声は聞き取りやすかったですか

■全体



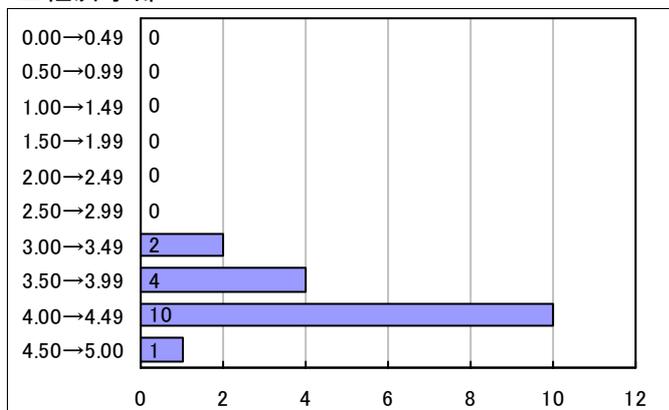
平均値 = 4.16

■人間生活科学部・管理栄養学科



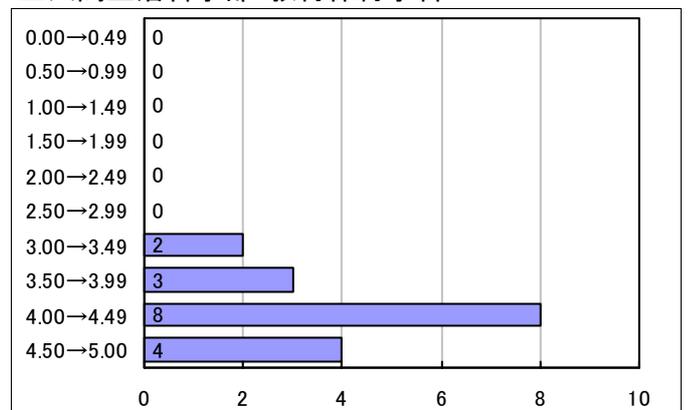
平均値 = 4.20

■経済学部



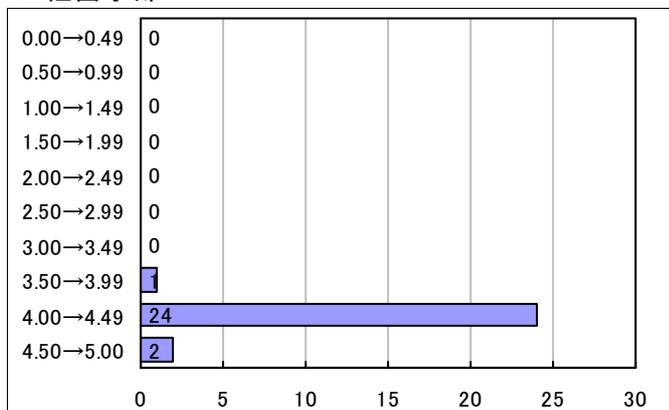
平均値 = 4.10

■人間生活科学部・教育保育学科



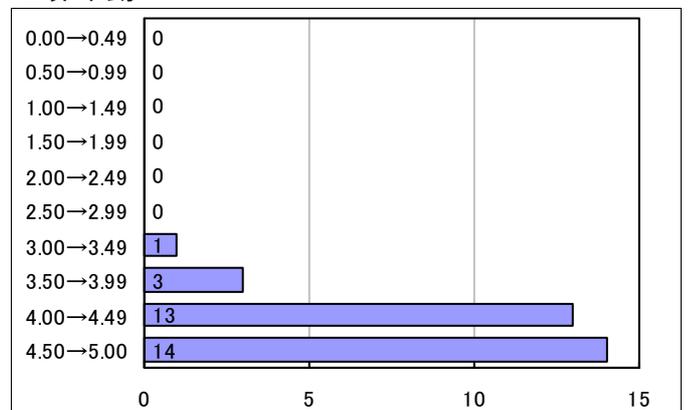
平均値 = 4.04

■経営学部



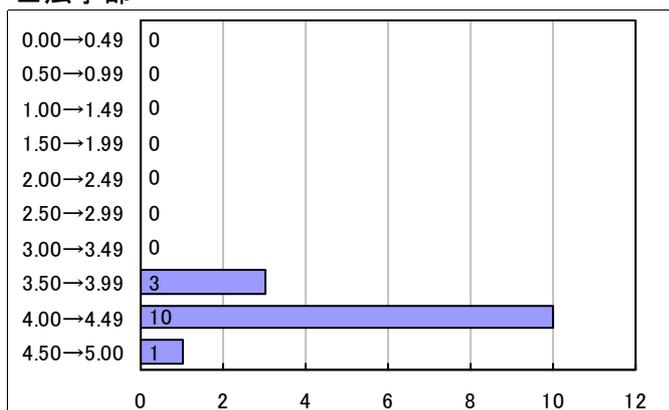
平均値 = 4.23

■非常勤



平均値 = 4.26

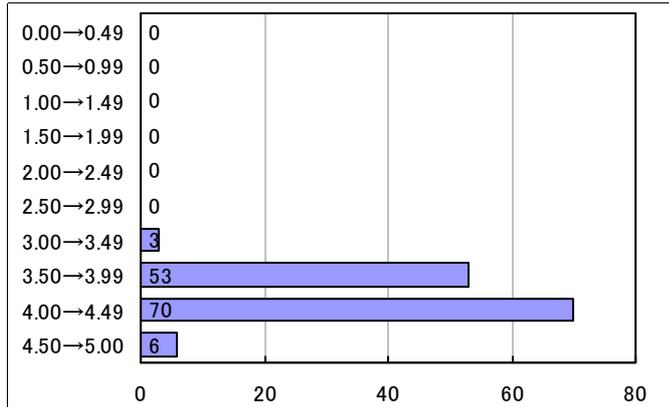
■法学部



平均値 = 4.02

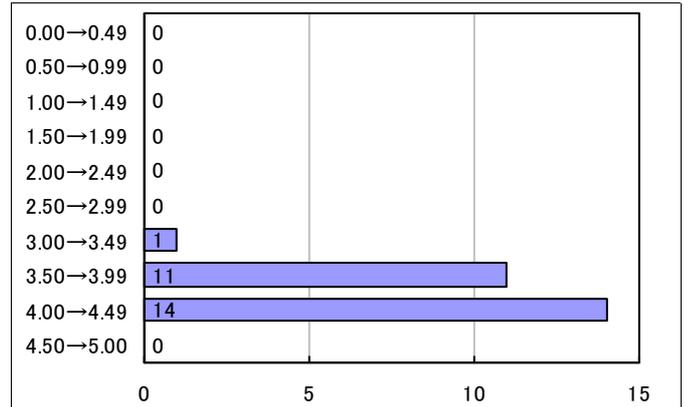
●11.一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか

■全体



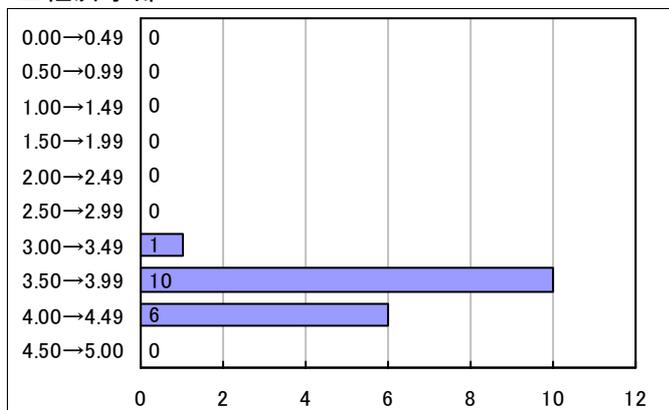
平均値 = 4.00

■人間生活科学部・管理栄養学科



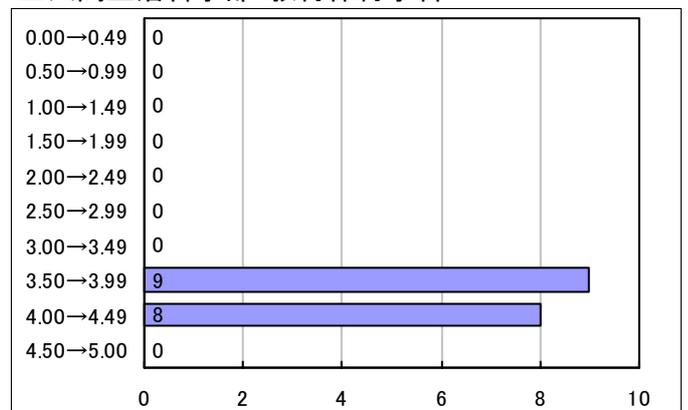
平均値 = 4.01

■経済学部



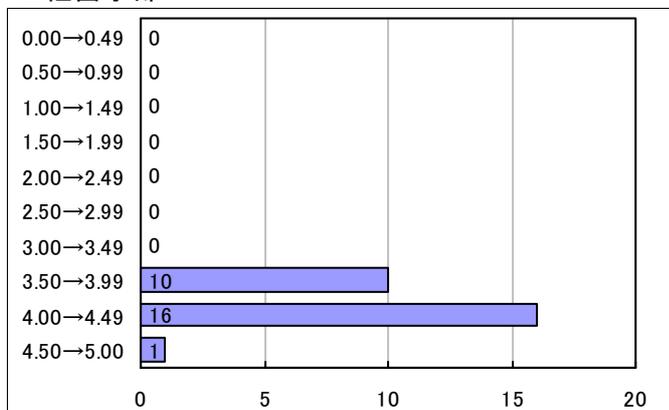
平均値 = 3.89

■人間生活科学部・教育保育学科



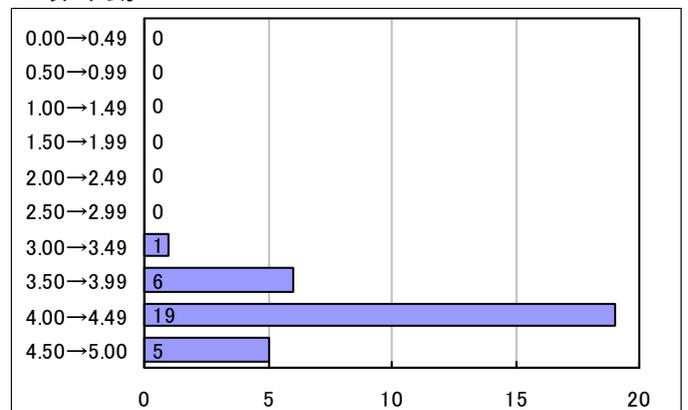
平均値 = 3.94

■経営学部



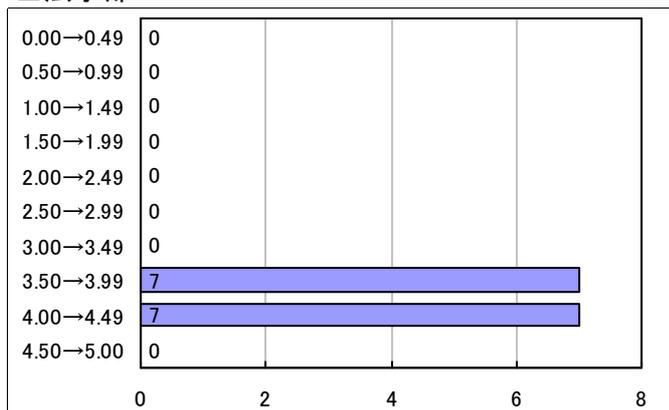
平均値 = 4.05

■非常勤



平均値 = 4.08

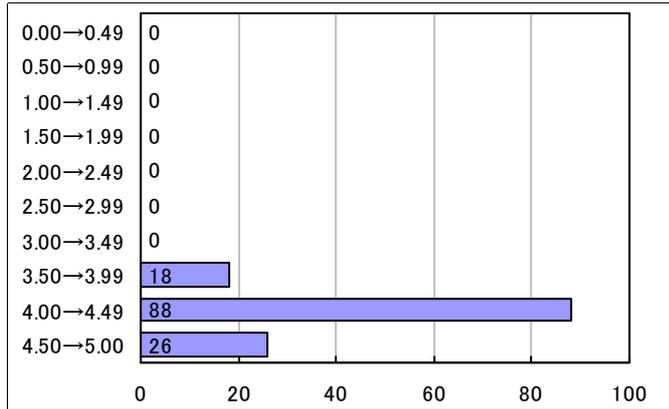
■法学部



平均値 = 3.96

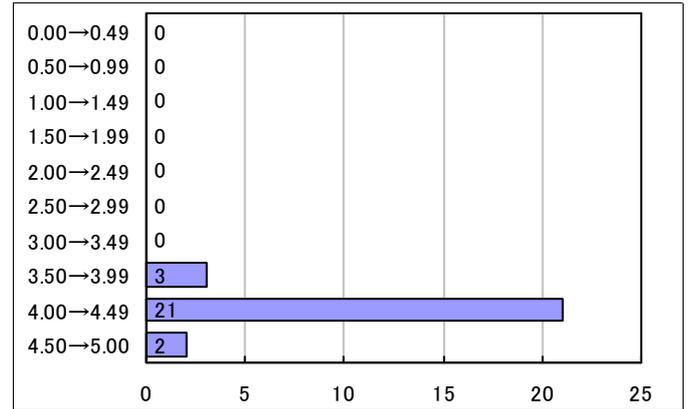
●12.教員は授業時間を守っていたと思いますか

■全体



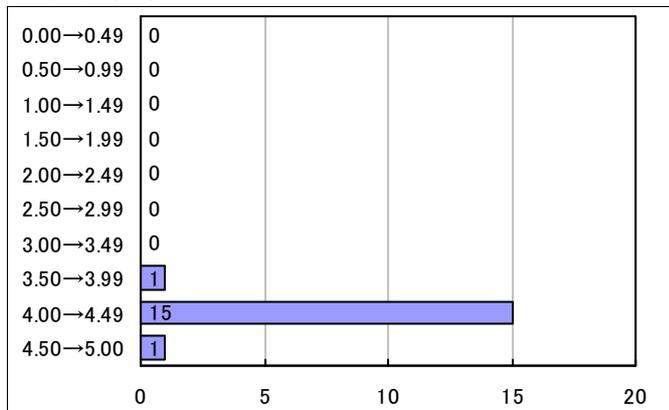
平均値 = 4.20

■人間生活科学部・管理栄養学科



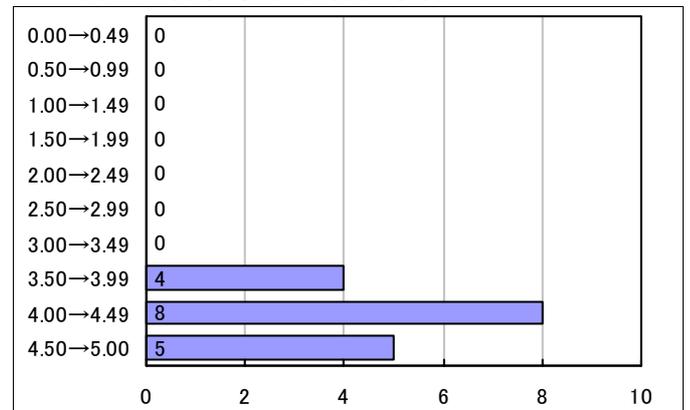
平均値 = 4.23

■経済学部



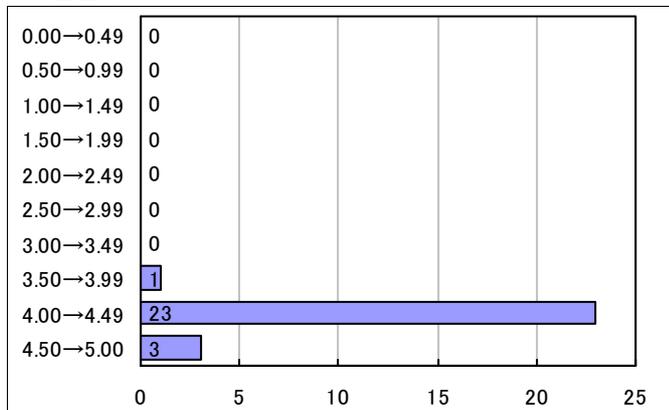
平均値 = 4.16

■人間生活科学部・教育保育学科



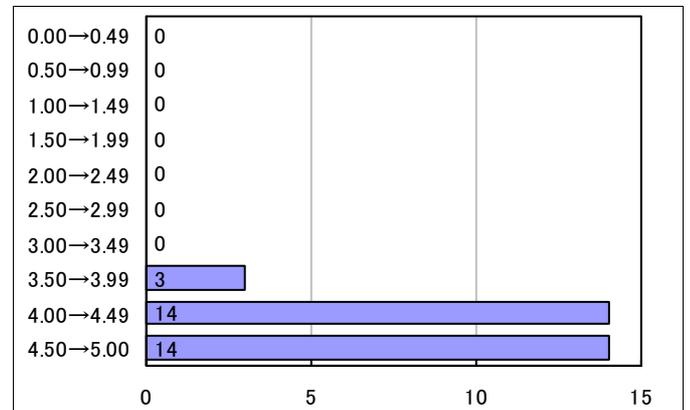
平均値 = 4.18

■経営学部



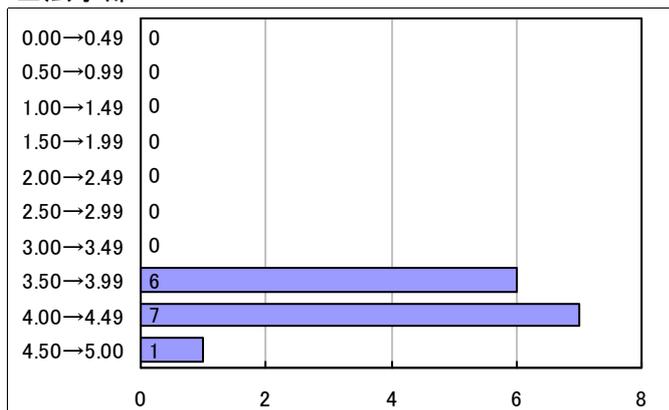
平均値 = 4.22

■非常勤



平均値 = 4.32

■法学部



平均値 = 4.05

## 平成 27 年度前期 法学部授業アンケート結果報告

### 1 実施概要

所属名	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
法学部	1,745	1,745	992	56.85
<b>【全体】</b>	<b>8,873</b>	<b>8,832</b>	<b>5,827</b>	<b>65.98</b>

法学部の専任教員担当科目のうち 20 科目が今回のアンケート対象であり、20 科目すべてのアンケートが回収された。該当科目履修者数に対する回答率は 56.85%と、前年度前期より約 2%低下した。全学部学科の中でも有意に低い回答率にとどまっているこの現状の理由を明らかにするべく、早急に行うべき対策として、アンケート実施日における出席者数とアンケート回答者数の比較を実施したい。その結果をもとに、アンケート実施対象科目を履修している学生が、アンケート実施日に出席していない、又は出席を諦めているのか、それとも授業には出席しているが、アンケートに回答しないかのいずれかにあるかを明らかにし、適切な対策を講じたい。

### 2 法学部所属教員の結果（他学部科目及び他学部履修生を含む）

設問	内容	平均
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	3.7
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.8
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたかと思いますか	3.8
4	授業内容は、わかりやすかったかと思いますか	3.7
5	この授業を受けて新しいもの見かたや考え方を得られたかと思いますか	3.7
6	教員の教え方には、熱意があったかと思いますか	3.9
7	授業の速さや進め方は、適切だったかと思いますか	3.8
8	教科書、配布資料が活用されていたかと思いますか	3.9
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたかと思いますか	3.8
10	教員の声は聞き取りやすかったかと思いますか	4.0
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったかと思いますか	3.8
12	教員は、授業時間を守っていたかと思いますか	4.0

昨年度の結果と比較すると全体的に横ばいまたはわずかではあるが低下傾向が認められ、平均値の上昇が認められた項目は一つも認められなかった。特に出席に関する設問 1 の値が、昨年度より 0.5 ポイントの大幅な低下を記録したことが、もっとも顕著な変化として認められた。意欲に関する設問 2 の値には変化が認められなかったことから、気になるところである。

### 3 法学部生学年別結果

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年	5年以上
1	あなたは、この授業に出席しましたか	3.8	4.0	3.5	3.7	3.5	4.3
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.8	3.9	3.7	3.7	4.0	3.3
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたかと思いますか	3.8	3.8	3.8	3.8	4.0	4.3
4	授業内容は、わかりやすかったかと思いますか	3.8	3.8	3.8	3.7	4.2	4.3
5	この授業を受けて新しいもの見方や考え方を得られたかと思いますか	3.8	3.9	3.7	3.7	4.0	4.3
6	教員の教え方には、熱意があったかと思いますか	4.0	4.0	3.9	3.9	4.2	5.0
7	授業の速さや進め方は、適切だったかと思いますか	3.9	3.8	3.9	3.9	4.0	3.7
8	教科書、配布資料が活用されていたかと思いますか	3.9	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたかと思いますか	3.9	3.9	3.9	3.8	4.1	3.3
10	教員の声は聞き取りやすかったかと思いますか	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.3
11	私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったかと思いますか	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	4.7
12	教員は、授業時間を守っていたかと思いますか	4.1	4.1	3.9	4.1	4.2	4.3
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	4.1	1.5	1.4	1.4	1.7	1.7

昨年度前期での結果報告では、新カリキュラムの学生の値が相対的に低いという点が指摘されていた。今年度の結果を見ると、2, 3年生と比較すると1年生において意欲に関する設問2やものの見方・考え方に関する設問5の値が若干ながら高いことから、旧カリキュラムと新カリキュラムの学生の間の相違は目立たないものとなっている。他方で2, 3年生については新しいものの見方に関する設問5の値の低さとともに、出席に関する設問1の値の低さが気になった。同じ設問について、昨年度の1年生が4.1、2年生が4.2という値を示していたことを考えると、大いに気になるところである。演習担当教員を通じての指導などの対処が必要であろう。4年生についても、やはり設問1の値も低下している(昨年度3年生の値4.1)が、これについては就職活動時期のずれも作用している可能性が認められる可能性も高い。

#### 4 履修者数別結果

設問	内容	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250
1	あなたは、この授業に出席しましたか	3.7	3.7	3.8	3.6	3.9
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.8	3.8	3.9	3.5	3.7
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたかと思えますか	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7
4	授業内容は、わかりやすかったと思えますか	3.9	3.8	3.9	3.3	3.4
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思えますか	3.8	3.8	3.9	3.2	3.6
6	教員の教え方には、熱意があったと思えますか	4.1	3.9	4.1	3.6	3.6
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思えますか	3.9	3.9	3.9	3.6	3.4
8	教科書、配布資料が活用されていたと思えますか	4.1	4.0	3.9	3.8	3.6
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思えますか	3.9	3.8	4.0	3.3	3.5
10	教員の声は聞き取りやすかったと思えますか	4.1	4.0	4.1	3.9	3.8
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思えますか	3.9	3.9	3.9	3.6	3.8
12	教員は、授業時間を守っていたと思えますか	4.0	4.1	4.1	3.9	3.8

履修者数別結果であるが、150人を超える大教室の授業については、アンケート対象科目のうち151人以上が1科目、201人以上も1科目と極端に少なく、今後に結びつく分析を行うだけのデータの蓄積が認められなかった。他方で、履修者150人以下の科目に関しては、教室規模による値の有意な相違は認められない。大教室の授業で座席指定を取り入れたことなどの効果であろうと思われる。他方で、50人以下の少人数授業の値が昨年度に引き続きわずかながら低下傾向にあることは気になるところである。

#### 5 授業のわかりやすさ(設問4)及び新しいものの見方(設問5)(法学部関係科目及び法学部専任教員が担当する科目)

科目名	わかりやすさ	ものの見方
基礎英語 I(F)(水 1)	4.26	3.96 ③
契約法 I/債権各論(水 3)	4.19	4.06 ①
手形法・小切手法 I/手形法・小切手法(金 3)	4.13	3.91 ⑦
知的財産法 I/知的財産法(木 2)	4.07	3.71
裁判と法①/裁判と法(木 2)	4.06	3.94 ⑤
企業と法②(水 1)	3.98	3.91 ⑧
情報と法(木 1)	3.94	3.95 ④
法学検定対策 II(宅建対策)/資格・検定講座 II(宅建対策)(火 3)	3.92	3.83
行政法総論(月 4)	3.91	3.91 ⑨
(留)市民生活と法②E(水 2)	3.90	4.04 ②
裁判と法②(木 2)	3.89	3.91 ⑥
憲法(金 1)	3.80	3.90
労働法 I/労働法(月 2)	3.76	3.90 ⑩
雇用と労働/労働経済/インダストリアル・リレーション(火 3)	3.75	3.66
民法総則/民法総則 I(再)(木 1)	3.72	3.83
英語コミュニケーション D(月 4)	3.57	3.41
企業と法①/企業と法(水 1)	3.53	3.27
市民生活と法①A(木 2)	3.41	3.56
国際法 II/国際法(水 2)	3.38	3.29
商法総則/商法/商法総則・商行為法(金 2)	3.29	3.16

上の表では、授業のわかりやすさ（設問4）の値が高い順に科目を列挙し、最も右の列に新しいものの見方（設問5）の値が高い上位10科目について丸囲みの数字でその順番を示した。今年度は相関関係の分析は行わなかったが、設問4の値が高い科目と設問5の値の高い科目は概ね対応する関係があるように認められる。

## 6 授業・教室管理について

科目名	平均
契約法Ⅰ/債権各論(水3)	4.30
知的財産法Ⅰ/知的財産法(木2)	4.21
法学検定対策Ⅱ(宅建対策)/資格・検定講座Ⅱ(宅建対策)(火3)	4.17
情報と法(木1)	4.01
手形法・小切手法Ⅰ/手形法・小切手法(金3)	4.00
(留)市民生活と法②E(水2)	4.00
労働法Ⅰ/労働法(月2)	3.90
行政法総論(月4)	3.88
裁判と法②(木2)	3.87
英語コミュニケーションD(月4)	3.85

授業及び教室管理について、高評価順に10科目を示すと、左記の通りである。

昨年度の結果報告において危惧していたように、旧カリキュラム科目の多くがアンケート対象科目から外れたことにより、値が大幅に低下する結果となった(昨年度は第10位の科目で4.14であった)。

新カリキュラムの特徴である、専門科目選択の幅の狭まりと、それに伴う教室規模の相対的増大という現実を受けて、いかに学生の興味関心を引き付ける授業を行えるかという課題が、教員に課されているといえる。

## 7 複数教員による授業

科目名	平均
(留)市民生活と法②E(水2)	4.11
裁判と法②(木2)	3.96
裁判と法①/裁判と法(木2)	3.88
企業と法②(水1)	3.69
雇用と労働/労働経済/インダストリアル・リレーション(火3)	3.37

複数教員による授業を好ましいという評価のあった授業を、高評価順に5科目示すと、左記の通りである。

4.33という全学部を通じての最高値であった、キャリア科目である「社会とつながる」を除くと、今年度も3学部関係科目では留学生向けの基礎Ⅰ科目が上位を占めていた。それに裁判と法が続く高評価を得ていた。

## 8 クロス集計

			設問4					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし			3		1	
		1	2	170	68	22	10	1
		2	2	35	265	51	25	4
		3	4	10	65	159	16	4
		4	1	4	17	4	8	9
		5		1	1	6	4	20

			設問8					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	2			1	1	
		1	3	198	55	11	4	2
		2	4	73	239	45	17	4
		3	2	21	69	152	6	8
		4		8	15	10	5	5
		5	1	1	4	9	3	14

			設問9					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	2		1		1	
		1	1	187	53	18	10	4
		2	3	48	250	60	16	5
		3		16	61	157	17	7
		4		5	16	7	9	6
		5		1	2	5	8	16

			設問10					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	2		1		1	
		1	1	217	46	5	4	
		2	1	71	272	28	10	
		3	2	31	68	143	10	4
		4		12	14	7	7	3
		5		3	3	5	3	18

クロス集計は、教室管理（設問 11）と設問 4、設問 8、設問 9、設問 10 と行なった。それぞれ共通していえることは、一般に教室・授業管理について高い評価を得ている場合、クロス項目の評価も高いということである。

## 9 専門共通基礎科目について

対象	科目名	設問04 (わかりやすさ)	設問05 (新しいものの見方)	設問11 (教室・授業管理)	設問13 (オムニバス)
全学生	市民生活と法①A(木2)	3.41	3.56	3.77	3.37
全学生	(留)市民生活と法②E(水2)	3.90	4.04	4.00	4.11
全学生	企業と法①／企業と法(水1)	3.53	3.27	3.46	3.30
留学生のみ		4.00	3.67	4.67	4.33
留学生を除く		3.50	3.24	3.38	3.23
全学生	企業と法②(水1)	3.98	3.91	3.83	3.69
留学生のみ		4.21	4.30	4.00	4.10
留学生を除く		3.89	3.73	3.76	3.51
全学生	裁判と法①／裁判と法(木2)	4.06	3.94	3.82	3.88
留学生のみ		2.00	3.00	4.00	3.00
留学生を除く		4.19	4.00	3.81	3.93
全学生	裁判と法②(木2)	3.89	3.91	3.87	3.96
留学生のみ		4.54	4.50	4.36	4.36
留学生を除く		3.64	3.67	3.67	3.78

専門共通基礎 I 科目である市民生活と法に関しては、昨年度前期と同様留学生向けのクラスにおいて全般に値が高い傾向が認められた。非留学生クラスに関しては、市民生活と経済、市民生活とビジネスに比較して、わかりやすさに関する設問 4 及び新しいものの見方に関する設問 5 の値が低い結果となった。次年度はよりわかりやすさを追求する授業を心がけるよう担当者に徹底をお願いしたい。留学生クラスに関しては、他の基礎 I 科目と比べて特に値が低いということはない。

専門共通基礎Ⅱについては、それぞれの科目の①が科目設置学部の学生向け（含旧カリキュラム生）、②がそれ以外の学部学生向けとなっている。法学部関係科目である企業と法、及び裁判と法について見ると、企業と法ではわかりやすさに関する設問4と、新しいものの見方に関する設問5の値について、法学部性が顕著に低いという結果が認められた。今年度は水曜日1時間目が開講されていたことから、選択必修となる法学部以外の学生について、早い時間帯からの履修を苦としない、意欲や関心のある学生が相対的に多かったためであるのかもしれない。他方で、木曜日2時間目が開講されていた裁判と法では、設問4と設問5のいずれについても、法学部の学生の方がわずかながら高い値を示した。

## 平成 27 年度前期 経済学部授業評価アンケート結果考察

### 1. 前期実施概要について

回収率（回収科目数÷対象科目数）は今回は 100%で（昨年 27 科目中 1 科目未提出）、回答率（回答者数÷回収科目履修者数）は 64.44%で昨年度前期とほぼ同じであった（昨年度 64.33%）。しかし、昨年度と同じく人間生活科学部 2 学科より格段に低い回答率である（今年度人間生活科学部・管理栄養学科 82.97%、同学部・教育保学科 80.64%）。これは、3 学部（経済 64.44、経営 63.39、法学部 56.85）に共通する問題である。この回収率の低さは、経済学部ではアンケートを取る前期終盤で、すでに失格になっている学生がかなり多いということを示している。また、それは、アンケートの設問 1 の出席率に反映されており、今年度経済学部のポイントは 3.86 であるが、管理栄養学科は 4.63、昨年度経済学部は 4.22、管理栄養学科は 4.68 であった。アンケートの回収率を上げる、即ち学生の出席率を上げ失格者を減らすためには、各授業の質を高めることが大切なのはもちろんであるが、すべての学生に授業に臨む真摯な姿勢（授業をサボらない、授業中私語をしない、スマホを操作しないなど）を持たせるように指導していくことも必要不可欠なことである。

### 2. 設問 1～13 について（概観）

アンケートの設問は次の通りである。

A	あなたの所属している学部・学科は、どこですか
B	あなたは何年生ですか
C	あなたは留学生ですか
D	あなたはこの授業のシラバスを読みましたか
1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか

13	複数教員による授業は良かったと思いますか
14	(自由質問)

昨年度と比較すると、経済学部では設問1、3、12のポイントは昨年度より低いですが、残りの設問については昨年度より高い(小数点第2位までを見て)。一見昨年度と比べ結果がかなりよくなったように見えるが、今年度は留学生の数が増加したこともポイントを上げる一因となっているように思われる(後述)。全体の平均との比較では、人間生活科学部2学科が3学部(経済、経営、法)より全体的にポイントが高いため、経済学部は多くの設問で全体の平均以下となっている。ただ、全項目で平均値を下回った昨年度と比べ、今年度は設問5、12は平均と同点、設問7、8、9は平均より高くなっており改善している。ただ、この点についても、留学生のポイントが含まれていることが関連しているのかもしれない。また、今年度は設問1の出席率がかなり低い(3.86)ため、さらなる授業内容、また設備等の授業環境の改善が今後も一層望まれる。

### 3. 学生視点集計結果から

#### 1) 経済学部留学生と留学生以外の結果の比較

設 問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
全 体	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.2	3.8
留学生	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4	4.2	4.4	4.2
留学生以外	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	3.9	4.2	3.6

表からわかるように、すべての設問で留学生のほうがポイントが高い。これは、経営学部にもあてはまる(法学部には留学生はほとんどいない)。このような結果になったのは、留学生が授業を高く評価したからかもしれないが、留学生は、それ以外の学生と比較し、言葉の壁があり授業を詳細に評価することができないからかもしれない。また、本学の留学生はほとんどがアジア出身であるため、文化的な側面(教員と学生の距離が、日本人の場合よりも少し遠いかもしいかなど)も影響している可能性もある。前述の通り、経済学部の場合全体的に昨年度よりポイントが高くなったのも、今年度は留学生の数が増加したという点も考慮にいれるべきであろう。

#### 2) 経済学部学年別結果比較

設 問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
全 体	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.2	3.8
1 年	4.0	4.0	3.8	3.9	3.9	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	3.9	4.1	3.8
2 年	3.8	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.1	4.4	3.9
3 年	3.8	3.9	4.0	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	3.9	4.1	3.5
4 年	3.5	3.9	4.1	4.1	4.0	4.3	4.2	4.4	4.2	4.3	4.3	4.4	3.3

設問 10 教員の声の聞き取りやすさ と設問 12 教員は授業時間を守っていたか については全学年を通して評価が高い。また、設問 6 教員の熱意、設問 8 教科書・配付資料の有効活用 についても、次いで高い。ただ、1 年生と 3 年生が 3 点代の設問が 6 つあり、全体的に低い。昨年度は 2 年生の平均点が低かったが、その学年の学生が 3 年になり、今年度もやや厳しい点を付けているようだ。ただ、4 年生の平均が、設問 1 の出席率を除き、昨年度と同じく今年度も高いのは、3 年間知識を積み重ねたため、1～3 年の学生よりも授業に対する理解度が高まったことも一因ではないかと思われる。ただ、1 年生のポイントが低いのは、今後の勉学への動機付けに対しマイナスの要因として働くと思われるので、1 年生にとっても、わかりやすく、知的好奇心を引き出せるような魅力的な授業作りを心がけていく必要がある。設問 1 の出席率の低さもやはりここでも目立つ。ゼミ教員の指導などを通じ、なんとか出席率をあげる取り組みをすることが望ましいと思われる。

#### 4. 設問 4 わかりやすさについて

経済学部のわかりやすさに関して、経済学部全科目数 26 のうち上位 3 科目は、1 「情報 (Power Point)」 (火 1) (4. 43)、2 「経済学史 I」 (水 2) (4. 31)、3 「国民経済と政府②」 (木 4) (4. 27) である。このうち、2 と 3 が、同学部の設問 5 新しいものの見方の結果についても、それぞれ 1 位と 2 位である。また、設問 11 の教室管理に関しても、1 が 1 位、2 が 4 位、3 が 6 位となっており、わかりやすく、新しいものの見方や考え方を得られ、なおかつ静謐な教室環境であるような授業の評価が高いことがわかる。

#### 5. クロス集計データについて

クロス集計データを見る限り、設問 4 授業内容のわかりやすさ、設問 8 教科書・配付資料の有効活用、設問 9 板書やスクリーンモニターの見やすさ、設問 10 教員の声の聞き取りやすさと、設問 11 教室管理の度合いとは、昨年と同じく密接に関連していることがわかる。

アンケート結果より、教室管理が行き届き、わかりやすく、資料・教科書や設備が有効活用され、新しいものの見方や考え方が引き出すことができるような授業であれば、学生たちの評価も高まり、また出席率も向上し、卒業時に社会で役に立つような力を身につけさせることができるであろう。アンケート結果を参照にしながら、そのような魅力的な授業作りを毎回心がけ、実践していくことが肝要であると思われる。

# 平成 27 年度前期 経営学部 授業評価アンケート結果総評

経営学部 FD 委員会

## 1. 実施対象科目数、実施率、コメント提出率

所属名	対象科(A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント 提出率 (C÷B)
【全体】	153	152	99.35	0	0.00
経営学部	30	30	100.00	0	0.00

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	8,873	8,832	5,827	65.98
経営学部	2,461	2,461	1,560	63.39

経営学部の回答率は 63.39%であり、全体平均 65.32%に近い数値であった。ただし全体平均と言う数値は曲者である。国家試験を目指す人間生活科学部の 2 学科とそうでない社会科学系 3 学部とでは出席に対する学生の内発的動機付けが観察的にも異なり、70%～80%台の出席率を維持する前者と 50%～60%台を維持する後者は統計的に異なる母集団群と見なさざるを得ず、全体平均は両群の谷間の数値を示すに過ぎない。むしろ後者もなんらかの動機付けの工夫により前者の出席率の水準を目指すべきであるが、現状はそうではなく、したがって本稿でも回答率にかぎり、全体平均を参考値としてのみ扱う。

回答率の推移を見ると——( ) 内は大学全体——、2011 年度〔前期 56.8 (63.3) > 後期 50.3 (54.9)〕→ 2012 年度〔前期 62.65 (64.91) > 後期 56.22 (61.55)〕→ 2013 年度〔前期 62.55 (64.87) > 後期 57.68 (60.48)〕と、3 年連続で前期より後期のほうが全般的に低い傾向が見られた。2014 年度〔前期 61.90 (65.32) < 後期 62.86 (68.13)〕で初めて後期が前期を上回ったが、引き続き前後期を分けて比較する必要があると考える。

前期だけの傾向を見ると経営学部の推移は、56.8→62.65→62.55→63.39 であり、学生の出席率は向上傾向にあるが、2013 年度後期から導入した出席管理システム活用による経営学部一丸の努力にも係らず飛躍的改善には結びついていない。出席率をもっと上げるためには更なる工夫の取り組みが必要である。出席率は単位取得率を大きく左右する。学生の授業への参加をいかに促していくかは、従来通り大きな課題である。

## 2. 学生視点からのデータ分析

### \* 設問項目 (科目ごとの自由設問、およびフェース確認の設問 A, B, C を省略)

設問	内容
1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか

3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか
13	複数教員による授業は良かったと思いますか
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか

**\* 教員所属別平均**

所属	設問	設問 D												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	(Yes 率)
全体	3.9	4.0	3.9	4.0	3.9	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.0	4.2	3.7	74.2%
経営学部	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	4.0	4.2	3.5	76.8%

経営学部所属教員担当科目の平均ポイント（上表）を見ると、前年度までは全設間で大学全体の平均と同等もしくは同等以上の好評価があったが、今回はその特徴が見失われた。前回までの「知的関心」から問い方を変更した設問 5「新しいものの見方」（背景色）は、大学平均でも経営学部でも他の設問と比較すると評価値がやや低く、一昨年から続く課題である。また設問 4「わかりやすさ」（斜体）については大学全体の平均を若干下回っており、これも課題である。なお、シラバスを読んで授業に臨んだ割合 76.8% [大学平均 74.2%] は、昨年の 64.1% [大学平均 56.2%] を大きく上回った。昨年は大学全体でシラバス改善のFD活動がなされた。経営学部においては昨年以來、シラバスに目を通すことを繰り返し学生に伝えていたので、これら努力の結果であると評価できる。

**\* 学生視点<学部全体と学年別>**

留学生の増加に対応し、今回は留学生の回答を分けた統計データとしたので詳細な表となった。

注) [留学]は留学生、[除留]は留学生のマークのなかった回答を表す。

設問	学部	3.9	1年	4.1	2年	3.9	3年	3.8	4年	3.4	5年	3.0	前年度1年	前々年度1年
		1	[留学]	4.1	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.1	3年[留学]	4.0	4年[留学]	3.4	不明	4.0
	[除留]	3.7	1年[除留]	4.0	2年[除留]	3.7	3年[除留]	3.7	4年[除留]	3.4				
設問	学部	4.1	1年	4.1	2年	4.2	3年	4.0	4年	3.9	5年	4.0	前年度1年	前々年度1年
		2	[留学]	4.4	1年[留学]	4.3	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.4	不明	4.7
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.9	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.9				
設問	学部	4.0	1年	3.9	2年	4.1	3年	4.0	4年	4.0	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
		3	[留学]	4.3	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.4	4年[留学]	4.1	不明	4.7
	[除留]	3.8	1年[除留]	3.7	2年[除留]	3.8	3年[除留]	3.9	4年[除留]	4.0				

設問 4	学部	4.0	1年	4.0	2年	4.2	3年	4.0	4年	3.9	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.5	4年[留学]	4.4	不明	4.8	4.1	3.7
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.8	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.9				
設問 5	学部	4.0	1年	4.0	2年	4.2	3年	4.0	4年	3.8	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.2	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.5	4年[留学]	3.6	不明	5.0	4.0	3.5
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.8	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.8				
設問 6	学部	4.2	1年	4.2	2年	4.3	3年	4.1	4年	4.2	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.4	1年[留学]	4.3	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.8	不明	4.8	4.2	4.0
	[除留]	4.0	1年[除留]	4.0	2年[除留]	4.0	3年[除留]	4.0	4年[除留]	4.1				
設問 7	学部	4.1	1年	4.0	2年	4.2	3年	4.1	4年	4.0	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.2	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.5	4年[留学]	4.4	不明	5.0	4.1	3.8
	[除留]	4.0	1年[除留]	3.8	2年[除留]	4.0	3年[除留]	4.0	4年[除留]	4.0				
設問 8	学部	4.1	1年	4.0	2年	4.2	3年	4.1	4年	4.1	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.3	不明	4.8	4.2	3.9
	[除留]	4.0	1年[除留]	4.0	2年[除留]	4.0	3年[除留]	4.0	4年[除留]	4.1				
設問 9	学部	4.1	1年	4.1	2年	4.2	3年	4.0	4年	4.0	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.2	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.5	不明	4.5	4.2	3.9
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.9	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.9				
設問 10	学部	4.2	1年	4.2	2年	4.3	3年	4.2	4年	4.2	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.5	1年[留学]	4.3	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.8	不明	4.8	4.3	4.1
	[除留]	4.1	1年[除留]	4.1	2年[除留]	4.0	3年[除留]	4.1	4年[除留]	4.1				
設問 11	学部	4.0	1年	4.0	2年	4.1	3年	4.0	4年	3.9	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.4	4年[留学]	4.1	不明	4.8	4.1	3.7
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.8	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.9				
設問 12	学部	4.3	1年	4.3	2年	4.3	3年	4.2	4年	4.3	5年	5.0	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.5	1年[留学]	4.4	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.9	不明	4.8	4.4	4.3
	[除留]	4.2	1年[除留]	4.2	2年[除留]	4.1	3年[除留]	4.1	4年[除留]	4.3				
設問 1~12 平均	学部	4.1	1年	4.1	2年	4.2	3年	4.0	4年	4.0	5年	4.8	前年度1年	前々年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.2	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.5	4年[留学]	4.3	不明	4.7	4.2	3.9
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.9	2年[除留]	3.9	3年[除留]	4.0	4年[除留]	3.9				
設問 13	学部	3.8	1年	3.9	2年	3.8	3年	3.5	4年	3.0	5年	—		
	[留学]	4.1	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.3	3年[留学]	4.5	4年[留学]	3.0	不明	5.0		
	[除留]	3.5	1年[除留]	3.6	2年[除留]	3.5	3年[除留]	3.3	4年[除留]	3.0				
設問 D	学部	79.7%	1年	83.7%	2年	81%	3年	71.8%	4年	79.5%	5年	100%		
	[留学]	87.5%	1年[留学]	93.9%	2年[留学]	40.5%	3年[留学]	98.7%	4年[留学]	82.1%	不明	75%		
	[除留]	71.5%	1年[除留]	71.3%	2年[除留]	70.2%	3年[除留]	69%	4年[除留]	79.3%				

経営学部学生の設問1～12の平均得点は、昨年とほぼ同じである。

設問ごとの1年生の得点の昨年前期からの変化を詳しく見てみよう。設問1「出席」が昨年の4.4から4.1に後退したのは新たな課題である。設問2「意欲的取組み」は昨年と同じ4.1である。設問4「わかりやすさ」は昨年の4.1とほぼ同じ4.0である。設問5「新しいものの見方」は昨年と同じ4.0である。これら3者は一昨年〔それぞれ3.7, 3.7, 3.6〕から昨年に向け改善があったが今年は横ばいである。3者と相関の強い（後述のクロス分析結果も参照）設問11「教室管理」を見ると、昨年、同程度の改善（3.7→4.1）が見られたが今回はほぼ同じ4.0である。この4.0～4.1の頭打ちをいかに突破するかが課題であるように思われる。教室管理にも改善や工夫の余地は残されていると思うが限界はある。「出席」「意欲的取組み」「わかりやすさ」「新しいものの見方」を向上させるためには、授業内容の質的改善は当然として、ゼミ担任の個別指導などを含めた全方位の改善アプローチが求められていると読むべきであろう。

なお留学生の回答分布に目を向けると、各学年とも日本人（回答分類では[除留]「留学生を除く」）よりも好評価である。留学生数が著しく増えた1年生についても得点が良いのは、留学生に対し積極的に働きかける諸施策への信頼を伺わせるものである。

### \*クラスサイズ別の「わかりやすさ」と「教室管理」

クラスサイズ別の各設問の得点（下表）をみると、大学全体では、昨年同様、受講者数が少ないほどすべての設問で得点が高くなる大体の傾向が見られた。経営学部についてもほぼ同じだが例外もある。しかし1～100人と101人～200人に規模グループを2分割するとグループの差異が顕著となる。すなわち、「人数が少ないほうが良い授業が作りやすいという一般認識は正しいが、100人以下の場合、人数の如何を問わず工夫次第で良い授業は作りうる」、ということであろう。昨年前期の分析で、これを仮説として提示したが、昨年後期、今年前期と連続して同じ傾向がデータ確認できたので、この仮説はかなり有力になったと言えよう。これについては引き続き観察を続けたい。

		授業数	出席	意欲的取り組み	わかりやすさ	新しいものの見方	教員熱意	板書・スクリーン	教員の声	教室管理
			設問1	設問2	設問4	設問5	設問6	設問9	設問10	設問11
全体	1～50人	100	4.2	4.0	3.9	3.9	4.1	4.0	4.2	4.0
	51～100人	21	3.8	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9	4.1	4.0
	101～150人	23	3.9	4.0	3.9	4.0	4.1	4.0	4.2	3.9
	151～200人	5	3.8	3.8	3.7	3.7	4.0	3.8	4.0	3.9
	201～250人	3	4.0	3.9	3.8	3.8	3.9	3.8	4.0	3.8
経営学部	1～50人	14	4.0	4.1	4.3	4.0	4.4	4.3	4.5	4.3
	51～100人	3	4.0	4.3	4.3	4.3	4.5	3.8	4.5	4.3
	101～150人	9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.2	4.2	4.2	4.0
	151～200人	3	3.8	3.9	3.8	3.7	4.1	3.9	4.0	3.9
	201～250人	1	4.1	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	4.1	3.9
2分割	1～100人	17	4.0	4.2	4.3	4.1	4.4	4.2	4.5	4.3
	101人～	13	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.2	4.0

### 3. クロス集計について

ここでは昨年と同じく設問11「教室管理」と、設問4「わかりやすさ」、設問8「教科書、配布資料の活用」、設問9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問10「教員の声の聞こえやすさ」の4項目のクロス集計を行なった（詳細データは、設問4×設問11のみ表示し、それ以外は省略）。いずれのクロス集計においても、昨年と同様、大学全体および他学部と同じく、「教室管理」の評価が高ければ、クロス項目の評価も高くなるという強い相関関係が見られる。

		わかりやすさ	設問4					
		教室管理	回答なし	1	2	3	4	5
経営学部	設問11	回答なし	3	4	2	1		
		1	6	423	114	23	6	4
		2	2	91	405	68	18	5
		3	4	27	86	162	20	3
		4		6	14	15	8	1
		5	1	6	7	10	3	12

#### 4. 「わかりやすさ」、「新しいものの見方」、「教室管理」の結果分析

この分析では、専任教員の担当科目のみならず、兼任の非常勤講師の1科目も含まれている。

##### \* 設問4「わかりやすさ」と設問11「教室管理」結果

設問4「わかりやすさ」について評価平均4.0以上の科目は、31科目中17科目（54.8%）であり、昨年〔33科目中20科目で60.1%〕よりも5.3%下がった。ただしこれはデータの少なさと閾値がもたらすアヤであり、3.95以上を閾値にすると22科目（71.0%）となり昨年〔22科目で66.7%〕よりも4.3%高くなるので額面通りの評価には使えない。むしろ4.0近傍の科目数の多い分布に着目することで、さらなる底上げによる全般の改善に繋げる指摘としたい。

科目名	平均
(留)日本語VA/(留)日本語コミュニケーションレベル5(月3)	4.82
中国語入門(金1)	4.69
(留)日本語IIA/(留)日本語コミュニケーションレベル1(月4)	4.65
ベトナム語入門(金4)	4.63
ベンチャービジネス(火4)	4.63
簿記II(製造業会計)(月4)	4.62
基本簿記(再)(月4.木2)	4.58
中国語入門(木4)	4.50
(留)アカデミック日本語レベル3(木4)	4.50
商品と流通の経営学①(金1)	4.46
社会とつながるI(金5)	4.44
会計と資金の経営学①(金2)	4.34
簿記I(株式会社会計)(月2)	4.29
(留)日本事情III(木1)	4.17
英語ライティング(2)/英語ライティングI(2)(火4)	4.10
会計と資金の経営学②/会計学(木1)	4.09
経営情報論/経営情報論(再)(木4)	4.05
(留)市民生活とビジネス②E(水3)	3.99
国際経済・ビジネス事情/アジア経営論/国際経済論II(火4)	3.98
日本史/(教)日本史(火3)	3.98
情報ネットワークI/情報ネットワーク(火2)	3.97
基礎英語I(D)(水1)	3.96
市民生活とビジネス①C(木3)	3.90
思想の歩み/日本思想史(水3)	3.90
人的資源管理論(月3)	3.88
市民生活と健康(火1)	3.85
英語コミュニケーションC(月4)	3.81
情報システムの理論と実際/情報システム論(木2)	3.79
情報社会論(火3)	3.60
商品と流通の経営学②/販売管理I(木1)	3.47
基礎力養成II(木4)	3.45

設問 11「教室管理」(資料の表示を省略する)は、32 科目で 22 科目 (71.0%) が 4.0 以上を得ており、  
 昨年の 33 科目で 22 科目 (66.6%) とほぼ同じ結果である。評価点 4 以上の割合の 4.4%向上は設問 4 と  
 同じ理由で額面通りには使えないので、ここでは参考値とする。

### \* 設問 5「新しいものの見方」結果

設問 5「新しいものの見方」は、下表のとおり、4.0 以上は 31 科目中 19 科目の 61.3% (昨年は 33 科  
 目中 14 科目の 42.4%) であり、昨年よりも大幅に向上した。この中には経営学部 1 年必修の「基本簿記」  
 や、専門共通基礎 I 「(留)市民生活とビジネス」、また専門共通基礎 II の「商品と流通の経営学」「会計と  
 資金の経営学」が含まれる。ただし 4.0 の近傍 (3.90) に専門共通基礎 I 科目が 2 つ (「市民生活とビジ  
 ネス」「市民生活と健康」) (斜体) 留まっており、いっそうの改善が望まれる。

科目名	平均
(留)日本語VA/(留)日本語コミュニケーションレベル5(月3)	4.76
ベンチャービジネス(火4)	4.73
(留)日本語IIA/(留)日本語コミュニケーションレベル1(月4)	4.65
簿記II(製造業会計)(月4)	4.62
社会とつながるI(金5)	4.56
ベトナム語入門(金4)	4.50
基本簿記(再)(月4.木2)	4.42
商品と流通の経営学①(金1)	4.40
会計と資金の経営学①(金2)	4.30
簿記I(株式会社会計)(月2)	4.27
(留)アカデミック日本語レベル3(木4)	4.27
中国語入門(金1)	4.19
(留)日本事情III(木1)	4.13
経営情報論/経営情報論(再)(木4)	4.10
中国語入門(木4)	4.08
情報ネットワークI/情報ネットワーク(火2)	4.05
(留)市民生活とビジネス②E(水3)	4.02
国際経済・ビジネス事情/アジア経営論/国際経済論II(火4)	4.00
会計と資金の経営学②/会計学(木1)	4.00
日本史/(教)日本史(火3)	3.98
人的資源管理論(月3)	3.91
市民生活とビジネス①C(木3)	3.90
市民生活と健康(火1)	3.90
情報システムの理論と実際/情報システム論(木2)	3.79
思想の歩み/日本思想史(水3)	3.77
情報社会論(火3)	3.67
英語ライティング(2)/英語ライティングI(2)(火4)	3.60
基礎英語I(D)(水1)	3.54
商品と流通の経営学②/販売管理I(木1)	3.32
基礎力養成II(木4)	3.25
英語コミュニケーションC(月4)	3.16

## 平成 27 年度前期 人間生活科学部教育保育学科 授業評価アンケート結果分析

教育保育学科教員の授業評価アンケートは、13 科目について行なわれ、回収率は 100%だった。まず、学科教員全体の概要を見ると、専門科目を担当している教員がほとんどなので、教育保育学科の学生を中心に受講者がいることが分かる。つぎに、シラバスを読んでいるかとの設問には、41.9%の学生が読んでいると回答した。半数の受講者しか読んでいないのは問題であり、学生に読むように指導を強めたいところだ。

次に学生の受講態度について。設問 1 の授業出席については、全出席の学生が 38.5%、1～2 回欠席の学生が 38.7%と 77.2%の学生が欠席 2 回以内に収まっている。出席率は概ねよいといえる。一方、設問 2 の積極的に授業に取り組んだかは、強くそう思う、そう思うの合計が 72.7%と若干下がる。よりいっそうの向上を促したい。

次に教員の授業について。設問 3。授業がシラバスに沿っていたかについては、強くそう思う、そう思うの合計が 61.6%。どちらともいえないが 34.2%これが微妙な表現なので、これをどう捉えるかで評価が変わるところだ。

設問 4。授業の分かりやすさについては、強くそう思う、そう思うの合計が 69.6%だった。この設問 4 と設問 5 の知的関心を得られたかを問う設問との相関を各科目ごとに比較してみた。前者が分かりやすさの平均値、後者が知的関心の平均値である。科目名はアルファベットに置換した。

- A 4.36 - 4.15 (幼免・小免選択科目・講義)
- B 4.31 - 4.40 (保育士必修科目・講義・オムニバス)
- C 4.27 - 4.33 (小免必修科目・講義)
- D 4.16 - 4.28 (共通科目・講義)
- E 4.13 - 4.05 (保育士必修・講義)
- F 4.09 - 4.09 (小免必修科目・講義)
- G 3.83 - 4.24 (保育士必修・講義)
- H 3.78 - 3.54 (幼免・小免必修・講義)
- I 3.76 - 4.04 (幼免・保育士必修・演習)
- L 3.67 - 3.91 (共通科目・講義)
- K 3.65 - 3.85 (幼免・保育士必修・演習)
- L 3.33 - 3.73 (幼免・保育士必修・演習)
- M 3.21 - 3.45 (幼免・保育士必修・演習)

となる。概ね両者には正の相関関係があるといえるが、科目ごとの性格もある。教育保育学科の場合、教員免許や保育士の必修科目か選択科目かという違いで、単位を取得しなければならないという圧力から前者に負担がかかる。また、講義科目か演習科目かという違いで、演習科目はクラス分けがあり、少人数になり、指導がきめ細くなる分後

者に負担がかかる。特に、講義科目と演習科目との違いが今回のアンケートには顕著に現れたといえよう。なお、IとM、KとLは、それぞれ同じ担当者による同じ科目のクラス分けされて開講されたものである。

さて、次に設問6の教員の熱心さを問う設問に移ろう。強くそう思う、そう思うの合計が86.2%だった。これは、教員の熱意が伝わったものと高く評価してよいのではなかろうか。

授業進度の適切を問う設問9では、強くそう思う、そう思うの合計が76.2%だった。これもよい値といえよう。

設問8はテキストや配布資料の適切な活用については、強くそう思う、そう思うの合計が74.4%だった。

設問9の板書やパワー・ポインターなどの活用の適切さは、強くそう思う、そう思うの合計が77.7%だった。

設問9の教員の声の適切さは、強くそう思う、そう思うの合計が82.8%だった。教育系の強みであるか。

問11の適切な授業管理については、強くそう思う、そう思うの合計が71.3%だった。学生の自主性に期待するだけでなく、学生を積極的に管理してより厳しく鍛えていく必要があるのだろうか。

設問12の授業時間の確保の適切さについては、強くそう思う、そう思うの合計が87.9%だった。この項目について、学生の評価は取り分け高いといえよう。

設問13はオムニバス科目じ授業を進めることの適切性だが、これは今回は一科目しかなかったが、強くそう思う、そう思うの合計が81.8%だった。

1 概して教育保育学科の教員による授業評価は芳しかったといえるが、資格・免許必修の実技・演習科目が下位に来る傾向があるのは、少人数によるきめ細かい実践的な授業であるだけに、学生の負担が大きいことを示すものだろう。教育実習や保育実習などによって実社会からの評価を早くから受ける学生の試練を乗り越えるために致し方ないとはいえ、今後どのように消極的な負担意識を乗り越えるべき積極的な目標に転回させるかの智慧が学科全体の課題として問われよう。

**平成 27 年度前期 人間生活科学部管理栄養学科  
授業評価アンケート結果報告**

1. 実施概要

所属名	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数(F)	回答率 (F÷E)
管理栄養学科	834	834	692	82.97
全体	8,873	8,832	5,827	65.98

アンケート対象は、管理栄養学科の専任教員担当科目のうち 22 科目であり、回収率は 100.0%であった。

2. 管理栄養学科所属教員の平均および学年別結果

- ・ 管理栄養学科に所属する専任教員担当科目の平均は、設問 1、6、8、10、12 で 4.0 以上、それ以外の設問については 4.0 以下であった。
- ・ 学年別にみると、3 年・4 年ではほとんどの設問が 4.0 以上である一方、1 年・2 年では 3.0 台が多く、高学年よりも低値を示す傾向が見られた。
- ・ 学年毎に学生の質を把握し、その特徴に合わせた授業が必要と考えられる。

設問	内容	平均	1 年	2 年	3 年	4 年
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	4.6	4.6	4.6	4.5	4.1
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.9	3.9	3.8	4.1	4.2
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.7	3.5	3.7	3.9	3.9
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.7	3.6	3.6	4.1	3.9
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたか	3.8	3.6	3.7	4.1	4.2
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.0	4.0	3.8	4.2	4.3
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	3.8	3.6	3.8	4.2	4.2
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか	4.1	4.0	4.0	4.3	4.3
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたか	3.9	3.7	3.7	4.2	4.2
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか	4.1	4.0	3.9	4.3	4.2
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか	3.9	3.8	3.8	4.1	4.1
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか	4.2	4.1	4.1	4.3	4.3
D	あなたはこの授業のシラバスを読みましたか	1.2	1.2	1.1	1.3	1.3

3. 授業のわかりやすさ及び知的関心、授業・教室管理

授業のわかりやすさ(設問 4)、新しいものの見方や考え方を得られたかを問う設問(設問 5)および授業・教室管理(設問 11)について、非常勤教員も含めた管理栄養学科の結果を一覧にした。3 項目を一覧すると、順位の若干上下はあるものの、評価の良い科目悪い科目は 3 項目間で相関が見られた。

表 わかりやすさ

食品学 I(2 組)(金 2)	4.56
臨床栄養学実習 I(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.48
食品学実験 I(2 組)(木 2.木 3.木 4)	4.42
臨床栄養学 II(2 組)(月 1)	4.41
応用栄養学実習(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.21
調理科学実験(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.14

表 新しいものの見方や考え方

臨床栄養学実習 I(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.38
食品学 I(2 組)(金 2)	4.29
バイオテクノロジー概論(水 4)	4.28
臨床栄養学 II(2 組)(月 1)	4.26
食品学実験 I(2 組)(木 2.木 3.木 4)	4.23
公衆栄養学 II(2 組)(月 2)	4.17

公衆衛生学 I(2 組)(木 3)	4.13	臨床栄養学演習(2 組)(火 3.火 4)	4.13
公衆栄養学実習(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.11	応用栄養学実習(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.09
公衆栄養学 II(2 組)(月 2)	4.11	公衆栄養学実習(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.06
応用栄養学 I(2 組)(月 5)	4.06	調理科学実験(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.06
バイオテクノロジー概論(水 4)	4.06	公衆衛生学 I(2 組)(木 3)	4.03
栄養教育論実習 II(2 組)(火 1.火 2.火 3)	3.93	応用栄養学 I(2 組)(月 5)	4.00
栄養教育論 II(2 組)(木 2)	3.89	栄養教育論実習 II(2 組)(火 1.火 2.火 3)	4.00
臨床栄養学演習(2 組)(火 3.火 4)	3.87	応用栄養学演習(2 組)(火 1.火 2)	3.85
応用栄養学演習(2 組)(火 1.火 2)	3.85	栄養調理学実習(2 組)(火 1.火 2.火 3)	3.76
運動生理学(2 組)(木 1)	3.80	運動生理学(2 組)(木 1)	3.64
栄養調理学実習(2 組)(火 1.火 2.火 3)	3.64	食品衛生学 I(2 組)(木 2)	3.58
食品衛生学 I(2 組)(木 2)	3.58	病態学 I(2 組)(木 4)	3.53
基礎栄養学 I(2 組)(月 4)	3.39	基礎栄養学 I(2 組)(月 4)	3.42
給食経営管理論 I(2 組)(木 1)	3.19	給食経営管理論 I(2 組)(木 1)	3.34
生化学実験 I(2 組)(木 2.木 3.木 4)	3.15	生化学実験 I(2 組)(木 2.木 3.木 4)	3.18
病態学 I(2 組)(木 4)	3.05	生化学 I(2 組)(金 1)	3.10
生化学 I(2 組)(金 1)	2.95	臨床栄養学実習 I(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.38
解剖生理学 I(2 組)(火 4)	2.58	食品学 I(2 組)(金 2)	4.29

#### 4. 授業・教室管理

表 授業・教室管理

調理科学実験(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.28
食品学実験 I(2 組)(木 2.木 3.木 4)	4.23
公衆栄養学 II(2 組)(月 2)	4.22
臨床栄養学 II(2 組)(月 1)	4.22
食品学 I(2 組)(金 2)	4.22
臨床栄養学実習 I(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.19
栄養教育論実習 II(2 組)(火 1.火 2.火 3)	4.19
応用栄養学実習(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.15
応用栄養学演習(2 組)(火 1.火 2)	4.12
公衆栄養学実習(2 組)(金 1.金 2.金 3)	4.11
バイオテクノロジー概論(水 4)	4.11
臨床栄養学演習(2 組)(火 3.火 4)	4.04
栄養教育論 II(2 組)(木 2)	4.04
応用栄養学 I(2 組)(月 5)	3.97
栄養調理学実習(2 組)(火 1.火 2.火 3)	3.88
食品衛生学 I(2 組)(木 2)	3.82
公衆衛生学 I(2 組)(木 3)	3.79
解剖生理学 I(2 組)(火 4)	3.61
給食経営管理論 I(2 組)(木 1)	3.59
生化学 I(2 組)(金 1)	3.55
病態学 I(2 組)(木 4)	3.53
生化学実験 I(2 組)(木 2.木 3.木 4)	3.50
運動生理学(2 組)(木 1)	3.48
基礎栄養学 I(2 組)(月 4)	3.44

## 5. クロス集計

クロス集計は、授業・教室管理(設問 11)とわかりやすさ(設問4)、教科書・配布資料の活用(設問 8)、板書やスクリーン・モニターの見やすさ(設問 9)声の聞き取りやすさ(設問 10)と行った。いずれも、教室・授業管理について高い評価を得ている場合、クロス項目の評価も高値を示す傾向が見られた。

		教室・授業管理(設問 11)					
		回答なし	1	2	3	4	5
わかりやすさ(設問4)	回答なし	8	14	9	12	1	1
	1	5	1296	300	87	19	13
	2	10	418	1491	383	58	25
	3	6	94	292	739	50	34
	4	2	34	85	109	42	19
	5	1	14	24	45	20	67

		教室・授業管理(設問 11)					
		回答なし	1	2	3	4	5
教科書・配布資料の活用(設問8)	回答なし	17	50	53	42	4	5
	1	4	1432	473	207	43	22
	2	4	278	1379	370	58	27
	3	4	71	227	674	46	37
	4	2	29	52	57	24	15
	5	1	10	17	25	15	53

		教室・授業管理(設問 11)					
		回答なし	1	2	3	4	5
板書やスクリーン・モニターの見やすさ(設問9)	回答なし	20	127	129	100	15	18
	1	4	1351	369	130	26	11
	2	5	268	1356	339	57	21
	3	2	80	260	667	37	23
	4	1	30	64	106	38	24
	5	20	127	129	100	15	18

		教室・授業管理(設問 11)					
		回答なし	1	2	3	4	5
声の聞き取りやすさ(設問10)	回答なし	6	1587	544	193	35	26
	1	4	219	1447	417	62	22
	2	1	37	150	643	36	29
	3	1	9	38	67	42	11
	4		11	8	45	14	69
	5	6	1587	544	193	35	26

## 平成 27 年度前期授業評価アンケート結果分析（兼任・非常勤講師担当分）

### I. 実施率／コメント回収率／学生の回答率について

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント提出率 (C÷B)
【全体】	153	152	99.35		
兼任・非常勤	42	41	97.62		

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	8873	8832	5827	65.98
兼任・非常勤	1217	1176	786	66.84

前期授業評価アンケート対象科目のうち兼任・非常勤講師担当分は 42 科目であった。  
メールと文書による実施依頼にもかかわらず専門科目 1 科目が実施されなかった。

実施科目の内訳は情報科目 13、外国語 5、留学生用日本語 15、共通科目(講義形式)1、  
キャリア科目 2、学部学科専門科目 5 であった。

学生の回答率は約 67%で全体平均とほぼ同様である。およそ 3 分の 1 にあたる授業  
欠席者、失格者を減らす工夫が求められる。

### II. 集計結果について

#### 設問項目

1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか

6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか
D	あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

## 1. 41 科目平均ポイント

設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問	設問 D(Yes 率)
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
4	4	4	3.9	4	4.1	4	4.1	3.9	4.2	3.9	4.2	58.60%

41 科目の平均ポイントはほぼ良好であるが、科目群では差がある（下記 2「クラスサイズ別平均ポイント」参照）。「わかりやすさ」「板書等の見やすさ」「教室管理」の改善が求められる。

## 2. クラスサイズ別平均ポイント

履修者 数	クラ ス数	設 問 1	設 問 2	設 問 3	設 問 4	設 問 5	設 問 6	設 問 7	設 問 8	設 問 9	設 問 10	設 問 1 1	設 問 1 2	設問 D(Yes 率)
1-50 人	37	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.1	4.4	46.2%
51- 100 人	2	3.6	3.7	3.8	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9	45.7%
101- 150 人	2	3.9	3.8	3.6	3.5	3.7	3.6	3.4	3.8	3.5	3.6	3.4	3.8	45.7%

履修者数 50 人以下が 37 クラス(90%)で、そのうち 13 クラスの情報科目は 25 人以下である。20 クラスは語学科目であった。人数が少ないことが平均値 4.0 以上の結果と関係していると判断できる。

51～100人、101～150人がそれぞれ2クラスであるため、結果をクラスサイズによるものと断定はできないが、101～150人の2クラスで「わかりやすさ」「授業進度」「板書等の見やすさ」「教室管理」のポイントが3.5以下であることは今後の改善が求められる。

### 3. 「わかりやすさ」「新しいものの見方」「教室管理」について

演習科目（担当者別平均）

科目群	担当者	クラス数	わかりやすさ	新しいものの見方	教室管理
情報科目	A	3	4	3.9	4
	B	5	4.3	4.1	4.1
	C	3	4	3.8	4.1
	D	2	3.5	3.6	3.8
	科目群平均			4.1	3.9
(留)日本語	E	3	4.3	4.2	4.1
	F	4	4.5	4.5	4.4
	G	4	4.5	4.5	4.4
	H	1	4	3.9	4.2
	I	1	4.1	4	4.1
	J	2	4.7	4.6	4.6
	科目群平均			4.4	4.4
コリア語	K	1	4.4	4.4	4.5
	L	3	3.9	4	3.7
ポルトガル語	M	1	4.1	4.3	4.1

情報科目では担当者間に差がある。日本語科目も担当者間の差があるが、「わかりやすさ」と「教室管理」ではすべて4.0以上である。コリア語では担当者Lの「教室管理」3.7は改善が必要である。

講義形式科目

科目名	わかりやすさ	新しいものの見方	教室管理
インターンシップ論／社会とつながるⅡ	3.3	3.6	3.1
インターンシップ入門Ⅰ	3.5	3.8	3.7

GIS概論	4.4	4.4	4.6
情報社会論	3.6	3.7	3.8
スポーツの歴史	3.7	3.7	3.7
地理学 I(地誌を含む。)	3.7	3.7	3.9
バイオテクノロジー概論	4.1	4.3	4.1
食品衛生学 I(2組)	3.6	3.6	3.8

キャリア科目のポイントは3項目とも改善が必要である。「地理学 I」は教職科目であるが、改善が求められる。その他の科目はそれぞれ学部学科専門科目として分析されるので、ここでは言及しない。

#### 4. 「教室管理」との4項目クロス集計について

設問 11「教室管理」と、設問 4「わかりやすさ」、設問 8「教科書、配布資料の活用」、設問 9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問 10「教員の声の聞こえやすさ」の4項目のクロス集計結果（詳細データは省略）では、いずれのクロス集計においても、「教室管理」のポイントが高ければ、クロス項目のポイントも高くなるという強い相関関係が見られた。

以上

## 平成 27 年度後期 法学部授業評価アンケート結果分析

### 1 実施概要

所属名	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E×100)
法学部	1,071	1,027	679	66.11
【全体】	6,988	6,865	4,777	69.58

法学部の専任教員担当科目のうち 15 科目が今回のアンケート対象であり、14 科目のアンケートが回収された。

当該科目履修者数に対する回答率は 66.11%と、今年度前期 (56.85%) より約 9 ポイント上昇した。この原因は、法学部において前年度前期アンケート回収率が全学部学科の中でも有意に低かったことを踏まえて、学部内で回収率向上のための注意喚起を行ったことによるものと考えられる。

しかし、今年度後期における法学部の回答率は、なお全学部学科平均に達していない。この点に関し、今年度前期の結果報告の中で今後の課題として、「アンケート実施対象科目を履修している学生が、アンケート実施日に出席していない、又は出席を諦めているのか、それとも授業には出席しているが、アンケートに回答しないかのいずれかにあるかを明らかにし、適切な対策を講ずることが示されていたされていた。そこで、さしあたり履修登録者数、出席者数およびアンケート回答者数を把握することができた 5 科目について、まず、アンケート実施日における出席率 (出席者数÷履修登録者数×100) を確認すると、科目 A69%、B76%、C88%、D75%、E48%であった。次に、出席者に占めるアンケート回答者の割合を確認すると、科目 A98%、B85%、C98%、D90%、E96%であった。

以上から、法学部の回答率がなお低くとどまっている原因は、アンケート実施日の学生の出席率に求められると考えられる。とくに、今年度後期においては、暴風雪のための休講の補講が試験期間中の土曜日に行われており、法学部で当該補講日にアンケートを実施した科目の出席率は低くならざるをえなかった。回答率を向上させるための対策としては、例えばできるだけ第 14 週目の授業にアンケートを実施し、通常授業期間中におけるアンケート実施に努めることなどが考えられよう。

### 2 法学部所属教員の結果 (他学部科目及び他学部履修生を含む)

設問	内容	平均
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	3.8
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.8
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたかと思いますか	3.8
4	授業内容は、わかりやすかったかと思いますか	3.7
5	この授業を受けて新しいもの見かたや考え方を得られたかと思いますか	3.8
6	教員の教え方には、熱意があったかと思いますか	4.0
7	授業の速さや進め方は、適切だったかと思いますか	3.9
8	教科書、配布資料が活用されていたかと思いますか	3.9
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたかと思いますか	3.8
10	教員の声は聞き取りやすかったかと思いますか	4.0
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったかと思いますか	4.0
12	教員は、授業時間を守っていたかと思いますか	4.1

今年度後期の平均値は、全体的に横ばいまたはわずかに上昇していた。前期には平均値の上昇が認められた項目が一つも認

められなかったことに比べると、全体的な改善傾向が認められる。平均値が最も上昇したのは設問 11（教室管理）で、0.2 ポイントの上昇であった。

### 3 法学部生学年別結果

設問	内容	全学年 平均	1年	2年	3年	4年	5年 以上
1	あなたは、この授業に出席しましたか	3.5	3.9	3.4	3.6	3.0	4.0
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.8	3.9	3.8	3.7	3.9	4.0
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたかと思いませんか	3.7	3.9	3.7	3.7	3.6	4.0
4	授業内容は、わかりやすかったと思いませんか	4.1	3.9	3.8	3.7	4.1	5.0
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いませんか	3.8	3.9	3.8	3.8	3.9	4.0
6	教員の教え方には、熱意があったと思いませんか	4.1	4.0	3.9	3.9	4.1	5.0
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いませんか	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1	5.0
8	教科書、配布資料が活用されていたと思いませんか	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いませんか	4.0	4.0	3.9	3.9	4.2	4.0
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いませんか	4.2	4.1	3.9	4.0	4.4	5.0
11	私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いませんか	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
12	教員は、授業時間を守っていたと思いませんか	4.1	4.0	4.0	4.1	4.4	4.0
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか	1.5	1.5	1.3	1.5	1.5	2.0

今年度前期と比べると、第一に、設問 1（出席）の数値の低下が全学年で認められ、改善のための対策が必要とされる。学年ごとに数値をみると、1～3 年生では 0.1 ポイントの低下、4 年生が 0.5 ポイントの低下が認められた。4 年生の大幅なポイント低下の原因としては、就職活動における企業の選考解禁日が従来の 4 月から 8 月に 4 か月繰り下げられたことが考えられる。第二に、それにもかかわらず、設問 2（意欲）の数値は横ばいであり、4 年生においても 0.1 ポイントの低下にとどまっていた。出席した際には意欲的に授業に取り組もうとする学生の傾向が伺われる。第三に、授業の内容・態様に関する設問（設問 3～12）については、設問 3（シラバスへの適合性）を除き、数値は横ばいまたは上昇傾向にあった。この原因としては、とくに新任教員の授業への慣れ、あるいは前期の反省をふまえた授業の改善が考えられる。第四に、設問 3（シラバスへの適合性）については、2 年以上のすべての学年で数値の低下が認められ、特に、4 年生においては 0.4 ポイントも低下している。この点については、設問 D（シラバスを読んだか）のポイントが 2 年および 4 年でそれぞれ 0.1 ポイントおよび 0.2 ポイント低下していることを考慮する必要があるものの、教員には授業内容のシラバスへの適合性をより意識することが求められよう。

なお、今年度前期の結果報告では、「旧カリキュラムと新カリキュラムの学生間の相違は目立たない」ものの、「他方で 2、3 年生については新しいものの見方に関する設問 5 の値の低さとともに、出席に関する設問 1 の値の低さが気になった」との指摘があった。この点については、今年度後期においても同様の傾向が認められる。引き続き、演習担当教員を通じての指導などの対処が必要であろう。

### 4 履修者数別結果

設問	内容	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250
1	あなたは、この授業に出席しましたか	3.8	3.6	3.8	3.9	0.0
2	あなたは、この授業に意欲的に取り組んだと思いませんか	3.9	3.8	3.8	3.9	0.0
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたかと思いませんか	3.9	3.8	3.8	3.9	0.0
4	授業内容は、わかりやすかったと思いませんか	3.8	3.8	3.7	3.7	0.0
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いませんか	3.8	3.8	3.7	3.8	0.0
6	教員の教え方には、熱意があったと思いませんか	3.9	4.0	3.9	4.0	0.0
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いませんか	4.0	3.9	3.8	4.0	0.0
8	教科書、配布資料が活用されていたと思いませんか	4.2	3.9	3.8	4.1	0.0

9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか	3.8	3.9	3.8	3.9	0.0
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか	4.1	4.1	3.9	4.1	0.0
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか	4.0	4.0	3.9	4.0	0.0
12	教員は、授業時間を守っていたと思いますか	4.1	4.0	4.0	4.1	0.0

履修者数別結果であるが、150人を超える大教室の授業については、アンケート対象科目のうち151人以上が1科目と極端に少なく、今後に結びつく分析を行うだけのデータの蓄積が認められなかった。履修者150人以下の科目に関しては、規模が小さな方から順に、平均値が3.9、3.8、3.8となっており、今年度前期の平均値(3.9、3.8、3.9)と同様に、教室規模による値の有意な相違は認められない。前期と同様に、大教室の授業で座席指定が適宜取り入れられていることなどの効果であろうと思われる。

#### 5 授業のわかりやすさ(設問4)及び新しいものの見方(設問5)(法学部関係科目及び法学部専任教員が担当する科目)

科目名	わかりやすさ	ものの見方
不法行為法(金3)	4.50	4.13 ①
国際社会と法②(木3)	4.17	4.10 ②
トピック対策英語II(3)(水2)	4.12	4.06 ④
トピック対策英語I(3)(水3)	4.08	4.00 ⑥
市民生活と教育/市民生活と教育(再)/教育学(木1)	4.04	4.07 ③
行政救済法(金1)	4.00	4.03 ⑤
犯罪と法①/犯罪と法(水2)	3.95	3.90 ⑧
国際社会と法①/国際社会と法(木2)	3.81	3.66 ⑩
債権法総論I/債権総論(火2)	3.74	3.95 ⑦
国家と法(日本国憲法)①/国家と法(金4)	3.74	3.77
犯罪と法②(水2)	3.67	3.84 ⑨
英語リーディングA(月4)	3.47	3.44
家族法(火1)	3.33	3.48
国家と法(日本国憲法)②/憲法(金4)	3.15	3.35

上の表では、授業のわかりやすさ(設問4)の値が高い順に科目を列挙し、最も右の列に新しいものの見方(設問5)の値が高い上位10科目について丸囲みの数字でその順番を示した。今年度前期と同様に、設問4の値が高い科目と設問5の値の高い科目は概ね対応する関係があるように認められる。

#### 6 授業・教室管理について

科目名	平均
不法行為法(金3)	4.38
債権法総論I/債権総論(火2)	4.26
行政救済法(金1)	4.25
トピック対策英語II(3)(水2)	4.24
国際社会と法②(木3)	4.16
市民生活と教育/市民生活と教育(再)/教育学(木1)	4.11
犯罪と法②(水2)	4.04
家族法(火1)	3.96
国際社会と法①/国際社会と法(木2)	3.91
国家と法(日本国憲法)①/国家と法(金4)	3.85

授業及び教室管理について、高評価順に10科目を示すと、左記の通りである。10科目の平均は4.12であり、今年度前期に比べると0.1ポイント向上した。

今年度前期の結果報告においては、「旧カリキュラム科目の多くがアンケート対象科目から外れたことにより、値が大幅に低下する結果となった(昨年度は第10位の科目で4.14であった)」ことが指摘されていたところであるが、後期では数値の回復傾向が認められる。この原因としては、教室規模の相対的拡大に伴い、座席制定など教室管理のための対策が適宜講じられていることによるものと考えられる。

## 7 複数教員による授業

科目名	平均
国際社会と法②(木3)	4.07
犯罪と法②(水2)	3.96
市民生活と教育／市民生活と教育(再)／教育学(木1)	3.85
犯罪と法①／犯罪と法(水2)	3.68
国家と法(日本国憲法)①／国家と法(金4)	3.65

複数教員による授業を好ましいとする評価のあった授業を、高評価順に5科目示すと、左記の通りである。全学部学科教員担当の16科目の平均値は3.78であり、法学部教員担当の7科目の平均値は3.73であり、ほぼ同水準であるといえる。

## 8 クロス集計

クロス集計は、教室管理(設問11)と設問4(授業のわかりやすさ)、設問8(教科書等の活用)、設問9(板書等のみやすさ)、設問10(声の聞き取りやすさ)とで行なった。それぞれ共通していえることは、一般に教室・授業管理について高い評価を得ている場合、クロス項目の評価も高いということであり、この傾向は今年度前期と同様である。

			設問4					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし		1				
		1	2	140	53	17	7	2
		2	1	24	155	49	20	9
		3		11	38	94	14	7
		4		1	2	10	3	5
		5		2		1	1	10

			設問8					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし				1		
		1	4	156	37	22		2
		2	2	28	170	51	5	2
		3	1	13	40	105	4	1
		4	1	3	7	5	4	1
		5				2	3	9

			設問9					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし				1		
		1	3	162	34	14	5	3
		2	1	22	184	39	10	2
		3		14	29	100	17	4
		4	1	2	5	5	5	3
		5				1	1	12

			設問10					
			回答なし	1	2	3	4	5
法学部	設問11	回答なし	1					
		1		189	20	9	2	1
		2	1	44	172	27	9	5
		3		15	44	96	9	
		4		3	8	8	2	
		5			1	2		11

9 専門共通基礎科目について

区分	対象	科目名	設問04 (わかりやすさ)	設問05 (新しいもの の見方)	設問11 (教室・授業 管理)	設問13 (オムニバ ス)
専門 共通 基礎 Ⅰ	全学生	市民生活と教育／市民生活と教育(再)／教育学(木1)	4.04	4.07	4.11	3.85
	留学生のみ	市民生活と教育／市民生活と教育(再)／教育学(木1)	4.64	4.45	4.27	4.30
	留学生を除く	市民生活と教育／市民生活と教育(再)／教育学(木1)	3.96	4.01	4.09	3.79
専門 共通 基礎 Ⅱ	全学生	国家と法(日本国憲法)①／国家と法(金4)	3.74	3.77	3.85	3.65
	全学生	国家と法(日本国憲法)②／憲法(金4)	3.15	3.35	3.70	3.24
	留学生のみ	国家と法(日本国憲法)②／憲法(金4)	3.31	3.46	3.46	3.18
	留学生を除く	国家と法(日本国憲法)②／憲法(金4)	3.13	3.33	3.73	3.25
	全学生	犯罪と法①／犯罪と法(水2)	3.95	3.90	3.81	3.68
	留学生のみ	犯罪と法①／犯罪と法(水2)	4.50	4.17	4.50	3.83
	留学生を除く	犯罪と法①／犯罪と法(水2)	3.89	3.88	3.74	3.67
	全学生	犯罪と法②(水2)	3.67	3.84	4.04	3.96
	留学生のみ	犯罪と法②(水2)	3.72	4.14	4.21	4.18
	留学生を除く	犯罪と法②(水2)	3.63	3.65	3.93	3.80
	全学生	国際社会と法①／国際社会と法(木2)	3.81	3.66	3.91	3.63
	留学生のみ	国際社会と法①／国際社会と法(木2)	3.80	3.80	4.20	4.00
	留学生を除く	国際社会と法①／国際社会と法(木2)	3.81	3.65	3.88	3.60
	全学生	国際社会と法②(木3)	4.17	4.10	4.16	4.07
	留学生のみ	国際社会と法②(木3)	4.62	4.62	4.54	4.55
	留学生を除く	国際社会と法②(木3)	3.82	3.72	3.89	3.75

専門共通基礎Ⅰ科目である「市民生活と教育」について、留学生のみの集計において全般的に値が高い傾向が認められた。この傾向は、今年度前期に開講された「市民生活と法」においても同様に認められたが（4項目平均値：留学生4.01、非留学生3.52）、「市民生活と教育」では、留学生および非留学生のいずれにおいても「市民生活と法」より高い値を示している点が特徴的である（留学生4.41、非留学生3.96）。この原因としては、留学生については留学生の日本語力の向上も一因と考えられるが、非留学生については担当教員の尽力によるものと思われる。

専門共通基礎Ⅱについては、それぞれの科目の①が科目設置学部の学生向け（含旧カリキュラム生）、②がそれ以外の学部学生向けとなっている。全体としては、専門共通基礎Ⅰ科目と同様に、留学生のみの集計において全般的に値が高い傾向が認められた。

以上

## 平成 27 年度後期 経済学部授業評価アンケート結果分析

### 1. 前期実施概要について

回収率（回収科目数÷対象科目数）は前期と同じく 100%、回答率（回答者数÷回収科目履修者数）は 67.80%で前期の 64.44%より若干上回った。しかし、人間生活科学部 2 学科よりはるかに低い回答率である（人間生活科学部・管理栄養学科 78.13%、同学部・教育保育学科 70.37%）。これは、毎年 3 学部（経済 67.80、経営 68.18、法学部 66.11）に共通する問題である。この低回収率は、3 学部においてはアンケートを取る学期の終盤で、すでに多くの学生が失格になっていることを示している。また、それは、アンケートの設問 1「あなたはこの授業によく出席しましたか」の結果に反映されており、全体の平均が 3.97 に対し、経済学部では 3.78（経営 3.80、法 3.78）であった。3 学部の出席率が人間生活より低いことに関して、各教員は以前より認識しており、学生の出席率を上げ失格者を減らすために、授業の質を高める努力を鋭意行ってきた。しかし、出席率は当然ながら教員側の授業改善のみで向上するわけではない。学生の側も授業に臨む真摯な姿勢（授業をサボらない、授業中私語をしない、スマホを操作しないなど）を持つことが必要不可欠であり、全員の学生がそのような真剣な気持ちで授業に取り組むよう引き続き指導することが重要である。

### 2. 設問 1～12 について（概観）

アンケートの設問は次の通りである。

設問	内容
A	あなたの所属している学部・学科は、どこですか
B	あなたは何年生ですか
C	あなたは留学生ですか
D	あなたはこの授業のシラバスを読みましたか
1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか

12	教員は授業時間を守っていたと思いますか
13	複数教員による授業は良かったと思いますか
14	(自由質問)

経済学部各設問別平均は次の通りである。

設 問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
前 期	3.86	3.92	3.85	3.89	3.90	4.05	3.98	4.09	4.02	4.09	3.92	4.20
後 期	3.78	3.94	3.90	3.90	3.92	4.00	3.93	4.00	3.92	4.10	3.89	4.16
後期・全体	3.97	4.01	3.93	3.96	3.96	4.12	4.02	4.07	4.02	4.16	4.00	4.20

前期と比較すると、設問2、3、4、5、10は若干高くなっているが、全体的に見るとそれほど変わりはない。人間生活科学部2学科は3学部より全般的にポイントが高く、全体平均もそれにより押し上げられ、経済学部ではすべての設問で全体の平均以下となっている。前述のように、授業の質や設備等の授業環境のさらなる改善ばかりでなく、この結果踏まえ学生側にも授業に臨む姿勢の向上を促すことが今後も一層望まれる。

### 3. 学生視点集計結果から

#### 1) 経済学部留学生と留学生以外の結果の比較

[前期]

設 問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
全学生	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.2	3.8
留学生	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4	4.2	4.4	4.2
留学生以外	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	3.9	4.2	3.6

[後期]

設 問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
全学生	3.8	4.0	3.9	4.0	3.9	4.1	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	4.2	3.9
留学生	4.1	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.4	4.3
留学生以外	3.7	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	3.9	3.9	4.1	3.9	4.1	3.7

表からわかるように、前期と同じくすべての設問で留学生の方がポイントが高い。これは、経営学部にもあてはまる（法学部には留学生はほとんどいない）。本学の留学生はほとんどがアジア出身であるため、文化的な側面（教員と学生との心理的な距離が、日本人の場合よりも少し遠い等）も影響し、担当教員と授業に関して、率直に記述することが憚られるからかもしれない。あるいは、留学生は言葉の壁があり、授業を詳細に評価することができないからかもしれない。または、留学生がそれ以外の学生と比べ授業を本当に高く評価したのかもしれない。このように留学生の結果には、留学生以外の学生と異なる様々な要因が影響している可能性が

あるため、留学生のポイントが高いからといって、彼らが授業を日本人のように理解できていると受け取るのは早計である。

## 2) 経済学部学年別結果比較

[前期]

設 問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
全学生	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.2	3.8
1年	4.0	4.0	3.8	3.9	3.9	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	3.9	4.1	3.8
2年	3.8	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.1	4.4	3.9
3年	3.8	3.9	4.0	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	3.9	4.1	3.5
4年	3.5	3.9	4.1	4.1	4.0	4.3	4.2	4.4	4.2	4.3	4.3	4.4	3.3

[後期]

設 問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
全学生	3.8	4.0	3.9	4.0	3.9	4.1	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	4.2	3.9
1年	3.9	4.0	3.9	4.0	3.9	4.1	4.0	3.9	4.0	4.1	3.9	4.2	3.9
2年	3.8	4.0	4.1	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	3.8	4.1	3.9	4.3	3.7
3年	3.6	3.8	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9	4.1	3.9	4.1	4.0	4.1	4.3
4年	3.5	4.1	4.1	4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.5	4.2	4.6	4.3

設問6 「教員の教え方には熱意があったか」、設問7 「授業の速さや進め方は適切であったか」、設問8 「教科書・配付資料は活用されていたか」、設問10 「教員の声の聞き取りやすかったか」、設問12 「教員は授業時間を守っていたか」 については全学年を通して前期と同様評価が高い。ただ、1年生と3年生については、3点代の設問がそれぞれ6、7個あり、前期同様全体的に低い。4年生の平均は、設問1の出席率を除き、昨年度及び今年度前期と同じく後期も高い。その一因は、3年間知識を積み重ねたため1～3年の学生よりも授業に対する理解度が高まったことにあると考えられる。この4年生の結果により、理解度が高まればアンケートの結果も良くなり、学生にとって授業もより楽しいものになるであろう。したがって、どの学年においてもわかりやすく、知的好奇心を引き出せるような魅力的な授業作りを今後も心がけていく必要がある。ただ、設問1の出席率の低さはやはりここでも目立つ。全学的になんとか出席率を向上させる取り組みをすることが急務である。

## 4. 設問4 わかりやすさについて

経済学部の授業のうち、わかりやすさに関して、経済学部全科目数17のうち上位5科目は、1「基礎英語Ⅱ(A)」(水1)(4.35)、2「(留)日本事情Ⅰ」(月4)(4.28)、3「英語コミュニケーション(3)」(金1)(4.25)、4「経済史Ⅱ」(月3)(4.20)、5「外国史」(金1)(4.12)である。このうち、2、4、5が、同学部の設問5新しいものの見方の結果についても、それぞれ3位、1位、4位である。また、設問11の教室管理に関しても、4が1位、1が2位、2が4位、5が5位となっており、前期同様、わかりやすく、新しいものの見方や考え方を得

られ、なおかつ静謐な教室環境であるような授業の評価が高いことがわかる。

#### 5. クロス集計データについて

クロス集計データによると、設問11 教室管理の善し悪しは、昨年度及び今年度前期と同様、設問4 授業内容のわかりやすさ、設問8 教科書・配付資料の有効活用、設問9 板書やスクリーンモニターの見やすさ、設問10 教員の声の聞き取りやすさ、と密接に関連していることがわかる。

アンケート結果より、授業内容が学生にとってわかりやすく、資料・教科書や設備が有効活用され、私語やスマホ使用者などが少なく教室管理が行き届き、新しいものの見方や考え方を引き出すことができるような授業であれば、学生の満足度も高まることがわかる。また、そのような授業であれば、当然出席率も向上し、卒業時に学生に対し社会で役に立つような力を身につけさせることができるであろう。だが、授業内容の充実への努力ばかりでなく、学生側の授業に臨む姿勢に関する指導もまた同時に行うことが肝要であることは明らかである。

以上

# 平成 27 年度後期 経営学部授業評価アンケート結果分析

経営学部 FD 委員会

## 1. 実施対象科目数、実施率、コメント提出率

所属名	対象科(A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント 提出率 (C÷B)
【全体】	135	132	97.78	0	0.00
経営学部	27	27	100.00	0	0.00

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	6,988	6,865	4,777	69.58
経営学部	1,914	1,914	1,305	68.18

経営学部の回答率は前回から 5%ほど伸び 68.18%であり、全体平均 69.58%に近い数値であった。全体平均と言う数値の曲者性について触れると、国家試験を目指す人間生活科学部の 2 学科とそうでない社会科学系 3 学部との出席に対する学生の内発的動機付けの違いから、毎回 70%～80%台の前者と 60%台の后者に優位な差があり、全体平均は両群の谷間の数値に過ぎないと見られていた。今回はその傾向が若干変わり、経営学部を含む社会科学系 3 学部とも〔管理栄養学科 78.13%との差は過去同様だが〕教育保育学科 70.37%に迫っている。

回答率の推移は、2014 年まで連続して前期より後期のほうが全般的に低かったが、2014 年度〔前期 61.90 (65.32) < 後期 62.86 (68.13) 〕で初めて後期が前期を上回った。2015 年度も同じ結果〔前期 63.39 (65.9) < 後期 68.18 (69.58) 〕である。この変化をどう捉えるべきか、引き続き前後期を分けて比較する必要があると考える。

経営学部の推移は、前期が 56.8→62.65→62.55→61.90→63.39 と足踏み状態であるのに対し、後期の推移は 50.3→56.22→57.68→62.86→68.18 と上昇傾向にある。この傾向の違いが何によるものかは解明の必要があろう。出席率を飛躍させるためには更なる工夫の取り組みが必要である。出席率は単位取得率を大きく左右する。学生の授業への参加をいかに促していくかは、従来通り大きな課題である。

## 2. 学生視点からのデータ分析

### \* 設問項目 (科目ごとの自由設問、およびフェース確認の設問 A, B, C を省略)

設問	内容
1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか

5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか
13	複数教員による授業は良かったと思いますか
D	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか

**\* 教員所属別平均**

所属	設問	設問 D												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	(Yes 率)
全体	3.7	4.0	4.0	4.0	3.9	4.2	4.0	4.0	4.1	4.2	4.0	4.2	3.8	75.4%
経営学部	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2	4.5	3.7	79.5%

経営学部所属教員担当科目の平均ポイント（上表）を見ると、例年ほとんどの設問で大学全体の平均と同等以上の好評価があったが、今回は設問 13 以外の全てでそれが顕著となった。ただし設問 5「新しいものの見方」（背景色）は、大学平均でも経営学部でも他の設問と比較して評価値がやや低い傾向は変わらず今なお課題である。なお、シラバスを読んで授業に臨んだ割合 79.5% [大学平均 75.4%] は前回大きく伸びた 76.8% [大学平均 74.2%] よりも更に高くなった。昨年は大学全体でシラバス改善の F D 活動がなされた。経営学部においては昨年以來、シラバスに目を通すことを繰り返し学生に伝えていたので、これら努力の結果であると評価できる。

**\* 学生視点<学部全体と学年別>**

留学生の増加に対応し、前回に続き留学生の回答を分けた統計データとしたので詳細な表となった。

注) [留学]は留学生、[除留]は留学生のマークのなかった回答を表す。

設問	学部	3.9	1年	4.1	2年	3.9	3年	3.8	4年	3.4	5年	3.0	前年度1年
1	[留学]	4.1	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.1	3年[留学]	4.0	4年[留学]	3.4	不明	4.0	4.2
	[除留]	3.7	1年[除留]	4.0	2年[除留]	3.7	3年[除留]	3.7	4年[除留]	3.4			
	学部	4.1	1年	4.1	2年	4.2	3年	4.0	4年	3.9	5年	4.0	前年度1年
2	[留学]	4.4	1年[留学]	4.3	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.4	不明	4.7	4.0
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.9	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.9			
	学部	4.1	1年	4.1	2年	4.2	3年	4.0	4年	3.9	5年	4.0	前年度1年
3	[留学]	4.3	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.4	4年[留学]	4.1	不明	4.7	4.2
	[除留]	3.8	1年[除留]	3.7	2年[除留]	3.8	3年[除留]	3.9	4年[除留]	4.0			
	学部	4.0	1年	3.9	2年	4.1	3年	4.0	4年	4.0	5年	5.0	前年度1年
4	[留学]	4.3	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.5	4年[留学]	4.4	不明	4.8	4.0
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.8	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.9			
	学部	4.0	1年	4.0	2年	4.2	3年	4.0	4年	3.9	5年	5.0	前年度1年
5	[留学]	4.3	1年[留学]	4.2	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.5	4年[留学]	3.6	不明	5.0	3.9
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.8	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.8			
	学部	4.0	1年	4.0	2年	4.2	3年	4.0	4年	3.8	5年	5.0	前年度1年

設問 6	学部	4.2	1年	4.2	2年	4.3	3年	4.1	4年	4.2	5年	5.0	前年度1年
	[留学]	4.4	1年[留学]	4.3	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.8	不明	4.8	4.1
	[除留]	4.0	1年[除留]	4.0	2年[除留]	4.0	3年[除留]	4.0	4年[除留]	4.1			
設問 7	学部	4.1	1年	4.0	2年	4.2	3年	4.1	4年	4.0	5年	5.0	前年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.2	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.5	4年[留学]	4.4	不明	5.0	4.0
	[除留]	4.0	1年[除留]	3.8	2年[除留]	4.0	3年[除留]	4.0	4年[除留]	4.0			
設問 8	学部	4.1	1年	4.0	2年	4.2	3年	4.1	4年	4.1	5年	5.0	前年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.3	不明	4.8	4.1
	[除留]	4.0	1年[除留]	4.0	2年[除留]	4.0	3年[除留]	4.0	4年[除留]	4.1			
設問 9	学部	4.1	1年	4.1	2年	4.2	3年	4.0	4年	4.0	5年	5.0	前年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.2	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.5	不明	4.5	4.1
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.9	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.9			
設問 10	学部	4.2	1年	4.2	2年	4.3	3年	4.2	4年	4.2	5年	5.0	前年度1年
	[留学]	4.5	1年[留学]	4.3	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.8	不明	4.8	4.2
	[除留]	4.1	1年[除留]	4.1	2年[除留]	4.0	3年[除留]	4.1	4年[除留]	4.1			
設問 11	学部	4.0	1年	4.0	2年	4.1	3年	4.0	4年	3.9	5年	5.0	前年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.4	4年[留学]	4.1	不明	4.8	4.1
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.8	2年[除留]	3.9	3年[除留]	3.9	4年[除留]	3.9			
設問 12	学部	4.3	1年	4.3	2年	4.3	3年	4.2	4年	4.3	5年	5.0	前年度1年
	[留学]	4.5	1年[留学]	4.4	2年[留学]	4.6	3年[留学]	4.6	4年[留学]	4.9	不明	4.8	4.3
	[除留]	4.2	1年[除留]	4.2	2年[除留]	4.1	3年[除留]	4.1	4年[除留]	4.3			
設問 1~12 平均	学部	4.1	1年	4.1	2年	4.2	3年	4.0	4年	4.0	5年	4.8	前年度1年
	[留学]	4.3	1年[留学]	4.2	2年[留学]	4.5	3年[留学]	4.5	4年[留学]	4.3	不明	4.7	4.2
	[除留]	3.9	1年[除留]	3.9	2年[除留]	3.9	3年[除留]	4.0	4年[除留]	3.9			
設問 13	学部	3.8	1年	3.9	2年	3.8	3年	3.5	4年	3.0	5年	—	
	[留学]	4.1	1年[留学]	4.1	2年[留学]	4.3	3年[留学]	4.5	4年[留学]	3.0	不明	5.0	
	[除留]	3.5	1年[除留]	3.6	2年[除留]	3.5	3年[除留]	3.3	4年[除留]	3.0			
設問 D	学部	79.7%	1年	83.7%	2年	81%	3年	71.8%	4年	79.5%	5年	100%	
	[留学]	87.5%	1年[留学]	93.9%	2年[留学]	40.5%	3年[留学]	98.7%	4年[留学]	82.1%	不明	75%	
	[除留]	71.5%	1年[除留]	71.3%	2年[除留]	70.2%	3年[除留]	69%	4年[除留]	79.3%			

経営学部学生の設問1～12の平均得点は、昨年より伸びたが、ここでは経営学部1年生に着目してみよう。前年度後期から得点が上がった設問を黄、下がった設問を薄紫に色分けすると、得点が上がった設問数より下がった設問数の方が多い。設問1「出席」が前期と同じく昨年同期より少し後退している。設問2「意欲的取組み」は昨年より少し良くなった。設問4「わかりやすさ」は昨年と同じ4.0である。設問5「新しいものの見方」は昨年から0.1ポイント上げ前期と同じく4.0である。

これら3者は一昨年から昨年にかけて改善したが、それ以後は横ばいである。3者と相関の強い（後述のクロス分析結果も参照）設問11「教室管理」も、昨年から0.1ポイント下げ前期と同じく4.0である。この4.0～4.1の頭打ちをいかに突破するかが依然として課題であるように思われる。教室管理にも改善や工夫の余地は残されていると思うが限界はある。「出席」「意欲的取組み」「わかりやすさ」「新しいものの見方」を向上させるためには、授業内容の質的改善は当然として、ゼミ担任の個別指導などを含めた全方位の改善アプローチが求められていると読むべきであろう。

設問3「シラバスにそって」が昨年より0.3ポイント下がった点については、シラバス改善の道半ばであり、学生の理解度に臨機応変に対応した可能性も含めて調査分析する必要がある。これはシラバスを読んで授業に臨ませる施策のあり方と考え合わせるべきテーマである。

なお留学生の回答分布に目を向けると、各学年とも日本人（回答分類では[除留]「留学生を除く」）よりも好評価である。留学生数が著しく増えた1年生についても得点が良いのは、留学生に対し積極的に働きかける諸施策への信頼を伺わせるものである。

### \* クラスサイズ別の「わかりやすさ」と「教室管理」

クラスサイズ別の各設問の得点（下表）をみると、大学全体では、昨年同様、受講者数が少ないほどすべての設問で得点が高くなる大体の傾向が見られた。経営学部についてもほぼ同じだが例外もある。しかし1～100人と101人～200人に規模グループを2分割するとグループの差異が顕著となる。すなわち、「人数が少ないほうが良い授業が作りやすいという一般認識は正しいが、100人以下の場合、人数の如何を問わず工夫次第で良い授業は作りうる」、ということであろう。昨年前期の分析で、これを仮説として提示したが、昨年後期、今年前期・後期と連続して同じ傾向がデータ確認できたので、この仮説はいっそう有力になったと言えよう。これについては引き続き観察を続けたい。

		出席	意欲的取り組み	わかりやすさ	新しいものの見方	教員熱意	板書・スクリーン	教員の声	教室管理	
		授業数	設問1	設問2	設問4	設問5	設問6	設問9	設問10	設問11
全体	1～50人	100	4.1	3.9	4.0	4.2	4.0	4.2	4.0	4.3
	51～100人	21	4.0	4.0	4.0	4.2	4.1	4.2	4.0	4.2
	101～150人	23	3.9	3.9	3.8	4.0	3.9	4.0	3.9	4.1
	151～200人	5	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1	3.9	4.1
	201～250人	3	3.8	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0	3.8	4.0
経営学部	1～50人	14	4.1	4.0	4.0	4.3	4.1	4.3	4.1	4.3
	51～100人	3	4.0	4.0	4.1	4.3	4.2	4.3	4.1	4.3
	101～150人	9	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2
	151～200人	3	4.1	4.0	4.1	4.3	4.1	4.3	4.3	4.2
	201～250人	1	3.8	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0	3.8	4.0
2分割	1～100人	17	4.1	4.0	4.0	4.3	4.1	4.3	4.1	4.3
	101人～	13	4.1	4.0	4.0	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2

### 3. クロス集計について

ここでは昨年と同じく設問11「教室管理」と、設問4「わかりやすさ」、設問8「教科書、配布資料の活用」、設問9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問10「教員の声の聞こえやすさ」の4項目のクロス集計を行なった（詳細データは、設問4×設問11のみ表示し、それ以外は省略）。いずれのクロス集計においても、昨年と同様、大学全体および他学部と同じく、「教室管理」の評価が高ければ、クロス項目の評価も高くなるという強い相関関係が見られる。

		わかりやすさ	設問4					
		教室管理	回答なし	1	2	3	4	5
経営学部	設問11	回答なし	2	2	6			
		1	4	313	81	24	4	4
		2	3	93	397	86	7	2
		3		19	72	105	12	6
		4	1	3	20	9	6	2
		5		1	8	5	1	7

### 4. 「わかりやすさ」、「新しいものの見方」、「教室管理」の結果分析

この分析では、専任教員の担当科目のみならず、兼担の非常勤講師の1科目も含まれている。

#### \* 設問4「わかりやすさ」と設問11「教室管理」結果

設問4「わかりやすさ」について評価平均4.0以上の科目は、28科目中21科目（75.0%）であり、昨年後期〔31科目中17科目で54.8%〕よりも19.3%、今年前期63.6%より11.4%上がった。今後さらなる底上げによる全般の改善へと繋げる励みとして良い。

ビジネスモデル(火1)	4.80
中国語入門(金3)	4.57
消費者商品論(金2)	4.42
中国語入門(金4)	4.42
生活経営論(月2)	4.28
基本簿記(水3.金1)	4.22
税法会計論(月1)	4.20
管理会計と財務分析／管理会計論(水1)	4.19
情報技術の経営学②／コンピュータの基礎(水3)	4.19
(留)市民生活とキャリア形成②(月3)	4.18
英語コミュニケーション(4)／英語コミュニケーション(4)(金2)	4.17
情報技術の経営学①(金2)	4.17
(留)日本事情III(木1)	4.16
地域産業論／ビジネスシステム手法(金3)	4.15
財務会計／財務会計論(木3)	4.13
マーケティング特論(ファッションマーケティング)(水1)	4.11
基本簿記(水3.金1)	4.11
マーケティング論(木1)	4.10
基礎英語II(B)(水1)	4.06
(留)日本事情III(火1)	4.04
人と組織の経営学①(水3)	4.02
経営統計論／マネジメント・エンジニアリング(月4)	3.90
地域情報論(木3.木4)	3.88
市民生活とキャリア形成①(月4)	3.86
人と組織の経営学②／経営管理論(火1)	3.85
基本経営学(金1)	3.82
市民生活とビジネス／市民生活とビジネス(再)／ネットワーク社会とビジネス(木4)	3.81
スキルアップ英語IIB(月3)	3.48

設問11「教室管理」(資料の表示を省略する)は、28科目で18科目(64.3%)が4.0以上を得ており、昨年後期の69.7%より下がった。前期には71.0%まで到達していたので、無視できない下降である。

#### \* 設問5「新しいものの見方」結果

設問5「新しいものの見方」は、下表のとおり、4.0以上は28科目中17科目の60.7%（昨年は33科目中18科目の54.5%）であり、昨年より大幅に向上した。経営学部1年必修の「基本簿記」や、専門共通基礎I「(留)市民生活とキャリア形成②」、専門共通基礎IIの「情報技術の経営学①」が含まれ、また4.0の近傍(3.90)には専門共通基礎I科目が2つ（「人と組織の経営学①」がある点は評価できる。しかしその下位にも経営学部必修の専門科目〔「市民生活とキャリア形成①」など〕がある。経営学部では

専門基礎の学びを重視する体系を目指しており、いっそうの改善が望まれる。

ビジネスモデル(火1)	4.80
地域情報論(木3.木4)	4.38
消費者商品論(金2)	4.37
税法会計論(月1)	4.32
基本簿記(水3.金1)	4.25
地域産業論／ビジネスシステム手法(金3)	4.24
マーケティング特論(ファッションマーケティング)(水1)	4.17
(留)市民生活とキャリア形成②(月3)	4.15
管理会計と財務分析／管理会計論(水1)	4.14
マーケティング論(木1)	4.12
(留)日本事情III(火1)	4.11
中国語入門(金3)	4.10
(留)日本事情II(木1)	4.08
基本簿記(水3.金1)	4.08
情報技術の経営学①(金2)	4.06
生活経営論(月2)	4.02
経営統計論／マネジメント・エンジニアリング(月4)	4.00
人と組織の経営学①(水3)	3.99
人と組織の経営学②／経営管理論(火1)	3.96
中国語入門(金4)	3.96
情報技術の経営学②／コンピュータの基礎(水3)	3.87
市民生活とキャリア形成①(月4)	3.85
基本経営学(金1)	3.76
市民生活とビジネス／市民生活とビジネス(再)／ネットワーク社会とビジネス(木4)	3.74
財務会計／財務会計論(木3)	3.69
英語コミュニケーション(4)／英語コミュニケーション(4)(金2)	3.61
基礎英語II(B)(水1)	3.55
スキルアップ英語IIB(月3)	3.41

## 平成 27 年度後期 人間生活科学部教育保育学科 授業評価アンケート結果分析

今回の授業評価アンケート対象科目数は19であり、17の回収があった。回収率は89%であった。学生の回答率は、教育保育学科教員担当科目について68%であったが、これは教育保育学科の学生の出席率を表すものではなく、共通科目の回答数をも含めているので、おそらく教育保育学科の学生の出席率はもっと高いと推察する。

次に、今回の授業評価アンケートの所属教員別平均は、学部学科別で、総合的にみて一番高いのが経営学部、次に管理栄養学科、経済学部、教育保育学科、法学部の順になった。これにより、学生の授業満足度が測られる、はずだったが、今回は以下のことが分かり、必ずしも上記の順位が授業満足度とは即応しないと考えられることが分かった。

それは、経済学部と経営学部との学生について、今回は日本人学生と留学生との別を確認する項目を作り、日本人学生と留学生との回答を比較したところ、全回答項目について有意な差が認められた。一言でいうと、留学生の回答は、軒並み高いポイントを示した。たとえば、2015年入学の学生の場合、問13の「教員は授業時間を守っていましたか」という設問に対して、経営学部の日本人学生は3.7ポイントの評価だったのに対して、留学生は4.2ポイントと評価に差が生じた。経済学部でも、ほぼ同じような差があった。全体的に、留学生の評価が高く、日本人学生の評価は低かった。これがそのまま授業評価そのものの差異として認められるのか、それとも文化的、社会的、認識的、あるいは慣習的な何らかのずれによって生じた誤差であるのか、斟酌の必用なところである。

教育保育学科と法学部との評価が概して低かったのは、この2学部・学科については、留学生がほとんどいないという理由が考えられるのであり、それからして学部間の授業評価のポイントの差をそのまま教員の授業の質の高低に直結させるのには問題があることを述べておく。

その上で、教育保育学科の教員のアンケートの回答に目を通すと、設問1の「あなたはこの授業によく出ましたか」これだけが、管理栄養学科教員4.4ポイントについて4.1ポイントと2位である。先に述べたようにこの数字は共通科目など他学部他学科の学生の回答も含んだ数字ではあるが、概して教育保育学科の教員担当する科目は当該学科の専門科目であることが多いので、教育保育学科の学生の出席率が高いだろうことの傍証とはなる考える。

次に、個々の教員の回答を設問4「授業内容は分かりやすかったとおもいますか」と設問5「この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたとおもいますか」について比較してみた。「分かりやすい」ことと「知的興味が得られる」ことに相関関係があるかを知るためである。結果からいうと、それは相関関係を認められた。おそらく、

学生にとっては自分が「理解できる」「腑に落ちる」ことによって、初めて「知識」として認識されることを示しているのだろう。だが、この相関は、学生に背伸びを求めてあえて高度な内容を授業することの難しさを示してもいる。それというのも、たとえば教育保育学科の学生には、卒業後に小学校や幼稚園の教員、あるいは保育士として活躍することが求められるのだが、そのためには高度な知識や技術を授業する必要性が生じる。それを修得しないことには教員採用試験や公務員採用試験において十分な成績を取ることができず、学生の望む職業に就くこともままならなくなるのが予想される。つまり、分からないけれども、知的興味が喚起される授業が必要な場合が想定されるということである。これは学生にとっても授業者にとっても厳しいことかも知れないが、将来の課題として、ここに登録しておきたいと思う。

なお、設問4と設問5との相関において高いポイントを記した科目が、座学というよりも実技的な演習科目だったこともここで見ておく必要がある。学生は、座学的な講義科目を嫌っているとも読みうるのであり、この数値によって授業者の授業方法に問題があるとは、直ちに断言できない。教員養成課程、保育士養成課程においては、演習科目と講義科目とを個々の学科で独自に入れ換えることは制度的にできない。したがって、個々の科目の特質を踏まえて、データを分析する必要がある。

平成 27 年度後期 人間生活科学部管理栄養学科  
授業評価アンケート結果分析

1. 実施概要

所属名	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数(F)	回答率 (F÷E)
管理栄養学科	1,111	1,111	868	78.13
全体	6,988	6,865	4,777	69.58

アンケート対象は、管理栄養学科の専任教員担当科目のうち 26 科目であり、回収率は 100.0%であった。

2. 管理栄養学科所属教員の平均および学年別結果

- ・ 管理栄養学科に所属する専任教員担当科目の平均は、設問 1～12 の中で設問 3 以外全て 4.0 以上であった。
- ・ 学年別にみると、1、2、3、4 年生の平均はそれぞれ 4.1、4.0、4.2、3.7 であった。

設問	内容	平均	1 年	2 年	3 年	4 年
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	4.4	4.6	4.4	4.3	3.5
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	4.1	4.1	4.1	4.1	3.4
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.9	3.8	3.9	4.0	3.6
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	4.0	3.9	3.9	4.1	3.6
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたか	4.0	4.0	3.9	4.1	3.5
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.1	4.2	4.0	4.3	3.7
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.0	4.0	3.9	4.1	3.7
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか	4.1	4.2	4.2	4.1	4.0
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたか	4.1	4.1	4.0	4.2	3.8
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか	4.2	4.2	4.1	4.3	4.2
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか	4.0	4.1	4.0	4.1	3.7
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか	4.2	4.3	4.1	4.3	4.1
D	あなたはこの授業のシラバスを読みましたか	1.4	1.4	1.2	1.4	1.4

3. 授業のわかりやすさ及び知的関心、授業・教室管理

授業のわかりやすさ(設問 4)、新しいものの見方や考え方を得られたか(設問 5)および授業・教室管理(設問 11)について、非常勤教員も含めた管理栄養学科の結果を一覧にした(表 1、2、3)。3 項目を一覧すると、順位の若干上下はあるものの、評価の良い科目悪い科目は 3 項目間で相関する傾向が見られた。

4. クロス集計

クロス集計は、授業・教室管理(設問 11)とわかりやすさ(設問 4)、教科書・配布資料の活用(設問 8)、板書やスクリーン・モニターの見やすさ(設問 9)声の聞き取りやすさ(設問 10)と行った。いずれも、教室・授業管理について高い評価を得ている場合、クロス項目の評価も高値を示す傾向が見られた(表 4)。

表1 わかりやすさ

食品学実験 II(1組)(木 1.木 2.木 3)	4.68
食品学 II(1組)(金 3)	4.39
公衆衛生学 II(1組)(火 2)	4.35
解剖生理学実習(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.31
臨床栄養学 III(1組)(月 3)	4.30
臨床栄養学実習 II(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.27
公衆栄養学 I(1組)(月 3)	4.19
公衆衛生学実習(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.18
給食経営管理論 II(1組)(金 2)	4.15
栄養教育論 I(1組)(月 4)	4.08
食品機能学(火 5)	4.04
応用栄養学 II(1組)(金 1)	4.00
栄養教育論実習 I(1組)(火 2.火 3.火 4)	3.94
栄養教育論演習(1組)(木 2.木 3)	3.91
調理学実習(1組)(火 1.火 2.火 3)	3.89
臨床栄養学 I(2組)(木 5)	3.88
調理学(1組)(金 2)	3.86
給食経営管理論実習(1組)(木 1.木 2.木 3)	3.83
基礎栄養学実習(1組)(火 2.火 3.火 4)	3.82
生命の科学/生命科学(火 3)	3.82
病態学 II(1組)(木 5)	3.79
生化学 II(1組)(金 1)	3.73
基礎栄養学 II(1組)(金 3)	3.66
生化学実験 II(1組)(木 1.木 2.木 3)	3.57
解剖生理学 II(1組)(火 5)	3.50

表3 授業・教室管理

公衆衛生学 II(1組)(火 2)	4.39
調理学実習(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.38
調理学(1組)(金 2)	4.24
栄養教育論 I(1組)(月 4)	4.22
食品機能学(火 5)	4.22
給食経営管理論 II(1組)(金 2)	4.21
臨床栄養学 III(1組)(月 3)	4.20
公衆栄養学 I(1組)(月 3)	4.19
解剖生理学実習(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.19
食品学 II(1組)(金 3)	4.18
臨床栄養学実習 II(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.14
栄養教育論実習 I(1組)(火 2.火 3.火 4)	4.10
食品学実験 II(1組)(木 1.木 2.木 3)	4.09

表2 新しいものの見方や考え方

解剖生理学実習(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.50
公衆衛生学 II(1組)(火 2)	4.30
食品学実験 II(1組)(木 1.木 2.木 3)	4.29
食品学 II(1組)(金 3)	4.29
臨床栄養学実習 II(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.27
臨床栄養学 III(1組)(月 3)	4.25
公衆栄養学 I(1組)(月 3)	4.16
調理学実習(1組)(火 1.火 2.火 3)	4.14
給食経営管理論 II(1組)(金 2)	4.12
給食経営管理論実習(1組)(木 1.木 2.木 3)	4.11
食品機能学(火 5)	4.08
栄養教育論実習 I(1組)(火 2.火 3.火 4)	4.06
栄養教育論演習(1組)(木 2.木 3)	4.05
栄養教育論 I(1組)(月 4)	4.03
公衆衛生学実習(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.00
病態学 II(1組)(木 5)	3.91
応用栄養学 II(1組)(金 1)	3.91
基礎栄養学実習(1組)(火 2.火 3.火 4)	3.88
生命の科学/生命科学(火 3)	3.85
生化学実験 II(1組)(木 1.木 2.木 3)	3.84
調理学(1組)(金 2)	3.83
解剖生理学 II(1組)(火 5)	3.82
臨床栄養学 I(2組)(木 5)	3.81
生化学 II(1組)(金 1)	3.76
基礎栄養学 II(1組)(金 3)	3.71

公衆衛生学実習(1組)(金 1.金 2.金 3)	4.05
応用栄養学 II(1組)(金 1)	3.97
臨床栄養学 I(2組)(木 5)	3.97
給食経営管理論実習(1組)(木 1.木 2.木 3)	3.92
病態学 II(1組)(木 5)	3.91
基礎栄養学実習(1組)(火 2.火 3.火 4)	3.91
栄養教育論演習(1組)(木 2.木 3)	3.91
基礎栄養学 II(1組)(金 3)	3.90
生化学 II(1組)(金 1)	3.86
生化学実験 II(1組)(木 1.木 2.木 3)	3.86
解剖生理学 II(1組)(火 5)	3.62
生命の科学/生命科学(火 3)	3.47

表4 授業・教室管理（設問11）とのクロス集計

		教室・授業管理(設問11)					
		回答なし	1	2	3	4	5
わかりやすさ(設問4)	回答なし	3	0	0	1	0	0
	1	0	172	45	12	0	1
	2	4	52	327	55	11	1
	3	0	11	43	74	7	1
	4	0	3	11	10	4	2
	5	0	3	5	3	2	5

		教室・授業管理(設問11)					
		回答なし	1	2	3	4	5
教科書・配布資料の活用(設問8)	回答なし	3	0	5	3	2	0
	1	0	195	84	22	4	2
	2	3	34	294	56	7	1
	3	0	9	42	67	6	4
	4	1	3	6	5	2	0
	5	0	0	0	2	3	3

		教室・授業管理(設問11)					
		回答なし	1	2	3	4	5
板書やスクリーン・モニターの見やすさ(設問9)	回答なし	4	13	31	9	1	
	1	0	178	62	24	4	2
	2	2	34	285	54	10	3
	3	0	15	44	64	5	1
	4	1	1	7	4	0	0
	5	0	0	2	0	4	4

		教室・授業管理(設問11)					
		回答なし	1	2	3	4	5
声の聞き取りやすさ(設問10)	回答なし	4	0	0	0	0	0
	1	0	201	97	41	10	2
	2	2	29	293	44	7	3
	3	0	6	32	64	2	1
	4	1	4	7	5	3	0
	5	0	1	2	1	2	4

## 平成 27 年度後期授業評価アンケート結果分析（兼任・非常勤講師担当分）

### I. 実施率／コメント回収率／学生の回答率について

前期授業評価アンケート対象科目のうち、兼任講師担当は 3 科目、非常勤講師担当は 28 科目であった。

実施科目の内訳は情報科目 5、留学生用日本語 12、学部学科専門科目 11、強化指定クラブ所属学生対象科目 2、教職科目 1 であった。

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント提出率 (C÷B)
【全体】	135	132	97.78		
兼任・非常勤	31	31	100		

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	6,988	6,865	4,777	69.58
兼任・非常勤	973	973	658	67.63

回答率が全体に比べ低いことは、欠席者（失格者を含む）が多いことを示している。後述するように 50 人以下の小クラスが 8 割以上を占め、さらにそのうちの 6 割以上は 20 人前後の演習系（情報、日本語）であることが関係していると思われる。すなわち、出席管理が厳しく行われ、初期に欠席を続けたことで実習系の学習から脱落した学生が多いと推測できる。

### II. 集計結果について

#### 設問項目

1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか

6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか
D	あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

### 1. 31科目の平均ポイント

設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問D(Yes率)
4	4.2	4	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.1	4.3	56.4%

全ての設問について4.0以上で、学部学科別平均ポイントよりも高い。下記3の3項目（設問4、5、11）結果を見ると明らかであるが、留学生向け日本語科目におけるスコアが高いことが関係していると思われる。

### 2. クラスサイズ別の平均ポイント

履修者数	クラス数	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問D(Yes率)
1-50	26	4.1	4.2	4.0	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.1	4.3	58.9%
51-100	5	3.9	4.1	4.0	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2	4.0	4.2	4.1	4.3	51.2%

1～50人のクラスが26であるが、このうち情報科目5クラスは20人以下、日本語科目12クラス20人前後の小クラスである。51～100人のクラスのスコアも出席についての設問1を除けば4以上であり、適切に授業が行われたことがわかる。

### 3. 「わかりやすさ」「新しいものの見方」「教室管理」について

#### (1) 演習科目（担当者別平均）

留学生対象の日本語科目は非常に高いスコアを示している。必修科目ではないが、習熟度別にクラスを指定し、レベルにあった授業が展開されている。最後まで授業を受けた学生の評価は高いことが分かる。

科目群	担当者	担当科目数	わかりやすさ	新しいものの見方	教室管理
情報	A	2	4.63	4.63	4.63
	B	2	4	4	4.33
	C	1	4	4	4
(留)日本語	D	4	4.39	4.21	4.18
	E	2	4.65	4.43	4.2
	F	2	4.2	4.21	4.11
	G	2	4.54	4.5	4.54
	H	1	4.73	4.73	4.36
	I	1	4.70	4.30	4.20

#### (2) 学部学科等専門科目

科目群	科目名	わかりやすさ	新しいものの見方	教室管理
経済専門	地域経済と消費者①	3.84	3.84	3.84
	消費者教育論	3.97	3.90	4.07
	中小企業論	3.71	3.68	3.87
経営専門	マーケティング特論 (ファッションマーケティング)	4.11	4.17	4.11
教育保育 専門	特別支援教育論	4.49	4.47	4.12
	社会的養護内容	3.56	3.88	3.31
	保育者論	4.50	4.58	4.36
	乳児保育(1組)	4.30	4.39	4.00
	乳児保育(2組)	4.25	4.50	4.10
管理栄養	健康管理論(2組)	4.64	4.61	4.42

専門	食品衛生学実習 I(1組)	3.66	3.86	3.94
強化指定 クラブ所属 学生対象	(ス)スポーツとトレーニング	4.31	4.16	4.16
	(ス)スポーツと栄養	3.80	3.92	3.88
教職	(教)教師論	4.34	4.34	4.37

学部学科の専門科目については、科目所属の学部学科結果分析に加えることになっているので、数値のみ提示する。

強化指定クラブ所属学生対象科目 2科目は「スポーツと栄養」のスコアが3項目とも4.0以下である。「スポーツとトレーニング」には問題はない。

教職科目「教師論」は目的意識を持った学生を対象とした少人数クラスであることがスコアと関係していると思われる。

#### 4. 「教室管理」との4項目クロス集計について

設問 11「教室管理」と、設問 4「わかりやすさ」、設問 8「教科書、配布資料の活用」、設問 9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問 10「教員の声の聞こえやすさ」の4項目のクロス集計結果（詳細データは省略）では、いずれのクロス集計においても、「教室管理」のポイントが高ければ、クロス項目のポイントも高くなるという強い相関関係が見られた。

以上